

都市住民と村落住民についての社会心理学的研究

報告書1：都市住民と村落住民についての社会心理学的研究（1）
—その目的と方法—

金児 暁嗣

報告書2：都市住民と村落住民についての社会心理学的研究（2）
—異文化受容態度—

向井 有理子
渡部 美穂子
河野 由美

報告書3：都市住民と村落住民についての社会心理学的研究（3）
—都市化におけるソーシャル・サポート・ネットワーク：
インフォーマル・ネットワークとフォーマル・ネットワーク—
堀江 尚子

報告書4：都市住民と村落住民についての社会心理学的研究（4）
—親友との間に生じる沈黙のとらえ方—

宮崎 弦太

資料

- ・ 質問紙
- ・ クロス集計表

都市住民と村落住民についての社会心理学的研究（1）

—その目的と方法—

金児 暁嗣 (KANEKO Satoru)

(大阪市立大学)

はじめに

多くの人が都市での生活は、人間関係の希薄化や他者への冷淡な態度をもたらし、心理的ストレスを高めるものであるとイメージすることだろう。「都会の人は冷たい」というのは本当だろうか。本当であるならば都市の何がそのような現実を作り出してしまうのだろうか。

本学が「21世紀COEプログラム」に採択され、平成14年度に行われた「都市住民と村落住民の生活様式と価値観の特徴」研究プロジェクトでは、都市文化の現状と都市民の生活について、様々な角度から村落地域と比較することによって明らかにした(金児・河野・渡部・向井・岸川・堀江・宮崎, 2003ほか)。また、Wirth (1938) のアーバンイズム理論に示されているような、都市化が人々の生活を悪い方向、例えば人間関係の希薄化や強い心理的ストレスなどをもたらすのか検証した。

プロジェクトにともなう一連の研究の中には、このことを支持する結果が得られたものもあった(堀江・金児・河野・渡部・向井・岸川・宮崎, 2003; 河野・金児・渡部・向井・岸川・堀江・宮崎, 2003)。しかし、都市化が他者との関係に必ずしもマイナスの影響のみを与えているわけではないことも示された。向井・金児・河野・渡部・岸川・堀江・宮崎 (2003) では異文化や外国人との関係では都市化がプラスの影響を与えていると示されている。Fishcer (1976, 1982) の下位文化理論は、都市化が人間関係の希薄化や強いストレスを必ずしももたらすものではないとしている。渡部・金児 (2004) は、都市に住むこと自体が、自尊心や死観など様々な面で肯定的な影響を与えていると述べている。

この「都市住民と村落住民についての社会心理学的研究」では、前回の研究を踏まえつつ、さらに一歩進み、都市化の与える影響についてより詳細に検証することによって、明確な都市の人間像をとらえることが目的である。本研究は、都市住民と村落住民を対象に、自尊心、地域意識、死生観、日本と外国への態度、友

人関係、ソーシャル・サポートなどについて質問紙調査をするとともに、面接による聞き取り調査を実施し、都市化に伴って起こる現象をより具体的にとらえる。それによって、様々な価値観や人間関係に関して、都市化の影響を多角的にとらえることが可能である。

方法

調査地域の選定

都市の対象地域として、大阪の24の行政区のうち、2002年度の「関西圏住民の生活様式と価値観の特徴」調査の対象地域であった区、1世帯人数や外国人人口比率に他の区と著しい違いのある区を除いた15区を対象地域とした。対象地域は、都島区、福島区、大正区、天王寺区、西淀川区、東成区、旭区、住吉区、東住吉区、淀川区、鶴見区、住之江区、平野区、北区、中央区の15区である。

村落地域の対象地域としては、兵庫県、和歌山県、奈良県、滋賀県、京都府の市町村の中から、平成12年国勢調査の結果に基づき、ランダムサンプリングが可能な程度の人口があり、なおかつ人口密度の低く、第1次産業従事者が比較的多い地域を12地域選出して対象地域とした。対象地域は、和歌山県九度山町、広川町、金屋町、川辺町、南部川村、京都府京北町、京丹後市(旧久美浜町地域)、兵庫県上月町、温泉町、奈良県室生村、山添村の12地域である。

調査対象者

各地域から5つの地点を無作為に選び、有権者名簿を用い、20歳以上80歳以下の住民から各地点20名ずつ、計2700名(大阪市1500名、村落地域1200名)を対象者として無作為に抽出した。2002年度の「関西圏住民の生活様式と価値観の特徴」調査では各年代、性別に対象者が均等に分類されるように抽出を行った。しかし、実際には村落地域は若年者割合が低く、高齢者の割合が高いため、そのままでは結果が村落地域の特徴をそのまま表しているとは言いがたい。よって本研究ではより実際の人口構成比率が反映されるように、年代や性別を区別せず、サンプリングを行った。大阪

市の方が、抽出人数が多いのは、郵送調査による都市部の返却率の低さを考慮に入れたためである。

調査方法

対象者それぞれに調査票を郵送し、回答後は郵送による返却を求める方法によって調査を行った。返送率は大阪 30.8%，村落 41.2%，全体 35.4%，有効回答率は大阪 30.5%，村落 40.6%，全体 35.0%であった。参加者数は都市が 458 名（男性 196 名，女性 262 名），村落が 487 名（男性 236 名，女性 251 名）の合計 945 名（男性 432 名，女性 513 名）であった。平均年齢は全体 54.21 歳（SD=15.94），都市 52.12 歳（SD=16.33），村落 56.18 歳（SD=15.31）であった。

質問内容

Table1 に示した質問項目について、対象者全てに同じ順序で回答を求めた。

引用文献

- Fischer, C. S. (1976) *The urban experience*. New York: Harcourt Brace Jovanovich. (松本康・前田尚子訳 1996 『都市的体験—都市生活の社会心理学』未来社)
- Fischer, C. S. (1982) *To dwell among friends: Personal networks in town and city*. Chicago, IL: The University of Chicago Press. (松本 康・前田尚子訳 2002 『友人のあいだで暮らす—北カリフォルニアのパersonal・ネットワーク』未来社)
- 堀江尚子・金児曉嗣・河野由美・渡部美穂子・向井有理子・岸川真理子・宮崎弦太 (2003) 「都市住民と村落住民の生活様式と価値観の特徴 (6) —ソーシャル・サポートの受容とネットワークの多層性—」, 日本社会心理学会第 44 回大会発表論文集, 732-733.
- 金児曉嗣・河野由美・渡部美穂子・向井有理子・岸川真理子・堀江尚子・宮崎弦太 (2003) 「都市住民と村落住民の生活様式と価値観の特徴 (1) —都市と村落の宗教行動—」, 日本社会心理学会第 44 回大会発表論文集, 722-723.
- 河野由美・金児曉嗣・渡部美穂子・向井有理子・岸川真理子・堀江尚子・宮崎弦太 (2003) 「都市住民と村落住民の生活様式と価値観の特徴 (2) —コミュニティ意識と宗教性—」, 日本社会心理学会第 44 回大会発表論文集, 724-725.
- 向井有理子・金児曉嗣・渡部美穂子・河野由美・岸川真理子・堀江尚子・宮崎弦太 (2003) 「都市住民と

村落住民の生活様式と価値観の特徴 (4) —自尊心と異文化への態度—」, 日本社会心理学会第 44 回大会発表論文集, 728-729.

渡部美穂子・金児曉嗣 (2004) 「都市は人の心と社会を疲弊させるか?」『都市文化研究』, 3, 97-117.

Wirth, L. (1938) Urbanism as a way of life. *American Journal of Sociology*, 44, 3-24

Table1:質問内容一覧

問題番号	質問内容
問1	生育環境
問2	これまでで一番長く住んだ地域と年数
問3	現在の地域に住むことになったきっかけ
問4	引越し経験
問5	引越し回数
問6	自己と他者の差異への意識
問7	自尊心尺度
問8	日本と外国への態度尺度
問9	同調-非同調尺度
問10	感情バランス尺度
問11	地域意識尺度
問12	家族で行う行事・祝い事
問13	家族・親族間のサポート
問14	親しい友人・知人の数と関係
問15	親友との関係
問16	公的サポート
問17	人間関係満足度
問18	宗教行動
問19	宗教観尺度
問20	仏壇・神棚・墓の有無
問21	信仰している宗教
問22	異文化接触体験度
問23	同調行動タイプ
問24	相互協調・相互独立自己意識尺度
問25	自己の死観
問26	身近な人の死の経験
問27	亡くなった大切な人
問28	大切な人
問29	経験した他者の死観
問30	他者の死観
問31	生活満足度
問32	慣習追従
F1	性別
F2	生年
F3	既婚歴
F4	子どもの有無
F5	同居家族
F6	居住形態と年数
F7	教育年数
F8	職業
F9	健康状態
F10	経済状態
F11	年収

都市住民と村落住民についての社会心理学的研究 (2)

一異文化受容態度一

○向井 有理子¹(MUKAI Yuriko), 渡部 美穂子²(WATABE Mihoko), 河野 由美³(KONO Yumi)

(¹大阪市立大学大学院文学研究科,²大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センターCOE 研究員,³藍野大学)

はじめに

グローバル化時代と呼ばれる現在、人も物も国境を越えて盛んに移動している。これまで多くの研究で取り上げられてきた異文化受容とは、何らかの事情により異国で生活することになった人々がいかにして現地の文化や人と付き合っていくのかということに主眼が置かれていた。しかし、現在、特に都市部では外国の人や物とどのように付き合っていくのか、それらをいかに許容していくのかは、外国に移住した人だけの問題ではなく、自国にいる多くの人々の問題としてもクローズアップされつつある。かつては、都市部とはいえ、ごく限られたアジアなどの国々からの移民以外とは接触する機会もなかったが、近年ではありとあらゆる国々から人や物が流入するようになって来た。こうした傾向は今後ますます進み、たとえ自国に居住し続けるとしても異文化とのかかわりなしに生活することは困難になっていくだろう。流入する異文化、特に外国人移民との関係をいかに円滑にするかは今後行政、教育が考えなければならない課題となるだろう。

本研究は、流入する異文化、特に外国人への受容的で好意的な態度を規定する要因は何であるのか、またその態度は実際に友好的な行動へとつながっているのかについて明らかにすることが目的である。

異文化受容態度と都鄙性

都市と村落を比べたとき、明らかに都市の方が異文化と出会う機会が多いことが考えられる。都市は古くから外界から入ってくる人や物の玄関口であり、現在のグローバル化においてももっとも進んだ地域である。また、新しい文化や価値観の発信地でもあり、新奇なものや変化を受け入れつつ発展してきた地域である。向井・金児・渡部・河野・岸川・堀江・宮崎 (2003) では、都市で育った者の方が村落で育った者よりも異文化に対し受容的な態度を示していた。さらに、都市で育った者では、異文化に対し受容的な態度を示すことが死の脅威を低め、自尊心を高める働きをもつことが示唆された。

これは、都市に住むことによる異文化体験の多さ、都市のより異文化化された環境がもたらしている結果なのだろうか。向井・金児・渡部 (2004) における日本とドイツの比較では外国人人口比率が高く、異文化により開放的な政策をとっている地域の方が、異文化への受容的態度が高かった。しかし、向井・金児・渡部 (2005) では必ずしも、他民族が混在するような社会の方が、異文化受容態度が高くなるということはいえなかった。塘 (1999) でも環境の異文化度の高さや個人の異文化経験と異文化受容態度が比例するわけではないと示されている。だとすれば、向井ほか (2003) で示された日本の都市育ちのひとつにおける異文化受容態度の高さは、都市という地域自体が直接に異文化に対し受容的な態度に影響を与えていると考えられまいか。このことは、都市という地域に居住すること自体が自尊心を高める働きをしていることを示した渡部・金児 (2004) の結果からも示唆される。

このように都市という地域に特徴的な別の要素が異文化受容に影響を与えたのだろうか。向井・金児・渡部 (2005) では日本においては生育環境の都市度の高さが異文化受容態度の高さと比例的な関係であることが示されている。また、自尊心が死の脅威を低めることを通じ、異文化受容態度を高めることが示されている。向井ほか (2003) では個人の異文化体験は測定されておらず、異文化接触体験の違いがそのまま異文化接触体験によるものなのかどうかについては答えられない。本研究においては、この点を含め、異文化受容態度を規定する要因をより詳細に検討し、日本における居住地域や生育環境の都鄙による異文化受容態度の違いの根本について明らかにしたい。

研究 1

研究 1 では異文化への受容的な態度の都鄙性による違いを明らかにし、さらに異文化受容態度を規定する要因について都市と村落の違いを明らかにしたい。

日本においては向井ほか (2003) で都鄙性による異文化受容態度の違いが示されており、本研究において

も、居住地域や生育環境が都市であるほど異文化に対し受容的な態度を示すと予想される(仮説1)。

下位文化理論(Fischer, 1976)によると、古くからの異文化接触の舞台であった都市の人間は、その接触のもたらす2つの側面を共存させ、共有された様式を持ちながら様々なエスニシティを存続させている地域とされている。また向井ほか(2003)においても都市で育った者には異文化への受容的な態度が評価される態度としてより根付いていることが示唆されている。これらから、異文化接触体験の多さにかかわらず、生育環境の都鄙性自体が異文化受容態度に影響を与えていると予測した(仮説2)。

ただ、明らかに異文化接触体験の多さでは都市の方が村落よりも多いことが予測される。恐怖管理理論(Greenberg, Solomon, & Pyszczynski, 1997)によると、人は文化的世界観と自尊心によって死の脅威を抑制し、自身の普遍性を保障している。よって、異文化の存在は自文化の普遍性を侵し、ひいては自身の普遍性を侵すものである。死に対し脅威を感じている場合、異文化はより脅威なものとしてとらえられるため、否定的な死観は異文化受容態度を妨げることが予測される(仮説3)。しかし、村落地域に住んでいる場合、異文化は身近なものではなく、たとえ異文化を受け入れることを想定した場合でも自文化への脅威とは実感されにくいのではないかと考えられる。そのため、村落地域では死観による影響は都市部に比べ、少ないと予測した(仮説4)。

予備調査

向井ほか(2003)で使用された日本と外国への態度尺度では、都市、村落共に高い異文化受容態度が示されたが、それは異文化交流等に無関心であることからくる表面的な受容態度と関心が高いが故の受容態度を区別できなかった。また、日本への外国人の同化を求めるような受容態度と外国人へこちらが合わせていこうとするような受容態度も区別することができなかった。

しかし、Greenberg, et al. (1997)は歴史的に考えると、異文化に出会い、受け入れる場合の態度として同化、調節という2つの態度を挙げている。つまり、相手を自分の文化に同化させようとする場合と相手の文化をある程度受入れ、合わせていこうとする場合があることを指摘している。また、移民の文化変容の過程においても、優勢文化との関係を保持している状態であっても、相手の文化に同化してしまう場合と、相手の文

化と自分の文化の両方のアイデンティティを保持している場合があるとされている(渡辺, 2002)。このように、異文化との友好的な関係を築こうとする態度も1通りのものではない。さらに、受容しようという気持ちを持っていても、実際に受容的な行動を行うのかどうかについては様々な角度から異文化への態度を調べなくてはならない。

本研究ではより詳細に異文化への態度について調べるために、向井ほか(2003)の日本と外国への態度尺度の項目に加えて、外国人に日本への同化を求める項目、外国人が暮らす日本に向けて自分たちが変わろうとするような項目、外国人に対する構えや緊張、警戒心を示す項目、国際化や異文化交流には無関心であることを示すような項目を加え、尺度を作成するため、予備調査を行い、新たな尺度を作成することにした。

方法

参加者: 大阪市立大学の学生 300 名 (男性 155 名, 女性 145 名, 平均年齢 19.52 ($SD=4.57$)) を対象に 2005 年 7 月に集合調査を行った。

質問項目

日本と外国への態度: 向井ほか(2003)の日本と外国への態度尺度の下位尺度、愛国心尺度に2項目、外国人拒否尺度に3項目を加えた計24項目に、外国人の日本への同化を促す(同化)項目10項目、外国人による日本の変化を求める(調節)項目10項目、外国人への警戒や緊張を表す項目10項目、異文化交流への無関心についての項目8項目を加えた計62項目を使用した。回答は1「まったくそう思わない」～5「とてもそう思う」の5件法によって求めた。

結果

日本と外国への態度尺度

因子分析の結果、6因子が抽出された(18項目削除、プロマックス回転)。第1因子は「わざわざ特別な努力をしてまで外国の人と交流したいとは思わない」(反転)、「他の民族の文化をもっとよく知りたい」などが高く負荷し、異文化交流への関心の高さを示していると考えられるため、「関心」と名づけた。第2因子は「私は日本人であることを誇りに思う」「日本人は価値ある民族だと思う」などが高く負荷していたため、「愛国心」因子とした。第3因子は「日本人に比べ外国の人は信用できない感じがする」「日本人に比べ外国の人は信用できない感じがする」などの外国人への否定的態度を示す項目が高く負荷しており、「否定的態度」因子とした。第4因子は「外国の人を前にするとつい身構えてしまう」「外国の人がたくさん集まっているとなんとな

く怖く感じる」などの項目が高い負荷を示しており、「警戒心」と、第5因子は「外国の文化を積極的に取り入れることは、日本にとってよいことである」「外国の人が住むのに不便だと感じるような習慣はないほうがよい」が高い負荷を示しており、「開放・調節」因子と名づけた。最後の第5因子は「日本に住む外国の人には日本人と同じような生活スタイルを目指してほしい」「外国の人だけの集まりなどをするのは好ましくない」が高い負荷を示しており、「限定・同化」因子と名づけた。

本調査においてはこれらの因子に高く負荷したものを4項目ずつ（第5因子のみ3項目）を採用し、日本と外国への態度尺度の下位尺度項目として使用することにした。

本調査

方法

参加者と手続き：参加者と調査方法については、都市住民と村落住民についての社会心理学的研究(1)参照のこと。

使用尺度

日本と外国への態度尺度：予備調査で得られた23項目について、1「まったくそう思わない」～5「とてもそう思う」の5件法で回答を求めた。

生育環境：生育環境に関する問に1「農村地帯」、2「山村地帯」、3「漁村地帯」、4「半農半漁村地帯」と答えた人を村落育ちの者、5「少し市街地化が進んでいるが、農村・漁村としての形がまだ残っている地帯」と答えた人をやや村落育ちの者、6「ほとんど市街地化されていて、その中にごく少数の農家・漁家が見られる地帯」と答えた人をやや都市育ちの者、7「大都市」と答えたものを都市育ちの者として分類した。

自尊心：向井ほか(2003)で使用した自尊心尺度(10項目、5件法)を使用した。

地域意識尺度：河野・金児・渡部・向井・岸川・堀江・宮崎(2003)の地域意識尺度の下位尺度、協同意識(8項目)、愛着意識(5項目)、プライバシー意識(2項目)について、協同意識を3項目削除し、プライバシー意識を3項目追加した計15項目を使用した(4件法)。

自己の死観尺度：渡部・金児(2004)で使用された自己の死についての死観尺度を使用した(6件法)。

異文化接触度尺度：実際に人との接触を伴うもの(「外国人の友人がいる」「外国に住んだことがある」など)から、メディアを通じたもの(「海外のドラマや映画をよく見ている」など)まで、様々な異文化接触体験を

7項目用意し、それらの経験があるかないか、2件法で回答を求めた。7つの項目についてその経験があると答えた数を合計し、異文化接触得点とした。

人間関係満足度：周囲の全ての人間関係について総じてどの程度満足しているかについて、6件法で回答を求め、満足度が高いほど値が高くなるように計算した。

慣習追従：世間の慣習に従った方が間違いがないと思う程度について、慣習に従うと考える程度を3件法によって答えてもらった。

生活満足度：現在の生活についてどの程度満足しているか、4件法で回答を求めた。

結果

尺度の因子分析

自尊心尺度：主因子法による因子分析の結果、1因子構造であることが確かめられた(Table1参照)。これについてクロンバックの信頼性係数を求めたところ、 $\alpha = .85$ と高い値を示した。よって、自尊心尺度として尺度構成を行い、自尊心が高くなるほど得点が高くなるように各自の自尊心得点を求めた。

Table1：自尊心の因子負荷行列表

		負荷量	M	SD
I: 自尊心 ($\alpha = .85$)				
7)	なにかにつけて、自分は役に立たない人間だと思う	.67	2.14	0.90
6)	少なくとも人並みには、価値のある人間である	-.64	3.59	0.87
2)	自分はまったくだめな人間だと思えることがある	.60	2.31	1.03
10)	周囲の人は私には能力がないと思っている	.60	2.43	0.84
8)	周囲の人にとって、私はなくてはならない存在である	-.60	3.31	0.88
9)	私はいろいろな良い素質を持っている	-.60	3.31	0.84
1)	自分は社会の役に立つ人間である	-.59	3.26	0.87
5)	私は周囲の人に信頼されていない	.59	2.34	0.84
3)	自分には自慢できるところがあまりない	.57	2.73	0.98
4)	私はどのような人の前でも堂々としていられる	-.50	3.06	1.03

地域意識尺度：主因子法(プロマックス回転)による因子分析の結果、3因子が抽出された(1項目削除、Tble2参照)。各因子について尺度構成を行い、協同意識尺度($\alpha = .77$)、愛着意識尺度($\alpha = .80$)、プライバシー意識尺度($\alpha = .68$)として、各尺度得点を算出した。

Table2: 地域意識尺度の因子負荷行列表

	I	II	III	Mean	SD
I : 地域協同意識 ($\alpha = .77$)					
9) 自分達の生活環境をよくするために、地域での活動に参加するのは当然だ	.82	-.10	.14	3.07	0.70
1) 地域活動に参加して、さまざまな世代や職業の人と交流したい	.72	-.13	-.13	2.59	0.76
6) 地元の行事や祭りには積極的に参加したい	.68	.10	-.05	2.73	0.82
14) 地域活動には、日中に時間のある人だけでなく、勤めている人も参加すべきだ	.50	.03	.03	2.77	0.76
12) 地域の人は助け合うのが大切だ	.46	.12	-.03	3.37	0.56
II : 地域愛着 ($\alpha = .80$)					
13) 自分の今住んでいるところは住みよいところだ	-.11	.77	-.06	3.05	0.73
3) いま住んでいる地域に、誇りや愛着のようなものを感じている	.07	.75	.00	2.89	0.82
5) できるなら、いつまでもこの地域に住み続けたい	.01	.75	.10	2.97	0.84
11) 私は自分の住んでいる地域のことばかりが好きだ	.01	.58	-.07	2.89	0.78
III : プライバシー意識 ($\alpha = .68$)					
15) 子育てに関して他人が口を出すべきではない	-.02	-.07	.70	2.55	0.77
7) 子育ては、その子の親にまかせておくのがよい	.06	-.05	.65	2.59	0.78
4) 近隣でもプライバシーに介入しないのが現代生活のルールだ	.03	.04	.55	3.13	0.69
2) 他人の家庭の問題に口を出すべきではない	.00	.05	.47	3.19	0.73
10) 近所づきあいは、あまり深入りせず浅くつきあうほうがよい	-.28	.00	.38	2.81	0.74
寄与率	2.21	2.12	1.63		
因子間相関	I	.57	-.03		
	II		.17		

削除項目

8) 私は〇〇(市・町・村・区)民だという気持ちを持っている

Table3: 自己の死観尺度の因子負荷行列表

	I	II	III	IV	V	Mean	SD
I : 恐怖と苦痛 ($\alpha = .89$)							
21) 私の死は、私にとって最大の恐怖である	.85	-.07	.01	-.01	.01	3.44	1.41
7) 死は、私にとって最後の苦しい瞬間である	.79	.03	.03	-.03	.08	3.50	1.35
5) 私の死の瞬間を考えると息がつまる	.78	-.02	-.08	.08	-.01	3.30	1.36
25) 私の死について考えると無性に恐ろしくなる	.74	-.04	-.04	.13	-.01	3.21	1.37
3) 私にとって、自分自身の死とは最後の不幸なできごとである	.69	-.03	.07	.00	-.03	3.33	1.41
18) 死は、私にとって苦しみの究極の姿である	.69	.15	.04	.04	.06	3.22	1.28
II : 消滅と虚無 ($\alpha = .80$)							
11) 死後、時間とともに私の存在は帳消しになっていく	-.07	.73	-.06	-.04	.06	3.89	1.31
12) 私は死ぬことによってすべてを失う	.31	.64	-.07	.01	-.07	3.43	1.42
14) 死は私自身のすべての終わりである	.21	.64	.01	-.12	-.03	4.03	1.39
26) 私が死んでもまわりの状況は何ひとつ変わらない	-.23	.63	.06	.19	-.07	3.87	1.37
27) 死とは私が永久になくなってしまふことである	.19	.61	.10	-.16	-.08	4.07	1.46
1) 私が死んだからといって、世界が変わるわけではない	-.17	.41	.15	-.15	.17	4.93	1.10
III : 逃避と未知 ($\alpha = .78$)							
17) 私の死についてはよく分らない	.03	.01	.76	-.09	.15	4.45	1.15
15) 私の死について真剣に考えることはあまりない	-.07	-.06	.74	.07	-.05	3.98	1.26
16) 私の死について考えるのは難しい	.13	-.10	.70	-.06	.10	4.19	1.20
22) 私の死について考えてもしかたがない	-.04	.15	.69	.03	-.03	4.26	1.30
23) 死がやってくるまで、私の死について考えなくてもかまわない	-.04	.17	.61	.22	-.18	3.85	1.33
IV : 浄福な来世 ($\alpha = .78$)							
9) 死ぬと、私は清められて生まれ変わることができる	.11	-.12	.01	.78	.07	3.00	1.30
24) 死ぬば私はもっとよい世界へ行ける	.07	.06	.03	.76	-.07	2.92	1.30
4) 死ぬと私はまた別の世に生まれ変わって、よい人生を送ることができる	.09	-.19	.08	.75	.00	3.02	1.37
13) 私の死は、私が人生の素晴らしさを実感できるひとつの機会である	-.24	.25	-.05	.38	.35	3.41	1.27
V : 正の証と人生の集大成 ($\alpha = .77$)							
20) 死ぬまでに私は何か生きた証を残したい	.09	-.15	.06	-.09	.73	4.17	1.22
19) 死は私がどう生きたのかの集大成である	-.02	.09	-.03	.04	.73	3.98	1.24
10) 死ぬ時に、何かこの世に自分で納得のゆく大きな意味を残せるように私は精一杯生きたい	.05	-.12	.08	-.04	.68	4.40	1.15
8) 死は、私が立派にやりとげなければならない重要なできごとである	.05	.22	-.14	.21	.50	3.68	1.30
寄与率	3.83	2.59	2.55	2.15	2.04		
因子間相関	I	.30	.15	.12	.25		
	II		.35	-.12	-.01		
	III			-.05	-.03		
	IV				.30		

削除項目

6) 私の死は未知のことがらである

2) 今死ぬば、私はあらゆる可能性を試さないままに終わってしまう

Table4: 日本と外国への態度尺度因子負荷行列表

	I	II	III	IV	V	M	SD
I: 否定的態度 ($\alpha = .75$)							
13) 外国の人の日本滞在についてはもっと厳しい法律と取り締まりが必要だと思う	.71	.01	-.02	-.09	-.02	3.61	1.01
7) 最近の日本の治安の悪化には在日外国人の増加が関係していると思う	.64	.09	.00	-.13	-.01	3.66	1.05
16) 外国の人の住む地域を限定したほうが、社会の秩序を保てると思う	.57	-.12	-.04	.15	.02	2.28	1.01
22) 外国の人だけの集まりなどをするのは好ましくない	.53	-.01	.02	.02	-.07	2.79	1.02
18) 日本人に比べ外国の人は信用できない感じがする	.51	-.02	.11	.07	-.08	2.95	1.00
5) 日本に住む外国の人には日本人と同じような生活スタイルをめざしてほしい	.44	.05	-.04	.08	.11	2.79	1.07
1) 海外援助をするなら、日本の利益にならないような援助はすべきではない	.41	.01	-.06	.07	.01	2.85	1.21
II: 愛国心 ($\alpha = .73$)							
17) 私は日本人であることを誇りに思う	-.11	.91	.00	.02	-.10	4.18	0.91
11) 日本人は価値ある民族だと思う	.07	.63	-.02	-.10	.11	4.11	0.89
6) 生まれ変わるとしたら、また日本人に生まれたい	-.02	.54	.08	.15	-.02	4.09	1.02
23) 日本が戦後に驚くほどの経済成長をとげたのは、国民が優秀だからだ	.32	.42	-.05	-.04	.06	3.69	1.01
III: 緊張 ($\alpha = .70$)							
9) 外国の人を前にするとつい身構えてしまう	-.08	-.01	.78	-.03	.01	3.14	1.09
19) 日本人と話すときに比べ、外国の人とは緊張してうまく話すことができない	-.09	.05	.75	.05	.04	3.57	1.13
12) 外国の人がたくさん集まっているとなんとなく怖く感じる	.24	-.03	.59	-.03	-.05	3.16	1.10
IV: 無関心(個人的受容) ($\alpha = .70$)							
2) 特別に外国の文化に接する機会をつくらうとは思わない	.02	-.01	.03	.64	.12	2.58	1.06
8) 他の民族の文化をもっとよく知りたい	.10	.05	.04	-.61	.16	3.67	0.96
20) 異なる民族の友人がたくさんほしい	-.03	-.10	.04	-.58	.10	3.08	1.07
14) わざわざ特別な努力をしてまで外国の人と交流したいとは思わない	.15	.03	.04	.57	.06	3.10	1.05
V: 一般的受容 ($\alpha = .69$)							
10) 外国の文化がたくさん入ってきてこそ、日本の文化を発展させることができる	.09	.01	-.02	.05	.75	3.54	0.94
21) 外国の文化を積極的に取り入れることは、日本にとってよいことである	-.01	-.04	.02	.00	.71	3.66	0.88
4) もっと日本人はいろいろな部分で外国の人を受け入れていかなければならない	-.21	.03	.03	-.05	.48	3.56	0.92
寄与率							
因子間相関	I	1	.38	.43	.46	-.32	
	II		1	.05	.06	.18	
	III			1	.39	-.23	
	IV				1	-.61	

削除項目

- 3) 隣の家に外国の人が住むことになったら近所づきあいなどの面で不安を感じる
 15) 外国の人が住むのに不便だと感じるような習慣はないほうがよい

自己の死観尺度: 主因子法、プロマックス回転による因子分析の結果、5因子構造であると判断された。各因子はそれぞれ、「恐怖と苦痛」、「消滅と虚無」、「逃避と未知」、「浄福な来世」、「生の証と人生の集大成」と名づけられた。各因子について高く負荷した項目を用いて尺度構成を行い ($\alpha = .77 \sim .89$)、それぞれの尺度得点を求めた。

日本と外国への態度尺度

日本と外国への態度尺度について、主因子法(プロマックス回転)による因子分析を行ったところ、5因子を抽出した(2項目削除)。第1因子を「否定的態度」、第2因子を「愛国心」第3因子を「緊張」、第4因子を「無関心(個人的受容)」、第5因子を「一般的受容」とそれぞれ名づけた(Table4参照)。

予備調査において見られた「限定・同化」因子は「否定的態度」因子に吸収された形となった。また、

無関心因子と一般的受容因子の因子間相関が非常に高い。これらは大いに関係していると考えられるが、スクリプロットなどから、別の因子として扱うことにした。

これらについて尺度構成を行い(信頼性係数 $\alpha = .69 \sim .75$)、尺度得点を算出した。ただし、第4因子に高く負荷した項目については、得点が高いほど関心が高くなるように尺度得点を算出し、個人的受容尺度として使用した。

都鄙性による異文化受容態度の違い
居住地域

各尺度の得点について、居住地域の都鄙別に t 検定を行った。その結果、緊張得点 ($t(909) = 2.65, p < .01$) と個人的受容得点 ($t(906) = 2.04, p < .05$) の差のみ有意な差であった(Fig.1参照, 中位点3)。これは仮説1を支持する結果はであるが、一般的な受容得点や外国人への否定的態度については予測した結果はえら

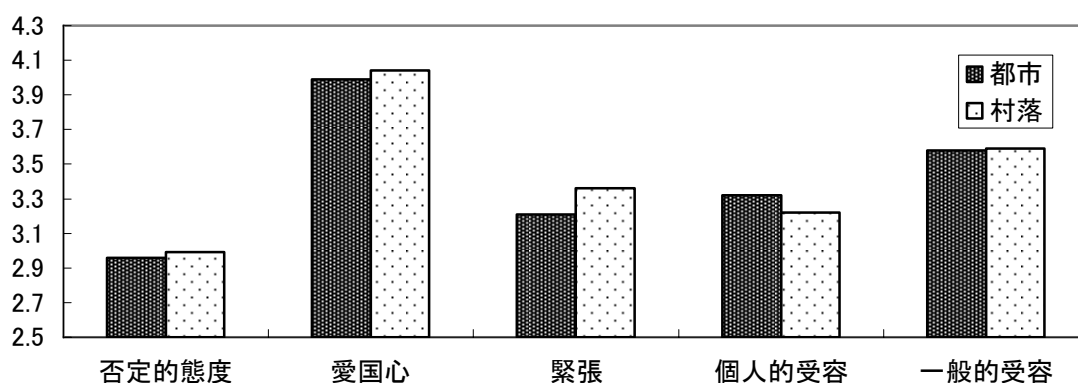


Fig.1: 日本と外国への態度 (居住地の都鄙別平均値)

Table 5: 各尺度平均値 (居住地域別)

	都市		村落		都鄙差の 検定結果
	Mean	SD	Mean	SD	
自尊心	3.5	0.59	3.4	0.58	**
地域意識尺度					
協同意識	2.8	0.51	3.0	0.51	***
愛着	2.9	0.61	3.0	0.64	
プライバシー意識	2.8	0.48	2.9	0.50	
宗教観尺度					
向宗教性	3.3	1.15	3.5	1.02	***
加護観念	4.1	0.84	4.3	0.78	***
靈魂観念	3.4	1.06	3.5	0.98	*
独立依存 (独立得点)	2.4	0.41	2.3	0.36	*
自己の死観尺度					
恐怖と苦痛	3.2	1.08	3.5	1.10	***
消滅と虚無	4.0	0.98	4.0	0.92	
逃避と未知	4.1	0.95	4.1	0.98	
浄福な来世	3.0	1.10	3.0	1.18	
生の証と集大成	4.0	0.93	4.1	0.95	
人間関係満足度	4.2	0.83	4.2	0.76	
生活満足度	2.8	0.79	2.9	0.74	
慣習	2.0	0.29	2.1	0.35	*
年齢	52.1	16.35	56.0	15.36	***
同居人数	2.9	1.45	4.3	2.16	***
居住年数	19.8	16.01	38.2	20.73	***
教育年数	12.9	2.75	12.0	2.62	***
健康状態	2.8	0.99	2.8	0.99	
経済状態	2.8	1.09	2.9	1.07	
年収	2.6	1.70	3.0	1.90	***
引越し回数	3.4	2.30	2.5	1.95	***

注) * $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

れなかった。異文化接触得点についても同様の分析を行ったところ、都市 ($M=1.54$, $SD=1.46$) と村落 ($M=0.92$, $SD=1.08$) には予測どおり、有意な差が見られた ($t(808)=7.30$, $p<.0001$)。

また、その他の主な変数についても居住地の都鄙性による差について同様の検定を行った (Table 5 参照)。都市は自尊心が高く、相互独立的な自己観を有し、引越し回数、教育年数が高かった。また、村

落は、都市に比べると、協同意識が高く、宗教を信じ、自己の死を怖いと思い、慣習には従った方がよいと考える。年齢や同居人数、居住年数も村落の方が有意に高い値であった。

生育環境

各尺度の得点について、4つの生育環境別に比較するため、1要因の分散分析を行った。その結果、

いずれにおいても生育環境の都鄙性の主効果が有意であった（否定的態度 $F(3,850)=2.86$ $p<.05$, 愛国心 $F(3,862)=3.02$ $p<.05$, 緊張 $F(3,867)=3.03$ $p<.05$, 個人的受容 $F(3,865)=5.84$ $p<.01$, 一般的受容 $F(3,870)=3.33$ $p<.05$ ）。それぞれについて Tukey の HSD 検定による多重比較を行ったところ、否定的態度においては村落育ちとやや村落育ちの間の差が 10%水準で有意な傾向があり、愛国心の村落育ちとやや都市育ちの間の差、緊張の村落育ちと都市育ちの間の差も 10%水準で有意な傾向があった。個人的受容では村落育ちとやや都市育ちの間の差が 1%水準で有意であり、村落育ちと都市育ちの間の差が 5%水準で有意であった。一般的受容では、村落育ちと都市育ちの差と、やや村落育ちと都市育ちの間の差がいずれも 10%水準で有意な傾向があった (Fig.2 参照, 中位点 3)。

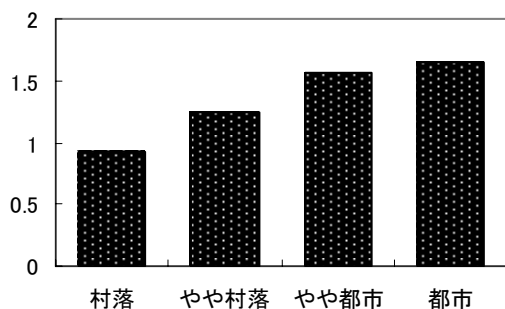


Fig.3:異文化接触体験度の生育環境別平均値

この結果からは、都市部で育った人の方が異文化

に対し、関心が高く、受容的であり、警戒心もやや少ないということが考えられる。個人的受容ではほぼ仮説 1 を支持する結果が得られたが、一般的受容や否定的態度、外国人への緊張度については十分に仮説を支持しているとは言いがたい。

また、異文化接触経験についても同様の 1 要因分散分析を行ったところ、生育環境の都鄙性の主効果が有意であった ($F(3,856)=19.62$ $p<.001$)。Tukey の HSD 検定による多重比較の結果、村落育ちとやや都市育ち、村落育ちと都市育ちの間の差が 0.1%水準で有意であり、より都市で育つほど異文化接触経験が多いことが明らかになった。この差は大きく、居住地域の結果と合わせて考えると村落で育ち、その後も村落に居住し続けている人は極端に異文化接触経験が少ないということが考えられる。異文化接触経験が居住地域や生育環境の都市化とほぼ比例的な関係を示しているのに対し、異文化への態度については必ずしも同様の比例関係とは言えない。

その他の変数においても生育環境の主効果について分散分析を行った (Table6 参照)。自尊心については、生育環境の主効果は 5%水準で有意なものであったが、Tukey の HSD 検定による下位検定の結果では、生育環境が村落の人と都市の人の間の差が有意水準 10%で有意な傾向があったのみである。

全体として、都市出身者の方が、村落出身者に比べ、地域協同意識が弱く、宗教を信じず、加護の念も持たなく、自己の死を怖いとは感じていないという結果であった。また、村落出身者の方が年齢、同居人数、居住年数は高いが、教育年数は低いということも示されている。

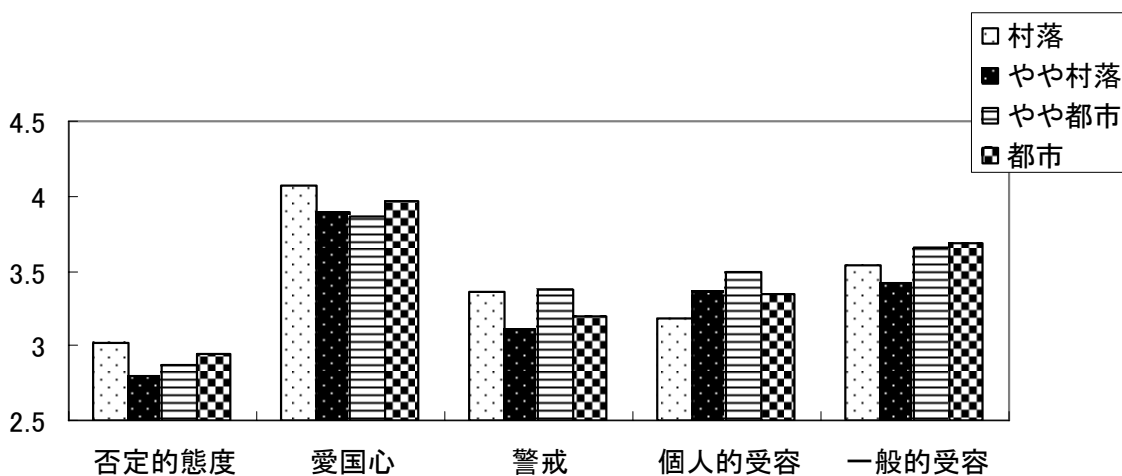


Fig.2:日本と外国への態度(生育環境の都鄙別平均値)

Table 6 : 各尺度平均値 (生育環境別)

	村落		やや村落		やや都市		都市		都鄙差の 検定結果
	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	
自尊心	3.4	0.59	3.5	0.60	3.6	0.54	3.5	0.61	*
地域意識尺度									
協同意識	3.0 ^a	0.52	2.9 ^a	0.43	2.0 ^a	0.43	2.3 ^b	0.51	***
愛着	3.0	0.65	2.9	0.60	2.8	0.58	3.0	0.59	+
プライバシー意識	2.9	0.50	2.8	0.49	2.3	0.46	2.8	0.47	+
宗教観尺度									
向宗教性	3.3 ^a	1.03	3.3 ^{ab}	1.07	3.6 ^a	1.1	3.2 ^b	1.16	***
加護観念	3.5 ^a	0.80	3.3 ^{ab}	0.71	3.6 ^{ab}	0.77	3.2 ^b	0.82	***
靈魂観念	3.5	1.00	3.4	1.08	3.6	0.97	3.3	1.08	*
独立依存 (独立得点)	2.3	0.36	2.4	0.37	2.4	0.39	2.4	0.40	+
自己の死観尺度									
恐怖と苦痛	3.5 ^a	1.08	3.1 ^{ab}	1.16	3.1 ^b	0.97	3.2 ^b	1.08	***
消滅と虚無	4.1	0.93	4.1	0.99	3.7	0.91	4.0	0.99	+
逃避と未知	4.1	0.96	4.1	0.99	4.0	0.92	4.2	0.97	
浄福な来世	3.0	1.18	2.9	1.14	3.0	1.07	2.9	1.07	
生の証と集大成	4.1	0.92	4.0	1.00	4.2	0.76	4.0	0.97	
人間関係満足度	4.2	0.79	4.3	0.74	4.2	0.70	4.2	0.83	
生活満足度	2.8	0.78	2.9	0.75	2.9	0.82	2.8	0.73	
慣習	2.1	0.36	2.0	0.24	2.0	0.31	2.0	0.28	
年齢	57.0 ^a	15.00	51.4 ^{ab}	15.85	46.2 ^b	15.73	50.9 ^b	16.69	***
同居人数	4.1 ^a	2.19	3.1 ^b	1.62	3.6 ^{ab}	2.07	3.1 ^b	1.45	***
居住年数	36.9 ^a	20.91	22.3 ^{bc}	21.43	14.5 ^b	14.37	21.4 ^c	16.22	***
教育年数	11.8 ^a	2.59	12.6 ^{ab}	2.97	13.8 ^b	2.22	13.2 ^b	2.66	***
健康状態	2.8	1.01	2.7	0.87	2.7	0.98	2.7	0.98	
経済状態	2.9	1.07	2.9	1.17	2.9	1.10	2.8	1.06	
年収	2.9	1.86	2.6	1.66	2.7	1.68	2.7	1.78	
引越し回数	2.6 ^a	1.88	3.5 ^{ab}	2.57	3.6 ^b	2.78	3.2 ^b	2.13	***

注1) + $p < .10$, * $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

異文化受容態度への影響因

より詳しく異文化受容態度を規定する要因を調べるため、居住地域別に日本と外国への態度尺度の各下位尺度を目的変数とした重回帰分析を行った (Table 7 参照)。

その結果、異文化受容態度に関しては、地域の人々との結びつきや地域活動を重視する協同意識やプライバシー意識が大きな影響を与えており、外国人に関わらず、大きな人間関係の枠組みに対する態度が外国人や異文化への態度にも表れていると考えられる。特に都市部ではプライバシー意識の影響が強く、都市の特徴である人間関係一般の希薄化はここでも大きな影響を与えていると思われる。緊張に関しては地域意識の影響はなく、この異文化接触体験と慣習追従傾向の影響が強いことが特徴である。異文化

接触体験は個人的受容と緊張に特に大きな影響を与えている。居住地域による差が有意なことの原因の一つがこの異文化接触体験の差であることは間違いないといえるだろう。しかし、生育環境の都鄙性はいずれの態度においても有意な規定因ではなく (仮説 2 不支持)、育った地域自体が異文化受容態度に直接の影響を与えているわけではないことがわかった。

死観については、全体として、死に対して脅威を抱いていることは異文化受容態度に否定的な影響を与え、死を肯定的受容的にとらえる態度は異文化受容態度にプラスの影響を与えている。これは仮説 3 を支持する結果である。しかし、村落地域と都市地域において都市の方がより死観による影響が大きいということではなく、むしろ、村落地域の方が死観の影響が強い (仮説 4 不支持)。

Table 7: 重回帰分析の結果(地域別の標準偏回帰係数)

目的変数	否定		愛国心		緊張		個人的受容		一般的受容		
	都市	村落	都市	村落	都市	村落	都市	村落	都市	村落	
地域											
自尊心	-.08	.03	.17 **	.09 +	-.19 **	-.09	-.04	.14 **	.13 *	.06	
地域意識尺度	協同意識	-.07	.04	.13 *	.20 **	-.10	.04	.19 ***	.16 **	.20 **	.13 +
	愛着意識	-.10 +	.05	.15 **	.14 *	.09	.09	.03	-.08	.00	-.09
	プライバシー意識	.33 ***	.12 *	.10 +	.21 ***	.09	-.07	-.23 ***	-.05	-.21 ***	.10 +
異文化接触経験	異文化接触経験	-.11 *	-.14 *	-.07	-.09	-.27 ***	-.18 **	.30 ***	.29 ***	.13 *	.07
	生育環境	-.02	.02	.00	.04	-.01	-.01	.04	.01	.20 ***	.06
	引越し回数	-.03	-.08	.13 **	-.04	.00	-.01	-.02	.05	.04	.10 +
	人間関係満足度	-.10	-.11 +	.09	.02	.01	-.12 *	.16 **	.04	.03	.12 +
	生活満足度	.06	-.05	.03	-.02	.01	.06	-.06	-.04	-.04	-.09
	慣習追従	.05	-.02	-.02	-.05	.11 *	.16 **	.03	-.04	.09 +	-.03
	性別	-.10 *	-.06	.00	-.05	.19 ***	.03	.06	.02	-.05	-.02
	年齢	.23 ***	.24 ***	.19 **	.12 +	-.07	-.20 **	-.16 **	-.07	.00	-.04
	教育年数	.06	.05	-.14 *	.00	.09	-.02	.11 +	.01	-.02	.02
	健康状態	-.06	-.02	-.05	.02	-.02	-.03	.01	.05	.00	.01
	年収	.11 *	-.09	.05	.05	-.01	-.03	-.04	.05	-.05	.02
	自己の死観尺度	恐怖と苦痛	.06	.20 ***	.04	.09	.16 **	.24 ***	-.12 *	-.11 +	-.05
消滅と虚無		-.04	.00	.04	.03	.03	.06	.10 +	-.07	.09	.08
逃避と未知		.03	-.02	.05	-.10 +	-.07	-.04	-.04	-.09 +	.02	.01
浄福な来世		.15 **	.00	.13 *	.04	-.04	.08	.10 +	-.04	.08	.15 *
生の証と人生の集大成		.01	.01	.10 +	.03	.02	-.04	.12 *	.10 +	.16 **	.16 **
調節済みR ²	.25 ***	.18 ***	.32 ***	.22 ***	.19 ***	.16 ***	.40 ***	.25 ***	.21 ***	.11 ***	

注1) 性別は男性が0, 女性が1

注2) + $p < .10$, * $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

考察

研究1から、異文化接触体験が異文化受容態度を高める影響が非常に強いことが示された。すなわち、異文化との接触の機会が大きい都市部は異文化理解の機会が増え、異文化を受容しやすい態度が形成されると考えられる。これは、たとえ村落地域でも、異文化接触の機会さえあれば都市部と変わらない態度が形成されることを示唆している。

村落地域と都市地域において異文化受容態度の規定因には大きな違いは見られなかった。異文化受容態度については村落と都市の違いは地域そのものの直接的な影響によるものではなく、異文化接触体験度や年齢を初めとした地域の特徴が引き起こした結果であると考えられる。

また、死観については、死に対し否定的な考えを持っていることは異文化受容にマイナスの影響を与えていることが示された。これは向井ほか(2005)の研究の結果とも一致している。このことから、自尊心については、異文化受容態度に対し、直接の影響はあまり見られないが、死の脅威を和らげることを通して間接的に異文化受容態度に影響を与えていると考えられる。

いずれの態度についても協同意識とプライバシー意識が影響している。都市部においては近隣の地域社会に外国人が含まれている場合も考えられるが、

村落地域においてはあまり考えられない。よって、このことは、人間関係や地域社会に対する一般的な積極性や拒絶性の影響と考えられるのではないだろうか。

以上より、環境が異文化化され、異文化接触体験が増えることは異文化受容態度の形成に大きな影響を持つが、同時に自尊心を維持し、死の脅威をやわらげるような状況や地域の人間関係への積極性などもまた異文化受容態度を左右していることがわかった。よって、たとえ同じ都市部でもこれらの状況が違えば異文化受容態度は変わってくる。環境の異文化化と異文化受容態度が必ずしも比例関係にならないことの原因はここにあると考えられる。

また、異文化受容態度を促進するためには、向井(2003)で述べたように安定して高い自尊心を維持できる仕組みも重要である。異文化受容態度の形成を促すためには、自尊心を規定する要因を明らかにすることも必要である。

また、たとえ異文化に受容的な態度を有していたとしても実際に異文化と交流する場合にはどのような行動をとるのかについても更なる研究が必要である。研究2では異文化受容態度と異文化受容行動の関係について、研究1で使用した外国への態度尺度と現在行われている異文化交流との関係から検証を行った。

研究2

異文化の受容に関してどのような態度を持っているか、これまで測定してきたが、実際にこれらは異文化の受容行動へとつながっているのだろうか。研究1で作成した外国への態度尺度は異文化受容行動の予測を可能にしているのか。また、異文化接触経験はどのようにして異文化受容態度を形成していくのだろうか。これらについてより具体的に検証すべく、聞き取りによる調査を実施した。

研究1の外国への態度尺度の個人的受容得点や一般的受容得点が高い者は必ず異文化受容行動を多く行っているのだろうか。態度が必ずしも行動を予測しないことは多くの先行研究によって自明である。よって、本研究では、2つの受容得点が高いものを対象に異文化受容行動の実際を調査、検討した。

方法

参加者：研究1の、否定的態度得点、緊張得点、個人的受容得点、一般的受容得点から大阪市内在住者4名と村落地域在住者3名に対し、半構造化面接による聞き取り調査を行った。いずれの参加者も個人的受容得点、一般的受容得点が高いが、他の2つの得点のうちどちらかが相対的に高い者が4名、どちらも得点が相対的に低い者が3名であった。

手続き：対象となった参加者に対し、自宅または変わりになる静かな場所で1人約1時間程度の面接を行った。面接は原則として対象者と面接者である筆者のみの状況で行われた。

質問内容：以下①～④についてはほぼ同じ順序で質問を行った。本研究では主に②の実際に行われている異文化交流について分析を行った。

- ① 外国人と言われてイメージする対象とはどのようなものか
- ② 実際に行っている、もしくは行ったことがある外国人や外国文化との交流について。実際には何も行っていない場合には行ってみたい交流について。
- ③ 隣や近くに外国人が引っ越してきたとしたらどのように感じるか。実際にすでに隣や近所に住んでいる場合には、どのような付き合いを行っているのか。
- ④ 近所づきあいや一般的な人間関係について

結果と考察

否定的態度得点と緊張得点が低い人の場合

事例1 (大阪市内, 男性, 50代)：友人・知人に大

勢の外国人がおり、家族ぐるみの付き合いもしている。環境的にも外国人と出会う機会がおおく、特別な感じはない。英会話を習った経験、海外渡航経験、ホストファミリーの経験などがある。20歳の頃2ヶ月ほどアメリカに滞在したことから、語学も堪能になり地域のイベントでは通訳を行うこともある。また、その滞在経験から、大いに影響を受け、世界が広がった。アメリカ人にも色いろいろなのだということがわかった。

事例2 (大阪市内, 男性, 30代)：オーストラリア人を中心に多くの友人がいる。周囲にも多くの外国人がおり、外国人だからといって特別に意識することはない。以前の職場は非常に外国人が多い職場だったし、小さい頃から外国人から話しかけられることがあった。高校時代ホームステイをした経験があり、その後、白人や黒人には話しかけやすくなった。言葉が通じなくても何とかなると感じる。

事例3 (大阪以外, 男性, 40代)：職場に外国人がおり、性格から積極的に交流を行っている。その中から友人になった人もいる。仕事の中で国際交流を進めることを行っている。海外に移住した親戚がおり、物や手紙のやり取りがあった。小さいときに海外のテレビ番組などを好んで見ていた。大学時代には多くの外国人を見る機会があり、徐々に物珍しさや特別な感じはなくなった。職場に外国人がいることによってより垣根がないように感じている。

この3例に共通して言えることは、いずれも環境的に外国人との接触が多いことと、そうした人々との交流に積極的であることである。また、語学ができる、できないに関わらず語学による壁を感じていないことも共通する特徴である。また、周囲にたくさん外国人が増えることになったとしても特に意識することはないと考えている。さらに、いずれも自身を社交的で、外国人に限らず友人関係を築くことが得意であると感じている。

緊張得点が高い人の場合

事例4 (大阪市内, 女性, 60代)：日常生活で外国人を見かけることはあるが実際にはほとんど交流をしていない。海外の紀行文や考古学、絵画などに興味があり、外国への関心はある。もう少し身近にいれば話ができるように思われるが、語学ができないので街で見かける外国人に声をかけることはできない。

隣や近所に越してくる外国人がいれば友達になれると思う。若ければ海外でのボランティア活動や留学をしてみたいと感じている。

事例5 (大阪以外, 男性, 60代): 海外旅行以外には外国人とは接する機会がない。1人だけ近くに住んでいる人がいるがあえて親しくなろうと行動を起こしてはいない。ホームステイや英会話などは若いときならばやってみたいと感じる。子どもたちが交流することは良いことだと思うし、反対しないが年齢的に今から自分があえて行動を起こす気持ちはない。

この2例の共通点は実際にはあまり交流していない点である。事例4の人については好奇心はあるが実際にはなかなか行動に移すきっかけがないという様子であるのに対し、事例5の人は異文化交流に対してあまり関心を持っていない。また、周囲に外国人が増えるということについては、事例4の人は、最初は警戒するだろうが、そうなることでいずれよりよい多文化共生が実現されると考えている。しかし、事例5の人にとってはたくさんの外国人が周囲に増えること自体、現実味に欠けるという印象を持っていた。

否定的態度得点が高い人の場合

事例6 (大阪市内, 男性, 70代): 親しい友人に外国人の人はいないが、若い頃から知人や近隣の家へホームステイにくる人などとの交流はある。その経験から自分もホストファミリーをしてみたいと強く思っている。家庭の事情から実現できてはいないが、事情さえ許せばしようという意欲は強い。言葉は得意ではないが身振り手振りでコミュニケーションをとることができると感じている。周囲にたくさんの外国人が住むようになることに関してはあまり現実味を感じない。

緊張得点, 否定的態度得点共に高い人の場合

事例7 (大阪市内, 男性, 70代): 戦前、小さいときには差別的な教育を受けていたが、戦後、日本史を知る中で韓国、中国への関心が高まった。現在では在日韓国、中国人の人との付き合いが深い。若い頃にそうした人の多いところで働いたことによって、日本人でも外国人でも同じだという意識を持つようになり、現在では積極的に付き合っている。そうした経験はとてよかったと感じており、外国人との付き合いを通して人間の本質を知ることできると感じている。しかし、周囲にあまりに外国人が増え

ることには抵抗を感じる。

いずれの事例においても共通する点は、もしも隣に外国人の家族が越してきたとしても、特に抵抗を感じることはなく、おおむね歓迎するという態度である。しかし、事例5と事例7の人については、向こうから来る場合には拒むつもりはないが、自分から積極的に親しくなる行動を起こしたいとは考えていなかった。また、村落地域である大阪以外の事例5と事例6の人からは定住外国人の増加はあまり身近には感じられないようであった。また、いずれの事例においても、外国人に限らず、人間関係を不得手、苦手だと感じている人はおらず、友人関係については積極的であると思っていた。

外国人との交流があった場合の影響について、事例1, 事例2, 事例3, 事例7の人は外国人だからといって特別ではないという意識を持つに至ったと述べている。緊張得点の高い人は実際には交流を行っていない。研究1において、緊張得点については他の影響が弱く、異文化接触体験が主な影響を与えていた。これらのことから、異文化接触体験は外国人との接触に対する緊張や警戒を弱め、その結果、より積極的な異文化交流行動を引き出すことが考えられる。

また、外国への態度尺度と行動の関係では、2つの受容得点が高いだけでなく、否定的態度、特に緊張得点が低いことが重なっている場合にこそ、受容的な態度が行動に結びつくとし唆されている。ただし、これについては今後よりたくさんのデータをもとに検証することが必要である。

総合考察

本研究では、異文化受容態度は、環境の異文化度とは直接関係するものではないが、個人の異文化接触体験が大きな意味を持っていることを明らかにした。異文化接触体験は異文化への受容的な態度、肯定的な態度を規定するだけでなく、異文化に相対したときの警戒心や緊張も和らげる。研究2からはそうした状態が更なる異文化交流へとつながっていくことが示唆されている。

また、Fischer (1976) は文化間の接触が盛んに行われている地域では、互いの文化の伝播も引き起こすと述べている。互いの文化からライフスタイルや信念、事物を採用することもある。つまり、異文化接触が避けられない時代の到来を迎えつつあるから

こそ、異文化接触によってそうした時代においても十分に死の不安を和らげることのできる世界観を構築することができると考えられるのである。

しかし、本研究で用いられた異文化接触体験尺度ではそれらを個々人がどのように捕らえているかはわからない。また、メディアによる接触も含まれること、全体を通して値が非常に低いことも影響を及ぼさなかったとは言いがたい。日本は先進国の中でも外国人人口比率が低い国である。そのため、多くの人は接触といってもメディアなどを通じた接触に留まっており、異文化接触による葛藤を経験していない可能性もある。国際化の進展の中、個人の認識も含めた異文化接触経験と異文化受容態度の関係についても研究を行う必要がある。

異文化受容態度について、糖 (1999) では状況によって態度が変わることが示されている。また、研究2で行われた調査の中で外国人について質問された場合にイメージする外国人像については、外国人との接触がある場合はそれらの人々を、ない場合はあまりイメージが浮かばないという答えが得られた。本研究で用いた外国への態度尺度ではより広い意味での外国人への態度を測定するため、あえて特定の外国や民族を定義しなかったが、参加者がどのような相手を想定して答えたかについても加えて検討する必要がある。

さらに、よりよい多文化共生社会の実現のためには、異文化受容態度と今後の異文化受容行動の関係も明らかにしていかなければならない。

参考文献

- Fischer, C. S. (1976) *The urban experience*. New York: Harcourt Brace Jovanovich. (松本康・前田尚子訳 1996 『都市的体験—都市生活の社会心理学』 未来社)
- Greenberg, J., Solomon, S., & Pyszczynski, T. (1997) Terror management theory of self-esteem and cultural worldviews: Empirical assessments and conceptual refinements. In M. P. Zanna (Ed.), *Advances in experimental social psychology*, 29, 61-139.
- Greenberg, J., Simon, L., Pyszczynski, T., Solomon, S., & Chatel D. (1992) Terror management and tolerance: Dose morality salience always intensify negative reactions to others who threaten one's worldview? *Journal of Personality and Social Psychology*, 63,

212-220.

- 河野由美・金児曉嗣・渡部美穂子・向井有理子・岸川真理子・堀江尚子・宮崎弦太 (2003) 「都市住民と村落住民の生活様式と価値観の特徴 (2) — コミュニティ意識と宗教性—」, 日本社会心理学会第 44 回大会発表論文集, 724-725.
- 向井有理子 (2003) 「異文化の拒絶と受容—恐怖管理理論の観点から—」 『都市文化研究』, 1, 50-65.
- 向井有理子・金児曉嗣・渡部美穂子・河野由美・岸川真理子・堀江尚子・宮崎弦太 (2003) 「都市住民と村落住民の生活様式と価値観の特徴 (4) — 自尊心と異文化への態度—」, 日本社会心理学会第 44 回大会発表論文集, 728-729.
- 向井有理子・金児曉嗣・渡部美穂子 (2004) 「流入する異文化の受容: ドイツ北部地域における調査より」, 日本社会心理学会第 45 回大会発表論文集, 288-289.
- 向井有理子・金児曉嗣・渡部美穂子 (2005) 「異文化受容態度の日英比較」, 日本グループ・ダイナミックス学会第 52 回大会発表論文集, 60-61.
- 糖利枝子 (1999) 『子どもの異文化受容 異文化共生を育むための態度形成』 ナカニシヤ出版
- 渡部美穂子・金児曉嗣 (2004) 「都市は人の心と社会を疲弊させるか?」 『都市文化研究』, 3, 97-117.
- 渡辺文夫 『異文化と関わる心理学 グローバリゼーションの時代を生きるために』 サイエンス社

都市住民と村落住民についての社会心理学的研究 (3)

一 都市化におけるソーシャル・サポート・ネットワーク :

インフォーマル・ネットワークとフォーマル・ネットワーク

堀江 尚子 (HORIE Naoko)

(大阪市立大学大学院文学研究科前期博士課程)

はじめに

ソーシャル・サポートの存在する対人関係ネットワークをソーシャル・サポート・ネットワークとした場合、家族・親族、友人というネットワークのカテゴリーに対し、そのサポートの多層性およびネットワークの規定要因に都鄙差が見られた(堀江, 2003)。ネットワークにフォーマルという視点が導入されている研究で笹谷(2003)は、家族・親族(配偶者、子どもおよび子どもの配偶者、兄弟、その他親族)をインフォーマル1、近隣や友人、同僚などをインフォーマル2とし、それらとは別にホームヘルパーや保健婦、訪問看護婦、医師、役所の担当者、有料の家政婦やサービスなどをフォーマルと分類する。その機能に着目した研究ではインフォーマル2はインフォーマル1の代替を果たさないと指摘される(Allan, 1985)。ならば都市化によって近い親族が近接して居住しない状況の中では、フォーマル・ネットワークはとりわけ重要といえる。

フォーマル・ネットワークのサポートが都市の人に重要であるといえども、ライフコースの全ての時期において常にサポートを必要とするわけでない。幼児期、高齢期には誰もがケアのサポートが必要であろう。しかし中年期ではサポートを与えるだけの時期にある人も多い。ケアのサポートとしてフォーマル・ネットワークを考えた場合、ライフステージによってサポート受容を必要としない人は、フォーマル・ネットワークと深い関与があるとはいえない。年齢構成比では若年層が多い都市では、ケアのサポートを提供するフォーマル・ネットワークは全体的には希薄であると考えられる。

しかし、その時点で必要ないとしても、ケアのサポート資源として家族・親族ネットワークを持つと持たない場合では、その代替可能性を持つフォーマル・ネ

ットワークに対する認知は異なると考えられる。この点都市ではケアのサポート機能としての家族・親族といったフォーマル・ネットワークが脆弱であり、その対応として利用可能性のあるフォーマル・ネットワークに対する情報を多く収集していると考えられる。人はこの情報認知を得て、必要時期に必要なサポートを利用するものと考えられる。

どのようなサポートが引き出されるかは、ネットワークによって違うということは明らかである。では、インフォーマル1、2である家族・親族ネットワーク、友人ネットワークおよびフォーマル・ネットワークの関係はどのようなものであるのか。人は出生後、多くの場合、家族の一員として成長する。その後個人として、多様な友人と交友関係を形成する。そしてケアのサポートが必要な場面で、家族・親族ネットワークがその機能を持たない場合、フォーマル・ネットワークの形成が顕著となると考えられる。ネットワーク間の関係として、家族・親族ネットワークが存在し、友人ネットワークが形成され、フォーマル・ネットワークについては、それらが提供するサポート内容の情報の認知とその実際の利用を経て形成されると考えられる。また堀江(2003)よりサポート・ネットワークを規定する要因が都市化の影響を受けることが明らかとなっている。

研究目的

関西圏の都市と村落の住民を対象に実施した質問紙調査から都市化の影響を加味した各サポート・ネットワーク形成のモデルの検証を行う。インフォーマル・ネットワーク1としての家族・親族ネットワークが存在し、インフォーマル・ネットワーク2としての友人ネットワークが形成され、フォーマル・ネットワーク

については、それらが提供するサポート内容の情報の認知とその実際の利用を経て形成されるとというモデルの検証を行う。またモデルでの都市化の影響を評価する。加えて堀江（2003）で課題となったネットワークの人数の評価をおこなう。尚、本研究では公的サポートを提供するフォーマル・ネットワークを広く解釈し、行政委託による民間企業活動、NPO、ボランティアの活動も公的サポートとするという操作的定義を行う。

仮説

1) 友人ネットワークを人数という側面を見た場合、村落よりも都市のほうが多い。2) フォーマル・ネットワークにおける顔見知り数は、村落よりも都市のほうが少ない。3) 公的支援サービスの情報認知は、村落よりも都市のほうが高い。4) インフォーマル・ネットワーク存在の後に形成されるフォーマル・ネットワークは、提供情報の認知および利用を得て形成され、都鄙差によってその規定要因が異なる。

研究方法

都市住民と村落住民についての社会心理学的研究(1)を参照。

主な尺度

(1) ネットワークについて：インフォーマル・ネットワークとして家族・親族と友人の2つのネットワークを、またフォーマル・ネットワークとして公的支援関係者に関わる項目についてたずねた。それぞれのネットワークに対して人数、多層性、接触頻度を問うた。

家族・親族ネットワーク；<人数>頼ったり、頼られたりする人数をたずねた（1：なし、2：1人、3：2~4人、4：5~7人、5：8~10人、6：11~13人、7：それ以上）。<多層性>頼ったり、頼られたりする家族・親族がある場合、どういった関係かを該当する項目を提示例（配偶者、実母、実父、成人している子供など計16例）から全てを選択するように指示した。<接触頻度>選択された対象を合算した値をネットワークの多層性得点とした。また選択した人の中で、最も頼ったり、頼られたりする人とどれくらい頻繁に会ったり、連絡を取ったりしているか（1：ほぼ毎日、2：週に2~3回、3：週に1回、4：月に1~2回、5：2~3ヶ月に1回、6：

年に2~3回、7：ほとんどない）をたずねた。

友人ネットワーク；<人数>親しく付き合っている友人・知人が何人いるかたずねた（1：なし、2：1人、3：2~4人、4：5~7人、5：8~10人、6：11~13人、7：それ以上）。<多層性>親しく付き合っている友人・知人がいる場合、どういった関係かを該当する項目を提示例（近所の人、趣味の活動の仲間、職場の同僚、幼なじみなど計10例）から全て選択するように指示した。選択された対象を合算した値をネットワークの多層性得点とした。<接触頻度>選択した人の中で、最も親しく付き合っている人とどれくらい頻繁に会ったり、連絡を取ったりしているか（1：ほぼ毎日、2：週に2~3回、3：週に1回、4：月に1~2回、5：2~3ヶ月に1回、6：年に2~3回、7：ほとんどない）をたずねた。<期間>それらの人との付き合いの期間（1：1年未満、2：1~3年、3：4~6年、4：7~9年、5：10~12年、6：13~15年、7：16~18年、8：それ以上）についてたずねた。

フォーマル・ネットワーク；<人数>公的機関および民間専門機関の支援サービス・情報提供・活動に関係する人で、顔見知りの人が何人存在するかをたずねた（1：なし、2：1人、3：2~4人、4：5~6人、5：7~9人、6：10~12人、7：それ以上）。<多層性>フォーマル・ネットワークに顔見知りがある場合どういった関係かを該当する項目（1：なし、2：医療関係者（医師、保健婦、看護師など）、3：学校関係者（教員、PTAなど）、4：福祉関係者（介護ヘルパー、ケースワーカーなど）、5：役所職員、6：その他）を提示し全てを選択することを求めた。「なし」以外の選択された項目を合算した値をネットワークの多層性得点とした。<接触頻度>それらの対象者と平均して1週間あたりのどの程度、会ったり連絡を取ったりしているのか（1：なし、2：1回未満、3：1~3回、4：4~5回、5：それ以上）をたずねた。

(2) 公的支援情報認知と利用：公的機関および民間専門機関の支援サービス・情報提供・活動について自分自身がどの程度知っていると思うかをたずねた。8項目（健康福祉、高齢者、障害者、観光・文化・スポーツ、ビジネス・雇用、暮らし、子育て・教育について）について4件法（1：まったく知らない~4：よく知っている）で回答を求めた。8項目の合計得点をサービス認

知尺度得点とした。

(3) 公的サービスの利用の賛否：公的機関および民間専門機関の支援サービス・情報提供・活動について、これらを積極的に利用することに賛成か6件法（1：まったく賛成～6：まったく反対）でたずねた。

(4) 世間の慣習：自分が正しいと思えば世間の慣習に反しても、それを押し通すべきか、それとも世間の慣習にしたかったほうが間違いがないと思うかを3件法（1：押し通すべき、2：場合による、3：慣習に従うべき）でたずねた。

(5) 充足感：周囲のすべての人との人間関係満足度について6件法（1：まったく満足～6：まったく不満）、生活満足度について4件法（1：満足していない～6：満足している）でたずねた。感情状態の測定にはBradburn(1969)の感情尺度を金児（1998）が日本語に翻訳したものを使用した。この尺度は最近の数週間における正の感情と負の感情を測定するそれぞれ5項目よりなる。諾否法による反応にもとづき、正感情尺度については「はい」の合計得点が0点と1点のケースを0点とし、最高得点を4点とした。負感情尺度については「はい」の合計得点が4点と5点のケースを4点とし、最低得点を0点とした。したがって、正感情も負感情も得点範囲は0～4点である。さらに正感情と負感情の差を感情バランスとするが、マイナスの値を避けるために5点が加えられた。したがって、得点範囲内はプラス1（最低の感情バランス）～プラス9（最高の感情バランス）となるが、正感情と負感情の均衡点は5点である。

(6) コミュニティ意識：田中ら（1978）を参考に河野ら（2003）が構成した尺度を改良し使用した。詳細は都市住民と村落住民についての社会心理学研究(3)を参照されたい。

(7) 自尊心：Rosenberg(1965)やCoopersmith(1967)を参考に向井ら（2003）が構成した尺度を使用した。詳細は都市住民と村落住民についての社会心理学研究(3)を参照されたい。

(8) 行事：雛祭り、七夕、お盆、父の日、敬老の日など14種類の年中行事、習俗を提示し、自分のうちで行っているもの全てを選択することを求めた。選択された項目を合算した値を行事得点とした。

結果

家族・親族および友人ネットワーク

家族・親族で、頼ったり頼られたりする関係の人数を問うた。都市では平均5.01人、村落では6.18人であり、この差は村落のほうが有意に多いものであった ($t(953) = -4.423, p < .001$)。それらの対象である家族・親族がどういった多層な関係であるのかは、都市では平均3.77、村落では4.63であり、この差も村落のほうが有意に多いものであった ($t(903) = -6.09, p < .001$)。人数と多層性の関係はTable 1に示した。

Table 1 ネットワーク人数と多層性都鄙比較

		村落	都市
家族・親族人数	N	494	461
	平均値	6.18	5.01 ***
	標準偏差	4.12	4.25
家族・親族多層性	N	476	429
	平均値	4.63	3.77 ***
	標準偏差	2.26	2.01
友人人数	N	494	461
	平均値	5.73	5.77
	標準偏差	5.12	5.43
友人多層性	N	453	416
	平均値	2.57	2.42
	標準偏差	1.38	1.36
公的顔見知り人数	N	494	461
	平均値	5.43	2.79 ***
	標準偏差	5.61	4.92
公的顔見知り多層性	N	494	460
	平均値	1.87	0.92 ***
	標準偏差	1.39	1.12

*** $p < .001$

Table 2 接触頻度順位和の都鄙比較

		村落	都市	
家族・親族	N	468	427 **	
	接触頻度	平均ランク	469.27	424.69
	順位和	219619.00	181341.00	
友人	N	448	413	
	接触頻度	平均ランク	439.33	421.96
	順位和	196821.50	174269.50	
公的顔見知り	N	474	450	
	接触頻度	平均ランク	505.14	417.59 ***
	順位和	239435.50	187914.50	

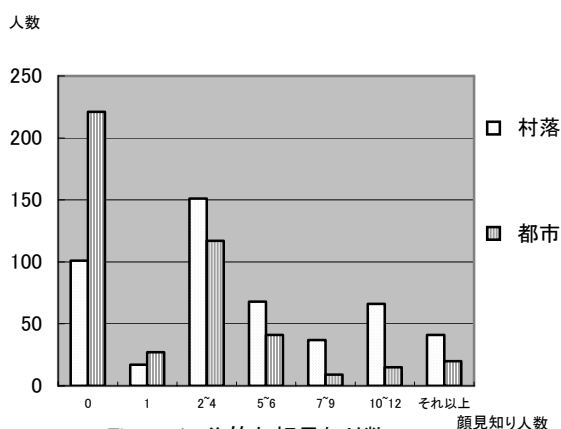
** $p < .01$ *** $p < .001$

家族・親族との接触頻度についてもウィルコクソン順位和検定の結果 ($W = 181341, p < .001$) 都市よりも村落のほうが高かった (Table 2)。

友人で親しく付き合っている人数を問うた。都市では平均 5.77 人、村落では 5.73 人であり、この差は有意なものでなかった ($t(953)=.12, n.s.$)。それらの対象である友人がどういった多層な関係であるのかは、都市では平均 2.42、村落では 2.57 であり、この差は有意なものでなかった ($t(903)=-1.52, n.s.$)。友人との接触頻度についてもウィルコクソン順位和検定の結果 ($W=174269.5, n.s.$) 都市と村落の差はみられなかった。この結果は仮説 1)「友人ネットワークを人数という側面で見ただけの場合、村落よりも都市のほうが多い。」を支持するものでなかった。

フォーマル・ネットワーク

フォーマル・ネットワークの顔見知り数は、都市では平均 2.79 人、村落では 5.43 人であり、この差は有意なものであった ($t(923)=-7.25, p<.001$)。またこの相違を詳細に見ると、フォーマル・ネットワークの顔見知り数が、いないと答えたものは、都市部では 49% (N=221) が村落では 21% (N=101) であった (Figure 1)。



顔見知りがある場合、それらの対象である顔見知り人がどういった多層な関係であるのかは、都市では平均 0.92、村落では 1.18 であり、この差は有意なものであった ($t(933)=-11.68, p<.001$)。その分布も特徴的であり、都市では多層に及んで顔見知りがある人は僅かで、より少ない層が多く、層数が増えるごとに人数は減少する。一方、村落では公的な顔見知りが多層に及ぶ人もそうでない人も相対的に均等であった (Figure 2)。

($W = 187914.5, p<.001$)、都市と村落では都市のほうが高かった。この結果は仮説 2)「フォーマル・ネットワークにおける顔見知り数は、村落よりも都市のほうが少ない。」を支持する結果である。

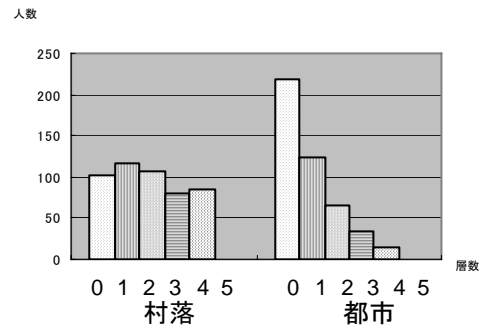


Figure 2 公的顔見知り多層性

Table 3 支援サービス認知と利用

		村落	都市
サービス利用	N	493	461
	平均値	1.05	0.89 *
	標準偏差	1.24	1.15
サービス認知	N	467	440
	平均値	2.61	2.40 ***
	標準偏差	0.62	0.63
健康福祉について	N	486	455
	平均値	2.84	2.69 **
	標準偏差	0.79	0.79
育児・教育について	N	478	452
	平均値	2.70	2.35 ***
	標準偏差	0.87	0.90
高齢者について	N	481	454
	平均値	2.85	2.47 ***
	標準偏差	0.86	0.92
障害者について	N	478	448
	平均値	2.54	2.28 ***
	標準偏差	0.88	0.89
文化スポーツについて	N	481	454
	平均値	2.58	2.55
	標準偏差	0.72	0.77
雇用について	N	478	452
	平均値	2.13	2.08
	標準偏差	0.75	0.77
暮らしについて	N	481	455
	平均値	2.58	2.38 ***
	標準偏差	0.79	0.76

* $p<.05$, ** $p<.01$, *** $p<.001$

公的支援サービスの情報認知

サービス認知項目 (信頼性係数 $\alpha=.88$) 得点を合計したサービス認知項目尺度得点について、都市では平

均 2.40、村落では平均 2.61 と村落のほうが有意に高かった ($t(905) = 4.99, p < .001$)。また下位項目ごとの比較では、健康福祉について ($t(939) = -2.74, p < .01$)、育児・教育について ($t(928) = -6.00, p < .001$) 高齢者について ($t(920) = -6.53, p < .001$) 障害者について ($t(924) = -4.51, p < .001$) 暮らしについて ($t(934) = -3.97, p < .001$) の 5 項目については村落のほうが高い結果であった。文化・スポーツについて ($t(933) = -0.64, n.s.$)、雇用について ($t(928) = -.87, n.s.$) の 2 項目では差がみられなかった。これは仮説 3) の「公的支援サービスの情報認知は、村落よりも都市のほうが高い。」を支持しない結果となった (Table 3)。

サービス認知項目にワード法、平方ユークリッド距離によってクラスター分析を実施した (Figure 3)。2 つのクラスターを考えると、高齢者、障害者、健康福祉、育児・教育の 4 つが一つのクラスターを形成し、文化・スポーツ、暮らし、雇用の 3 つが一つのクラスターを形成していた。これはケアの支援サービスとそれ以外の支援サービスといえる。

実際にそのサービスを利用しているかどうかを尋ねた支援サービスの利用得点は、平均都市では 0.89、村落では 1.05 と村落のほうがわずかであるが多く、この差は有意なものであった ($t(952) = 2.00, p < .05$)。

公的顔見知り人数を目的変数とした探索的重回帰分析

公的顔見知り人数を規定するものを知るため重回帰分析を行った。投入変数は都鄙、サービス認知、サービス利用、正感情、負感情、サービス利用の賛否、人間関係満足度、生活満足感、行事、性別、同居人数、

居住年数、教育年数、健康状態、経済状態、自尊心、コミュニティ意識 (協同意識、愛着意識、プライバシー意識)、家族・親族人数、友人数であり、うち有意となった変数のみを提示した (Table 4)。都鄙では都市部を 1 で村落を 0、性別では男性を 1、女性を 0 としたダミー変数ではとして扱った。結果、都鄙によって異なる変数が選択された。規定する要因は、都市では、サービス利用、教育年数、家族・親族人数であった。村落では、サービス利用、経済状態、家族・親族人数、協同意識、サービス認知、生活満足度であった。

フォーマル・ネットワークに関する共分散構造分析 都鄙群同時分析

フォーマル・ネットワークは、提供情報の認知、利用を得て形成されるというモデルの妥当性を検証するため、またその規定要因の効果の違いを検討するために多母集団同時分析を実施した (Figure 4)。都市と村落

Table 4 公的顔見知り人数を目的変数とした重回帰分析標準偏回帰係数(ステップワイズ法)

説明変数	全体	都市	村落
都鄙性	-0.15 ***	-	-
サービス利用数	0.21 ***	0.16 **	0.25 ***
家族・親族人数	0.16 ***	0.15 **	0.18 **
教育年数	0.10 ***		
サービス認知	0.08 *		0.11 *
教育年数		0.15 **	
経済状態			0.19 ***
協同意識			0.12 **
生活満足度			-0.12 *
調整済み R2	0.15 ***	0.08 ***	0.21 ***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

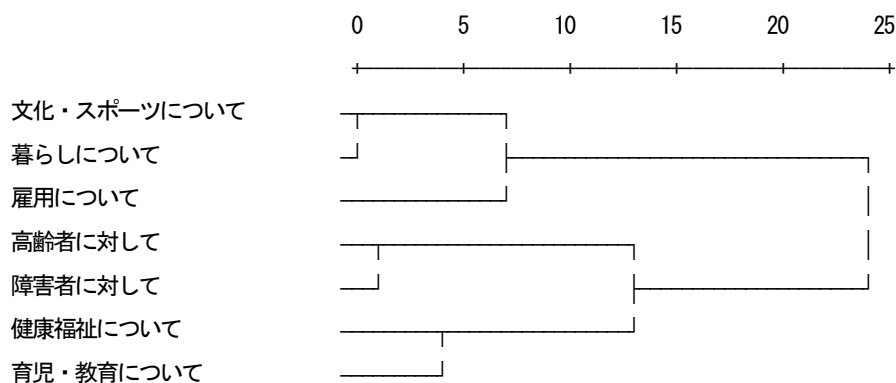


Figure 3 サービス認知項目のクラスター分析

という2つの母集団では、「友人ネットワーク」から「サービス認知」、「協同意識」から「サービス認知」、「居住年数」から「サービス利用」の3つのパラメータ間に有意な差がみられた(各統計検定量=-2.90, $p < .05$, 4.09, $p < .05$, 3.94, $p < .05$)。そこで都市モデルで「友人ネットワーク」から「サービス認知」へのパス係数、都市部で「協同意識」から「サービス認知」へのパス係数、村落モデルで「居住年数」から「サービス利用」へのパス係数を0に固定した複数モデル (Figure 5.6) と先のモデルとの比較をおこなったところ、複数モデルにおいてよりあてはまりの良いモデルが得られた (Table 5)。

つまりフォーマル・ネットワークはサービスの認知、その利用を経て形成されることは共通であるが、都市ではサービス認知影響を与える協同意識が、村落ではその効果を持たず、居住年数が短いほど、実際にサービスを利用しているという都市でみられる効果は、村落にはみられなかった。また、村落ではサービス認知に友人ネットワークの影響が見られるが、都市ではその効果が見られなかった。モデルの適合度指標は $\chi^2(179)=637.06$, $p < .00$, GFI=0.8, CFI=0.75, RMSEA=.063 であり、許容範囲内であった。よって仮説4「フォーマル・ネットワークは、提供情報の認知および利用を経て形成され、都鄙差によってその規定要因が異なる」というモデル検証された。

考察

家族・親族および友人サポート・ネットワークについて

家族・親族サポート・ネットワークは村落のほうが都市よりも人数が多く多層性にも富んでいた。この結果は堀江 (2003) を支持する結果である。家族は一次集団、ゲマインシャフトなどとして評価がなされてきたが、サポート機能を見た場合も都市化によってその機能は縮小してきているといえる。

一方、友人関係においては、サポート・ネットワークの人数側面を見るとき都市と村落の差は見られなかった。Fischer (1982) の都市度の高い地域の住民は相対的に都市度の低い地域の住民と比べ、親族や近隣ネットワークの量を減らし、友人ネットワークを増大さ

せること、支援ネットワークとしても友人ネットワークは、その機能を高めることを指摘する知見とは合致しない結果となった。この結果について次のように考え得る。日本では経済高度成長期以後数十年が経過し、ライフスタイルの都市化という点からみれば村落においてもかなりの浸透がみられる。また今日の通信技術の発達によって、地域の交通事情の不便さが友人との交友関係になんら影響を与えない状況を作り出しているとも考え得る。つまりそこでの友人関係は都市化の影響を受け都市部と同様な変化が完了した状態であると解釈が可能ではないだろうか。

フォーマル・ネットワーク

フォーマル・ネットワークの顔見知り人数は都市よりも村落でより多かった。公的な顔見知りが一人もいないと答えたのは、都市部ではおよそ半数であり、それに対し村落ではおよそ5人に1人の割合であった。つまり、村落では5人に4人は何人かの公的な顔見知りが存在するということである。若年層、核家族世帯の多い都市では、公的なサービス提供者とは、そのサービス等の受給に預からない限りは無縁の存在である。

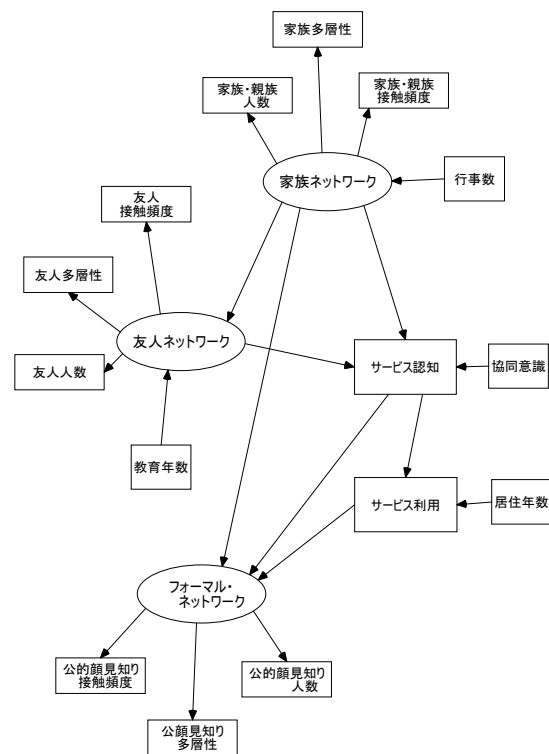


Figure 4 ネットワーク基本モデル

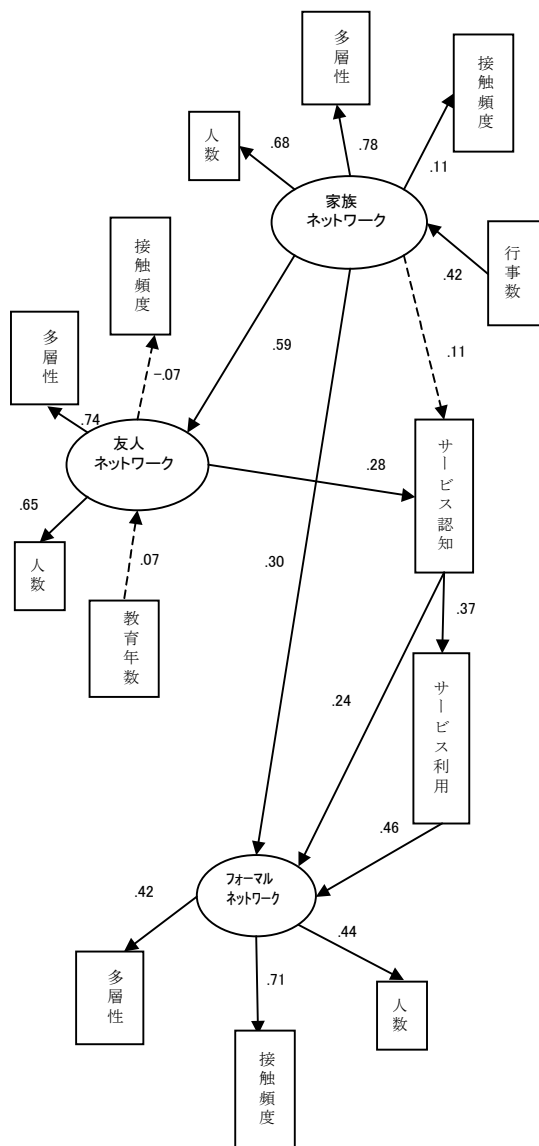


Figure 5 ネットワーク村落モデル (N=311)

注) 数字は β (標準化係数)を示し、実線は有意な、破線は有意ではないパスを示す。

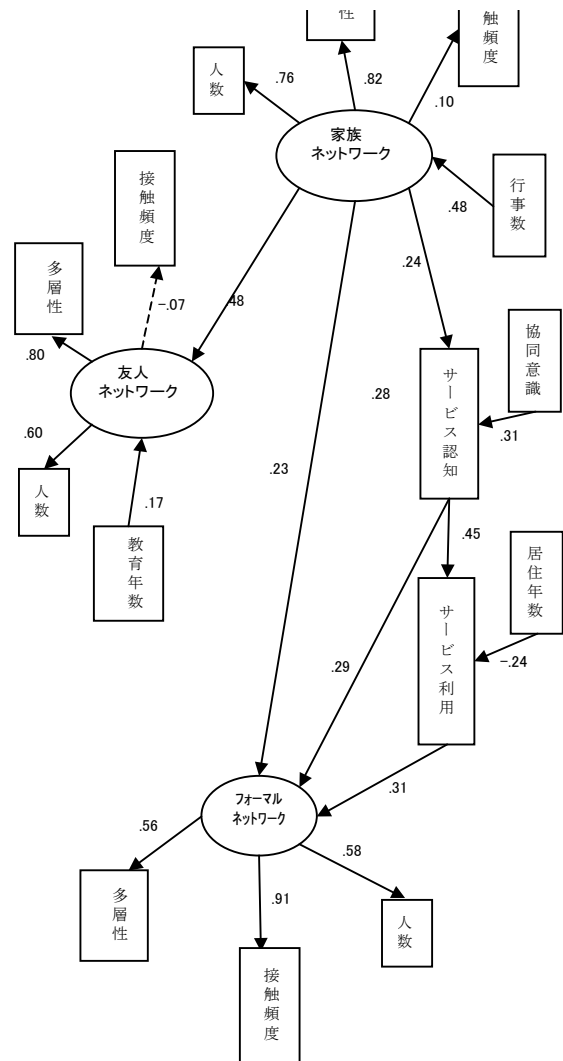


Figure 6 ネットワーク都市モデル (N=340)

注) 数字は β (標準化係数)を示し、実線は有意な、破線は有意ではないパスを示す。

受給等の実際のやり取りがあった後にフォーマル・ネットワークが形成されると考えられる。しかし村落においては、人口が少ないといえども公的活動、機関が存在しないわけではなく、人口が少ないがゆえに、それらの人々はサービス等の実際の受給がなくとも既知の関係であることが考えられる。このことが都鄙差の大

きな理由ではないか。

また公的顔見知りの多層性をみるとその分布も特徴的であった。都市ではより少ない層が多く、多層になるほどその人数が減少していくのに対して、村落では公的な顔見知りが多層に及ぶ人もそうでない人もその人数は大きな変化はみられなかった。都市では多様な

Table 5 共分散構造分析 都鄙別複合モデル変数間推定値

			都市			村落		
			推定値	確率	標準化	推定値	確率	標準化
					係数			係数
家族ネットワーク	<←	行事数	0.38	0.00	0.48	0.34	0.00	0.42
友人ネットワーク	<←	家族ネットワーク	0.54	0.00	0.49	0.60	0.00	0.59
友人ネットワーク	<←	教育年数	0.17	0.01	0.17	0.07	0.29	0.07
サービス認知	<←	友人ネットワーク	0.00		0.00	0.06	0.01	0.28
サービス認知	<←	協同意識	0.41	0.00	0.32	0.00		0.00
サービス認知	<←	家族ネットワーク	0.06	0.00	0.24	0.03	0.22	0.12
サービス利用	<←	居住年数	-0.02	0.00	-0.24	0.00		0.00
サービス利用	<←	サービス認知	0.85	0.00	0.45	0.78	0.00	0.37
フォーマル・ネットワーク	<←	家族ネットワーク	0.36	0.00	0.23	0.41	0.00	0.30
フォーマル・ネットワーク	<←	サービス利用	1.06	0.00	0.31	1.23	0.00	0.46
フォーマル・ネットワーク	<←	サービス認知	1.89	0.00	0.30	1.37	0.00	0.24
家族・親族人数	<←	家族ネットワーク	1.00		0.76	1.00		0.68
家族・親族多層性	<←	家族ネットワーク	0.66	0.00	0.82	0.66	0.00	0.78
家族・親族接触頻度	<←	家族ネットワーク	0.07	0.02	0.10	0.07	0.02	0.11
友人人数	<←	友人ネットワーク	1.00		0.60	1.00		0.65
友人多層性	<←	友人ネットワーク	0.39	0.00	0.80	0.39	0.00	0.74
友人接触頻度	<←	友人ネットワーク	-0.04	0.15	-0.07	-0.04	0.15	-0.07
公的顔見知り人数	<←	フォーマル・ネットワーク	1.00		0.58	1.00		0.44
公的顔見知り多層性	<←	フォーマル・ネットワーク	0.27	0.00	0.91	0.27	0.00	0.72
公的顔見知り接触頻度	<←	フォーマル・ネットワーク	0.12	0.00	0.56	0.12	0.00	0.42

関係に渡って顔見知りを持つことは少ないが、村落ではそれが相対的に多いということである。このことは都市の高い同質性を示すものである。

公的支援サービスの情報認知

公的支援サービス認知については村落のほうが都市より高く、仮説とはまったく反対の結果であった。都市部では、多様な人々が生活しその分多様なサービスも提供されている。当然その情報も多様かつ多量である。もはや現代の都市の生活では、個人の処理能力を上回る情報が氾濫しているということであろうか。処理能力を有限資源と考えた場合、情報過多の都市生活の中で資源の有効活用のため、必要以上の情報を自ら拒絶しているのであるか。つまり、未消化なる情報の存在を知りつつも、それらに対して積極的に関わり

を持たないでいるという状況にあり、そのことが都市に住む人々の低い情報認知の原因とも考えられる。

各公的支援サービスのクラスター分析の結果による2つのクラスターは、ケアのサービス項目とそれ以外のサービス項目にまとまった。そのケアの項目のすべてで村落の方が都市に比較し情報認知が高かった。世帯構成員数が多いという村落の事情を考えると、成員のうちの誰かにケアが必要な状態であることは常時であろう。その場合、ケアに直接関連する成員はその関連情報について関心が高いが、直接関連しない成員であっても、同じ世帯構成員の関心事としてその情報を共有するかもしれない。つまり、現在直接自分に関与しない公的支援サービスの情報も村落に住んでいる場合、家族の問題として近接に認識されると考えられる。

フォーマル・ネットワークは、提供情報の認知利用を得て形成されるというモデルの検証を試みたところ、モデルの有効性は確認された。行事数に影響を受ける家族ネットワークは、友人ネットワーク、フォーマル・ネットワークに影響を与える。また、サービスの認知、利用を経てフォーマル・ネットワークは形成されることが確認された。また共分散構造分析による多母集団同時分析によって都鄙の相違も明らかとなった。都鄙によって、サービス認知、サービス利用に影響をもつものと、友人ネットワークのサービス認知に与える影響が違った。つまり都市では、友人ネットワークはサービスの認知に関係なく、地域協同意識が高いほうがサービス認知も高く、居住年数が短いほうが実際にサービスを利用しているという状況であり、村落では、友人ネットワークが大きいほうがサービスの認知が高く、協同意識、居住年数といったものはその認知、利用と関係がなかった。

都市での友人ネットワークのサービス認知への効果がないということについては興味深い。それは友人ネットワークの機能が都市化によって影響を受けることを示唆する。同質が高いとされる都市の友人関係は、個人のある一側面だけの関係で全人格的に個々の問題を共有する関係ではないのかもしれない。

引用文献

- Allan, Graham, 1985, *Family Life: Domestic Roles and Social Organization*, Oxford: Basil Blackwell.
- Bradburn, N. (1969) *The structure of psychological well-being*. Chicago: Aldine.
- Coopersmith, S. (1967) *The antecedents of self-esteem*. San Francisco: W. H. Freeman
- Fischer, claud S. (1982) *To Dwell among Friends* The University of Chicago, Illinois, U. S. A. 松本康前田尚子(訳) (2002) 友人の間で暮らす—北カリフォルニアのパーソナル・ネットワーク 未来社
- 堀江尚子・金児暁嗣・河野由美・渡部美穂子・向井有理子・岸川真理子・宮崎弦太 2003 都市住民と村落住民の生活様式と価値観の特徴 (6) —ソーシャルサポートの受容とネットワークの多層性—日本社会心理学会第44回大会発表論文集, 732-733.

- 金児暁嗣 1998 宗教心と心理的充足感 浜口恵俊(編著)『世界のなかの日本型システム』新曜社
- 河野由美・金児暁嗣・渡部美穂子・向井有理子・岸川真理子・堀江尚子・宮崎弦太 2003 都市住民と村落住民の生活様式と価値観の特徴 (2) —コミュニティ意識と宗教性—日本社会心理学会第44回大会発表論文集, 724-725.
- 前田信彦(1995)「都市住居高齢者のパーソナル・コミュニティ」『都市問題』86(9)
- 向井有理子・金児暁嗣・河野由美・渡部美穂子・岸川真理子・堀江尚子・宮崎弦太 2003 都市住民と村落住民の生活様式と価値観の特徴 (4) —自尊心と異文化への態度—日本社会心理学会第44回大会発表論文集, 728-729.
- Rosenberg, M. (1965) *Society and the adolescent self-image*. Princeton: Princeton University Press.
- 笹谷春美(2003) 日本の高齢者のソーシャル・ネットワークとサポート・ネットワーク —文献的考察—北海道教育大学紀要(人文科学・社会科学編)第54巻第1号 61-67.
- 田中國夫・藤本忠明・植村勝彦(1978)「地域社会への態度の類型化について—その尺度構成と背景要因—」心理学研究, 49, 36—43.

都市住民と村落住民についての社会心理学的研究 (4)

一親友との間に生じる沈黙の捉え方一

宮崎 弦太 (MIYAZAKI Genta)

(大阪市立大学大学院文学研究科前期博士課程)

はじめに

一般的に会話場面で生じる沈黙は否定的なものとして捉えられる。しかし、それは会話を行う相手との関係性に依存する (Barnlund, 1989; Hasegawa & Gudykunst, 1998; Jawolski, 1993; 1997; Jensen, 1972)。例えば、Hasegawa & Gudykunst (1998) は質問紙調査により、日本人 (cf. アメリカ人) は親友と比較して見知らぬ人との会話場面で生じる沈黙をより否定的に捉えることを明らかにしている。

しかし彼らの研究では、どのような要因が沈黙の捉え方に影響を及ぼしているかを明らかにしていない。他の研究 (Jawolski, 1997; Knapp & Vangelisti, 2004) も同様に、会話を行う相手との親密性 (intimacy) が高いほど沈黙は否定的なものとして捉えられにくいと述べてはいるが、その要因の影響過程を検討した研究はいまだ見られない。本研究は、宮崎 (2004; 2005) が述べる「沈黙の社会的拒絶としての機能」という枠組みを用い、Hasegawa & Gudykunst (1998) が相対的に沈黙を否定的に捉えないと示した親友との会話場面という枠内で、その変動を生み出す要因を検討する。

沈黙の社会的拒絶としての機能

他者からの拒絶は、状態自尊心 (state self-esteem) の低下 (Leary, Tambor, Terdal, & Downs, 1995) やネガティブな感情の生起 (Buckley, Winkel, & Leary, 2004) など、人に様々な否定的な影響を及ぼす (Baumeister & Leary, 1995)。沈黙の社会的拒絶としての機能とは、互いの言語的な関与 (involvement) が期待され、主にそれによって他者とのつながりが確認される場面において、沈黙が互いの関与の低さ、さらにはその他者との関係喪失の危険性を暗黙裡に伝えること (宮崎, 2005) を意味する。宮崎 (2005) では、この機能が付与された沈黙が、それを観察する者に状態自尊心の低下という否定的な影響をもたらすことが示されている。沈黙はそれが持つ意味についての手掛かりが他の非言語的手掛かりと比較してほとんどなく、その意味の解釈はメッセージを知覚する相互作用者の感受性に完全に依存する (Barnlund, 1989)。これは、沈黙

がどのように捉えられるかは、その時々相互作用者の内的要因、また相互作用相手との関係性という状況的要因による影響を受けるということの意味している。以上の知見を総合すると、会話場面において沈黙に社会的拒絶としての機能が付与されやすい、つまり拒絶への感受性 (rejection sensitivity) が高いということは、沈黙に対する否定的な捉え方をもちやすと考えられる。

質問紙調査

これまでの都市社会学の知見や平成 14 年度に実施された COE 研究の知見から、都市と村落では、そこで営まれる対人関係、居住する人々の内的属性に差異が認められている (e.g. Fischer, 1982; 堀江・金児・河野・渡部・向井・岸川・宮崎, 2003)。それらの差異は、沈黙の捉え方を規定する拒絶への感受性という要因に影響を及ぼしていると考えられる。質問紙調査の目的は、居住地域の都鄙性が拒絶への感受性と関連する要因に影響を与え、それを媒介として沈黙への捉え方に影響を及ぼすという過程を明らかにすることである。

拒絶への感受性に影響を及ぼす要因：都市と村落での差異

本調査では、拒絶への感受性に影響を及ぼす要因を、状況的要因と個人内要因の 2 つの側面から捉える。具体的には、状況的要因として親友との心理的一体感と社会的役割の共有数を、個人内要因として自尊心と年齢を取り上げる。

(1) 状況的要因 (親友との関係性)

心理的一体感 心理的一体感 (subjective closeness) とは、他者の資源、視点、そして特徴を自己に取り込むことにより、自己と他者との部分的に重なり合うことを意味する (Aron, Aron, Smollan, 1992)。心理的一体感は親密性と同一視されており (Aron et al., 1992)、Reis & Shaver (1988) はその源泉を、自己開示 (self-disclosure) を行った際の相手の反応性 (responsiveness) にもとづく、相手から受け入れられている、価値ある人物とみなされているという感覚として捉えている (Reis, Clark, & Holmes,

2004 も参照)。相手から価値ある人物とみなされているという感覚により、その人物との相互作用場面における拒絶を示す手掛かりが知覚されにくくなる (Murray, Griffin, Rose, & Bellavia, 2003) ことから、心理的一体感が高いほど、拒絶への感受性は低くなると考えられる。

都市と村落では親密な関係を結ぶ対象は異なるが (e.g. 村落は都市と比較して親族と親密な関係を結びやすい - 大谷, 1995b)、そのような関係における親密性に都鄙差は認められていない (Fischer, 1982)。今回は親友という関係の枠内での心理的一体感の変動を扱うので、その点で都鄙差は認められないと予測される。

社会的役割の共有数 他者との関係において、その人物と友人という関係のほかに、異なる役割を共有していることは多々ある。例えば、その人物と友人であると同時に、仕事仲間であるといったような関係である。このような「同じ人と様々な場面で異なる目的を持って取り結ぶような許容性を内包する関係性のタイプ」は、多重送信型 (multiplex) の関係と呼ばれる (大谷, 1995b, p.159)。相手との社会的役割の共有数は、その人物の代替可能性 (alternative possibility) に影響を及ぼす。例として、友人と、仕事仲間、仕事以外の集まり (e.g. 趣味) のメンバーという2つの役割を共有している場合を考えてみよう。その人物は自己にとって、友人としての役割 (e.g. 困難が生じた際の相談相手)、仕事仲間としての役割 (e.g. 仕事を行う際の援助)、そして趣味の集まりのメンバーとしての役割 (e.g. 趣味の活動を成立させるために必要なメンバー) など複数の役割を果たしている。このような関係においては、友人と社会的役割を共有していない (i.e. 純粋な友人 - Fischer, 1982) 場合と比較して、それらの役割を全て果たす同様の友人を他に見出す可能性、すなわち代替可能性は低くなるといえる。

先行研究 (Berscheid & Ammazzalorso, 2001; White, 1981) より、代替可能性が当該他者との関係における拒絶への感受性に影響を及ぼすことが示唆されている。例えば、恋人への嫉妬 (jealousy) はその人物の代替可能性が低いほど生じやすい (White, 1981)。嫉妬は、相手が別の人物との関係を構築することにより、自分との関係に危機が生じると感じられた場合に生じる (Leary, Koch, & Hechenbleikner, 1999)。これらの知見は、相手の代替可能性と拒絶への感受性との関連を示すものである。つまり、相手の代替可能性が低いほど、自己が今までどおりの安定した幸福な生活 (welfare) を営む上で、その関係への依存性 (dependency) が増す (Berscheid & Ammazzalorso, 2001)。そのため、その相手との関係が崩壊することを示す手掛かりへの敏感さ、すなわち拒絶への感受性が高ま

ると考えられる。

人がおかれた都市的状况により、友人との間に共有される社会的役割の数は異なる (Fischer, 1982; 松本, 1995; 大谷, 1995b)。具体的には、都市は村落と比較して、そこに居住する人口数の多さや人口密度の高さに伴い、友人として選択されうる人的資源が多く存在し (Fischer, 1982)、また交通手段の発達に伴い、友人ネットワークが広域化 (松本, 1995) している。そのため、友人との関係も、異なる役割に応じた異なる人々との選択的な関係 (i.e. 単一送信型 (uniplex) の関係 - 大谷, 1995b) となりやすい。つまり、親友との間に共有される社会的役割は、村落と比較して都市においてより少なくなる。それゆえ、親友との社会的役割の共有数、それに伴うその人物の代替可能性という点から見ると、拒絶への感受性は村落と比較して都市のほうが低いと予測される。

(2) 個人内要因

自尊心 Leary et al. (1995) は、自尊心 (trait self-esteem) を他者から一般的に受容されていると知覚する程度と定義している。そのため、自尊心の高い人は他者からの社会的反応を拒絶として捉えにくい (Nezlek, Kowalski, Leary, Blevin, & Holgate, 1997)。言い換えるなら、拒絶を示す手掛かりを知覚しにくいといえる。実際、Downey & Feldman (1996) の研究において、自尊心と拒絶への感受性との間に有意な負の相関が認められている。先に挙げられた心理的一体感が親友との関係に特殊なものであるのに対し、自尊心は親友との関係に限らず、他者との関係全般において拒絶への感受性に影響を及ぼすものと考えられている (Murray et al., 2003)。

先行研究 (向井・金児・河野・渡部・岸川・堀江・宮崎, 2003; 渡部・金児, 2004) より、都市と村落でそこで居住する人々の自尊心に違いが認められている。具体的には、都市に居住すること自体が、自尊心を高める効果を持つ (渡部・金児, 2004)。それゆえ、自尊心という点から見ると、拒絶への感受性は村落と比較して都市のほうが低いと予測される。

年齢 加齢やそれに伴う健康状態の変化は移動性や対人接触の制約を生み、新たな友人関係を構築することを相対的に困難にする (Argyle & Henderson, 1985; Knapp & Vangelisti, 2004)。それゆえ、Knapp & Vangelisti (2004) や Rusbult, Arriaga, & Agnew (2001) が述べるように、年齢が高くなるほど友人の代替可能性は低くなる。先述のように、代替可能性の低さは拒絶への感受性を高めるため、年齢が高くなるほど拒絶への感受性は高まると考えられる。

これまでの都市社会学の知見より (e.g. Fischer, 1982)、

都市と村落でそこに居住する人々の年齢に違いが認められている。具体的には、村落と比較して都市に居住する人々の年齢が若いことが明らかになっている。それゆえ、年齢という点から見ると、拒絶への感受性は村落と比較して都市のほうが低いと予測される。当然のことながら、これまでに述べた社会的役割の共有数と自尊心についての議論とは異なり、都市に住むこと自体が年齢を若くするわけではない。都市と村落という居住地域の特徴として捉えた場合に、全体としてそこに住む人々の年齢が異なるということである。

都市と村落での沈黙の捉え方の差異：仮説モデル

上記の関係をまとめたものが Figure1 である。村落と比較して都市に居住する人々は、相対的に自尊心が高く、年齢は若い。また、親友との間に共有される社会的役割が少ないことから、村落と比較して都市では、親友との関係における拒絶への感受性は相対的に低くなる。それゆえ、沈黙はより否定的なものとして捉えられないと予測される。以上の仮説モデルを検証するために、質問紙調査を行った。

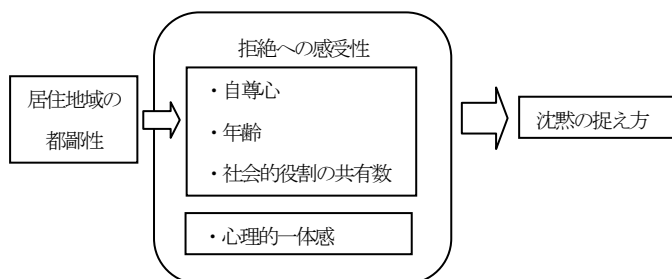


Figure1. 居住地域の都鄙性が沈黙の捉え方に影響を及ぼす過程

方法

都市住民と村落住民についての社会心理学的研究 (1) を参照。

使用尺度 沈黙の捉え方を測定するため、Hasegawa & Gudykunst (1998) の尺度の項目を修正、そして新たな項目を追加することで沈黙観尺度を作成した (5 件法)。この尺度は、同性の親友との会話場面で生じる沈黙をどのように捉えるかについて尋ねる 10 項目で構成された。

心理的一体感を測定するため、Aron et al. (1992) の IOS (Inclusion of Other in the Self) 尺度 (Aron et al., 1992) を修正した、Li (2002) の尺度を用いた。この尺度は、自己と親友が 2 つの円で図示されており、円が完全に離れたもの (1) からほぼ重なり合ったもの (7) までの 7 段階のベン図の中で、2 人の関係を最も表すものを選んでもらうというものであった。

自尊心を測定するため、向井ら (2004) が作成した 10

項目で構成される自尊心尺度を用いた (5 件法)。詳しくは都市住民と村落住民についての社会心理学的研究 (2) を参照のこと。

社会的役割の共有数は、先の沈黙観尺度で挙げてもらった親友との間に、現在友人であるということ以外の役割があるか否かを尋ねることにより測定した。仕事 (学校) 仲間、仕事・学校以外の集まりのメンバー、近所の人、その他、なし、の中からあてはまるもの全てを選んでもらった (最小 0—最大 4)。

結果と考察

質問紙調査の目的は、(1) 親友との間に生じる沈黙の捉え方に影響を及ぼす要因を、その関係における拒絶への感受性と関連させて捉えること、(2) 親友との関係に持ち込まれる拒絶への感受性の都鄙差に伴い、沈黙の捉え方に都市と村落での差異が生まれることを明らかにすることであった。以下ではまず尺度構成を行う。その後、t 検定とパス解析により各変数に都鄙差が認められ、それらが仮説モデルと一致するかを検証する。最後に、都鄙別で重回帰分析を行い、それぞれの居住地域において沈黙の捉え方に影響を及ぼす要因を明らかにする。

因子分析

沈黙観尺度に対して因子分析 (N = 823、主因子法、promax 回転) を行ったところ、2 因子が抽出された。分析の過程で 2 項目が削除された。第 1 因子は、「その人が沈黙すると、自分との会話に退屈しているのではないかと思う」などの 5 項目で構成されていた ($\alpha = .85$)。これは、親友との会話場面で沈黙が生じたときにそれに対して否定的な意味づけを行うことを意味しており、「沈黙への否定的な視点」因子と解釈できた。第 2 因子は、「会話中にその人が沈黙しても不安にならない」などの 3 項目で構成されていた ($\alpha = .72$)。これは、沈黙を親友との会話場面で自然に生じるものとして受け入れることを意味しており、「沈黙への受容的な視点」因子と解釈できた。各因子を構成する項目の平均値を算出し、それぞれを沈黙への否定的な視点得点、沈黙への受容的な視点得点とした。

自尊心尺度に対して因子分析を行ったところ、1 因子構造が確認された ($\alpha = .85$ 、詳しくは都市住民と村落住民についての社会心理学的研究 (2) を参照)。項目得点の平均値を算出し、これを自尊心得点とした。

各変数の都鄙差

各変数の都鄙差を検討するため、沈黙への否定的な視点得点、IOS 尺度得点、社会的役割の共有数、自尊心、

そして年齢の都鄙別の平均値と標準偏差を求め、Table1に示した。

Table1. 各変数の都鄙別の平均値と標準偏差

		都市	村落
沈黙への否定的な視点得点	mean (SD)	2.24 (0.81)	2.45 (0.92)
	N	401	432
IOS尺度得点	mean (SD)	3.30 (1.42)	3.36 (1.45)
	N	408	440
社会的役割の共有数	mean (SD)	1.04 (0.65)	1.27 (0.75)
	N	411	448
自尊心得点	mean (SD)	3.53 (0.59)	3.41 (0.58)
	N	425	459
年齢	mean (SD)	52.12 (16.35)	56.04 (15.36)
	N	460	493

NOTE : 沈黙への否定的な視点得点の中位点= 3、IOS 尺度得点の中位点=4、自尊の中位点=3、社会的役割の共有数は最小0-最大4。

それぞれに対して t 検定を行ったところ、次のような結果が得られた。まず沈黙への否定的な視点得点に都市と村落で有意差が認められた ($t(831) = 3.45, p < .01$)。Table1 から明らかのように、この有意差は村落と比較して都市において、親友との間に生じる沈黙はより否定的なものとして捉えられないことを示すものである。ただし、平均値を見るとわかるように、村落においても必ずしも沈黙は否定的なものとして捉えられていないことがわかる。

また社会的役割の共有数 ($t(846) = 4.83, p < .01$)、自尊心 ($t(857) = -3.11, p < .01$)、そして年齢 ($t(951) = 3.83, p < .01$) に都市と村落で有意差が認められた。Table1 から明らかのように、これらの有意差は村落と比較して、都市に居住する人の自尊心は高く、年齢は若い。そして親友との社会的役割の共有数は少ないことを示すものである。なお、IOS 尺度得点に都市と村落で有意差は認められなかった ($t(846) = 0.56, n.s.$)。これは都市と村落で、親友との間に同程度の心理的一体感が見出されていることを示している。

居住地の都鄙性が沈黙の捉え方に影響を及ぼす過程：仮説モデルの検証

先に行った t 検定の結果より、沈黙の捉え方に影響を及ぼすと考えられる、拒絶への感受性に関連する要因に都鄙差が認められた。また、沈黙の捉え方にも都鄙差が認められた。そこで沈黙への否定的な視点に影響を及ぼ

す要因を検討するため、仮説モデルにもとづきパス解析（最尤推定法、 $N=767$ ）を行った。その結果、Figure2に示すモデルが得られた。このモデルのデータに対する適合度は、 $\chi^2(7) = 9.76, p = .20$ 、 $GFI = 1.00$ 、 $AGFI = .99$ 、 $CFI = .98$ 、 $RMSEA = .02$ であり、データに対するモデルの当てはまりは良かった。また、全てのパス係数・共分散は 1%水準で有意であった。なお、居住地の都鄙性は都市が 1、村落が 0 のダミー変数として扱った。

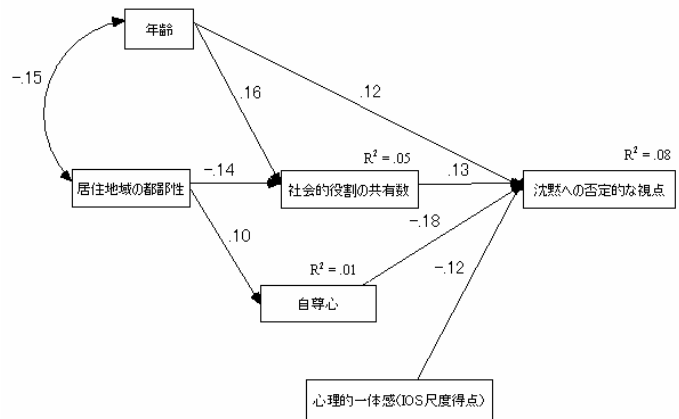


Figure2. 居住地の都鄙性が沈黙の捉え方に影響を及ぼす過程

このモデルは次のようなことを示すものである。居住地の都鄙性は社会的役割の共有数に有意な負の影響 ($\beta = -.14, p < .01$) を、そして自尊心に有意な正の影響 ($\beta = .10, p < .01$) を与えていた。また、年齢との有意な負の相関が認められた ($r = -.15, p < .01$)。これらは、先の t 検定と同様の結果であり、また先行研究 (森岡, 2000; 大谷, 1995a; 渡部・金児, 2004) と一致する結果である。都市と村落で、そこに居住する人の自尊心、年齢、そして親友との社会的役割の共有数の違いが認められるということは、親友との関係における拒絶への感受性の都鄙差を示唆するものである。具体的には、村落と比較して都市において、親友との関係に持ち込まれる拒絶への感受性は低いことが示唆されたといえる。

次に、居住地の都鄙性が影響を及ぼしていた社会的役割の共有数、自尊心、そして年齢が沈黙への否定的な視点に有意な影響を及ぼしていた。具体的にいえば、社会的役割の共有数と年齢が沈黙への否定的な視点に有意な正の影響を及ぼしていた (それぞれ、 $\beta = .13, p < .01$; $\beta = .12, p < .01$)。これは、親友との社会的役割の共有数が多いほど、また年齢が高いほど親友との間に生じる沈黙を否定的なものとして捉えていることを示すものである。そして、自尊心が沈黙への否定的な視点に有意な負の影

響を及ぼしていた ($\beta = -.18, p < .01$)。これは、自尊心が高いほど親友との間に沈黙を否定的なものとして捉えないことを示すものである。また、居住地域の都鄙性とは独立に、心理的一体感が沈黙への否定的な視点に有意な負の影響を及ぼしていた ($\beta = -.12, p < .01$)。これは、親友との心理的一体感が高いほど、その人物との間に生じる沈黙を否定的なものとして捉えないことを示すものである。

以上の4つの要因は、先行研究 (Bernscheid & Ammazalorso, 2001; Downey & Feldman, 1996; Knapp & Vangelisti, 2004; Murray et al., 2003) より拒絶への感受性との関連が示唆されてきたものである。宮崎 (2004; 2005) は、沈黙が何らかの形で相互作用者に否定的な影響を及ぼすのは、それが社会的拒絶としての機能を果たすためであるとしている。そしてパス解析の結果から、沈黙がその機能を付与されやすい状況、つまり拒絶への感受性が高まる状況 (e.g. 人を拒絶の影響から防衛する自尊心が低い) において、沈黙はより否定的なものとして捉えられることが明らかとなった。以上の結果は、宮崎 (2004; 2005) が述べてきた、沈黙の社会的拒絶としての機能という概念の妥当性を示すものであるといえよう。

上記をまとめると、居住地域の都鄙性が拒絶への感受性に関連する要因 (i.e. 自尊心、年齢、親友との社会的役割の共有数) に影響を及ぼし、それを媒介として沈黙の捉え方に影響を及ぼすという仮説モデルを支持されたといえるだろう。より具体的にいえば、村落と比較して、都市に居住する人の自尊心は高く、年齢は若い。そして親友との社会的役割の共有数は少ない。それらは親友との関係における拒絶への感受性を低める働きをする。それゆえ、親友との会話場面で生じる沈黙に社会的拒絶としての機能が付与されにくくなり、生じた沈黙はより否定的なものとして捉えられないという過程が示されたといえる。

沈黙の捉え方に影響を及ぼす要因：都鄙別の検討

パス解析より、自尊心、年齢、親友との社会的役割の共有数、心理的一体感が沈黙への否定的な視点に影響を及ぼすことが明らかとなった。しかし、都市と村落で異なる要因が沈黙への否定的な視点に影響を及ぼしていることも考えられる。そこで、都市・村落ごとに沈黙への否定的な視点得点を目的変数として重回帰分析を行い、その結果を Table2 に示した。なお、性別は男性が1、女性が0のダミー変数として扱った。

都鄙別の重回帰分析の結果は次のようなことを示すものであった。まず、都市と村落で共に、沈黙への否定的な視点に対して、自尊心が有意な負の回帰 (都市: $\beta =$

$-.13, p < .01$; 村落: $\beta = -.12, p < .05$) を、親友との社会的役割の共有数が有意な正の回帰 (都市: $\beta = .10, p < .05$; 村落: $\beta = .11, p < .05$) を示していた。これらの結果は上記のパス解析と同様のものである。

Table2. 沈黙への否定的な視点得点を目的変数とした重回帰分析の標準偏回帰係数 (ステップワイズ法)

説明変数	都市 (N=369)	村落 (N=393)
IOS尺度得点		-.16 ***
年齢		.12 *
性別	-.11 *	
自尊心	-.13 **	-.12 *
社会的役割の共有数	.10 *	.11 *
沈黙への受容的な視点	-.32 ***	-.31 ***
調整済みR ²	.14 ***	.16 ***

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

しかしながら、IOS 尺度得点、年齢、そして性別については、都市と村落でそれぞれ異なる結果が得られた。具体的には、IOS 尺度得点は村落においてのみ、沈黙への否定的な視点に有意な負の回帰を示していた ($\beta = -.16, p < .001$)。年齢も村落においてのみ、沈黙への否定的な視点得点に有意な正の回帰を示していた ($\beta = .12, p < .05$)。それぞれの変数の沈黙への否定的な視点への影響の方向は、上記のパス解析と同様のものではあった。そして、性別は都市においてのみ、沈黙への否定的な視点得点に有意な負の回帰を示していた ($\beta = -.11, p < .05$)。これは、男性と比較して女性のほうが沈黙を否定的なものとして捉えないことを示すものであった。以上の結果は、居住地域の都鄙性に伴う諸特徴が沈黙の捉え方に影響を及ぼすことに加え、居住地域の都鄙性によって、沈黙の捉え方に影響を及ぼす要因そのものが異なることを示すものである。

この中で特に注目すべきことは、親友との心理的一体感の影響力の違いである。なぜなら、Hasegawa & Gudykunst (1998) により、相手との親密性が沈黙の捉え方に影響を及ぼすことが示されているにも関わらず、都市においてはそのような関係が認められなかったからである。その意味で、心理的一体感の影響力の違いは、都市と村落における親友との関係のあり方の差異を浮き彫りにする上で重要な示唆をもたらすと考えられる。というのも、Knapp & Vangelisti (2004) が主張するように、

他者との間で生じる沈黙どのように捉えるかには、当該他者との関係性についての診断的な意味が含まれるからだ。

では、沈黙への否定的な視点に心理的一体感が影響を及ぼさなかったことは、都市で営まれる親友との関係についてどのような解釈をもたらすだろうか。しかし、質問紙調査だけでは、親友と具体的にどのような関係を営んでいるかについて深く知ることはできない。そのためには (1) 都市と村落のそれぞれにおいて、親友とどのような関係が営まれているのか、(2) その中で沈黙の捉え方の違いが親友との関係について何を語るのかを明らかにすることが必要となる。つまり、それぞれの居住地域における、沈黙の否定的な視点得点の高い人と低い人の、親友との関係のあり方の違いをより深く調べなければならぬ。そして、その中で特にそれぞれが営む関係の中で、拒絶への感受性がどのような影響を受けているかに注目する必要がある。

そこで、沈黙の捉え方への影響力の違いをもたらす要因を明らかにするため、都市と村落のそれぞれで沈黙に対して否定的な視点を持つ人と持たない人に対し、インタビュー調査を実施し親友との関係のあり方を尋ねた。それによって、都市と村落における親友との関係のあり方の違い、そしてそれぞれにおいて、沈黙を否定的に捉える人とそうでない人との親友との関係のあり方の違いが明らかになることが期待される。

インタビュー調査

方法

調査対象者と手続き 上述の質問紙に回答し、かつインタビュー調査への参加を承諾した人 (97 名) の中から、都市と村落でそれぞれ4名ずつ計8名 (男性7名、女性1名) を以下の基準で選出した。まず、沈黙への否定的な視点得点、IOS 尺度得点、そして自尊心得点のいずれかに欠損値がある場合、その人を対象から除外した。次に、相対的に沈黙への否定的な視点得点が低い人 (2.0 以下) と高い人 (3.0 以上) を選出した。その中で、都鄙別の重回帰分析結果をもとに、都市では自尊心の高低、村落では心理的一体感の高低を基準にして8名を選出した。それぞれの調査対象者の基礎データは Table3 のとおりである。

Table3 からわかるように、調査対象者の特徴として、年齢が総じて高く、そしてほとんどが男性であることが挙げられる。沈黙への否定的な視点得点は、高群においても絶対的な数値として高いわけではないが、低群と比

較した場合には、相対的に高い数値であるといえる。村落における IOS 尺度得点、都市における自尊心得点についても同様のことが当てはまる。

Table3. 調査対象者の基礎データ (調査実施順)

調査対象者	性別	年代	居住地域	沈黙への否定的な視点得点	IOS尺度得点	自尊心得点
A	男性	50代前半	村落	1.40 (低群)	5	3.90
B	男性	50代後半	都市	1.00 (低群)	1	4.40
C	女性	40代後半	村落	1.60 (低群)	7	3.00
D	男性	50代前半	都市	4.40 (高群)	3	2.50
E	男性	60代後半	村落	3.40 (高群)	3	3.60
F	男性	60代前半	都市	1.20 (低群)	2	4.00
G	男性	50代前半	都市	3.40 (高群)	3	3.30
H	男性	60代前半	村落	3.20 (高群)	3	3.20

上記の方法で選ばれた8名に対し、まず葉書にて近日に電話で連絡を取る旨を伝えた。その後、電話でインタビューの実施日程や実施場所等についてアポイントメントを取った。そしてそれぞれに対し、1対1の半構造化面接を実施し、質問紙で挙げてもらった親友との関係のあり方について尋ねた。インタビューは、対象者の自宅、喫茶店、役場等の公共施設、そして野外のいずれかの場所で行った。インタビューの内容は、対象者の了承の上ボイスレコーダーで記録した。また同時にフィールドノートにも記録した。インタビュー時間は30~60分であった。インタビュー終了後、謝礼として図書券 (2000円分) を渡した。調査は2005年2月6日~2月25日の間に行った。

主な質問事項 親友との関係のあり方を、次の3点から尋ねた。第1点目は、親友との関係の変遷についてである。ここでは、出会いの形態、関係がどのように進展したか、関係成立の理由、そして関係維持のための注意点などについて尋ねた。第2点目は、現在の親友との関係についてである。現在の接触形態、そして親友が果たす役割などについて尋ねた。第3点目は、親友との今後の関係についてである。親友に改善を望むこと、今後関係を維持するために必要な要因などについて尋ねた。

結果と考察

都市と村落で営まれる親友との関係はどのように違い、それがどのように沈黙への否定的な捉え方に影響を

及ぼすのであろうか。その要因を探ることがインタビュー調査の目的であった。以下では、まず本調査対象者の親友との関係についての基礎データを示し、都市と村落における親友との関係を取り巻く環境の違いを明らかにする。その後、それぞれの居住地域において沈黙への否定的な視点の差異を生み出す要因を、親友との関係の中に見出す。最後に、上記2点を総合し、都市と村落における親友との関係を取り巻く環境の違いにより、沈黙の捉え方にそれぞれ異なる影響を及ぼす要因が生み出されていることを考察する。

なお、以下で呈示される分析結果は、ボイスレコーダーで記録したインタビューのトランスクリプトと同時に記録したフィールドノートにもとにより再構成したものである。

調査対象者の親友との関係についての基礎データ

まずは、調査対象者の親友との関係についての基礎データを Table4 に示した。

Table4. 親友との関係についての基礎データ

調査対象者	付き合いの期間	出会いのきっかけ	現在共有する社会的役割	現在の対面での接触頻度
A	45,6年	保育園の同級生	なし	2,3年に1回
B	26,7年	職場の後輩	仕事仲間	月に1回
C	3年半~4年	友達の友達	近所の人	2週間に1回
D	10年以上	旅行先での偶然的な出会い	なし	月に1回
E	約50年	小学校の同窓生	近所の人	1週間に1回
F	約20年	職場の同僚	趣味の集まりのメンバー	月に何回か
G	約40年	幼稚園の同級生	なし	月に1回
H	約50年	小学校の同級生	近所の人	月に2,3回

NOTE: Table4 と同様、村落・沈黙への否定的な視点得点低=Aさん、Cさん、村落・否定的な視点得点高=Eさん、Hさん、都市・沈黙への否定的な視点得点低=Bさん、Fさん、都市・沈黙への否定的な視点得点高=Dさん、Gさんである。

Table4 より、今回の調査対象者の親友との関係が、次のような特徴を持つことがわかる。まず、調査対象者の年齢が高いこともあり、全体として付き合いの期間は極めて長い場合が多い。都市と村落を比較した場合、村落では小学校の同級生など幼馴染が親友として挙げられ

ることが多い (Aさん、Eさん、Hさん)。なお、都市で唯一、幼馴染を親友に挙げたGさんは、村落出身であり、そこで親友となった人物と出会っている。また、現在共有する社会的役割が近所の人である場合が多いため、接触頻度は当然多くなっている (Cさん、Eさん、Hさん)。一方都市では、親友として近所の人々が挙げられなかった。そして、親友となった人とは職場 (Bさん、Fさん) や旅行 (Dさん) という居住地域を離れた文脈で出会っていることがわかる。また、BさんとFさんは共に転職し、同種の仕事ではあるが現在親友とは異なる職場で働いている。そのため、現在の対面での接触頻度は、月に1回~数回程度になっている。

以上より、親友との関係を取り巻く環境の都鄙差について次のようにいえる。Table4 に示されるように、村落では親友との出会いの文脈として、居住地域の近接性が果たす役割が大きい (Fischer, 1982 も参照)。そして現在も居住地が近接している場合が多い (実際、質問紙調査の結果、今まで1度も引越しをしていない人の割合は、都市では7.2%であるのに対し、村落では39.4%であった)。そのため、親友との関係が居住地域という日常生活空間の中に埋め込まれているといえるだろう。これは、村落における親友との接触形態にも現れている。例えば、現在親友とどのように接触しているかという質問に対し、村落に住むEさんは次のように語る。

まあ、どっちかといったら自然というか、なりゆきまかせかな。たまたま道端であってそのまま話をすることもあるということもあるし。

親友との関係が日常生活空間に埋め込まれているからこそ、Eさんが述べるように親友と意図的に接触する必要はなくなるのである。

一方都市では、親友との出会いにおいて、居住地域という文脈の果たす役割が小さい (浅川, 2000; 林, 2000 も参照)。また、インタビュー調査からも示されているように、職場や居住地域などの日常生活空間の文脈内で出会ったとしても、職場や居住地などの移動性が高いため、その文脈から離れることが多い (林, 2000 も参照)。そのため、親友との関係が日常生活空間の中に埋め込まれていることが相対的に少ないといえる。先ほどと同様、都市における親友との接触形態をみてみよう。例えば、都市に住むFさんの親友との接触形態は次のようなものである。

会うときに行うのは大体ゴルフが多いですから、どっ

か安い案内状が来たら行こうとか、ちょっと時間が空いたら行って見ないとかそういう類の話です。だから、不特定、なんていうんですか、決まってないけど、そういう会合はよくおきます。

親友と日常生活空間を共有していないがゆえに、意図的に接触の場(ゴルフのコンペ)を持つことではじめて、親友との対面接触が成り立つといえよう。

沈黙への否定的な視点の差異を生み出す要因：都市と村落別の比較

次に、都市と村落のそれぞれにおいて、沈黙への否定的な視点に差異を生み出す要因を探る。それぞれの居住地域における、沈黙を否定的に捉える人とそうでない人では、親友との関係はどのように異なっているだろうか。

村落：親友との心理的一体感 まずは村落に居住する沈黙の否定的な視点得点の低い人(AさんとCさん)と高い人(EさんとHさん)の親友との関係を比較する。分析の過程で明らかになったことは、親友との心理的一体感の違いである。この結果は重回帰分析でも明らかになっている。しかし、心理的一体感が高いということに加え、それにより心理的一体感の高い相手(i.e. 親友)と低い相手(i.e. 地域に居住する親友以外の人)が弁別されているか否かということが、村落において沈黙の否定的な視点の高低を分ける要因であることが明らかになった。つまり、親友との心理的一体感が高いことに伴い、相対的に親友とそれ以外の人とが分化されている可能性が高いということである。その点の差異は、特に親友関係の成立理由を尋ねた質問の中で明らかになった。沈黙への否定的な視点得点の低いAさんとCさんは、親友関係成立の理由をそれぞれ次のように語っている。

何か物であっても人によって価値観は違ってくる。ただ、食べ物にしる、持ってるものにしる、その親友とは同じもの、差のないっていうのかな、それはあると思う。考えというよりも、同じようなレベル、目の視線が同じところと違うかなー。

考え方が同じだからかなー。性格は違うけど、考え方が同じっていうのがあると思う。買い物にしる、安いもの買いに行きか、というのも考え方が一緒やん。それで、いろんなものもお金使わずにどっか行きか、とか。ご飯でも安いもん食べよかとか、そんなやつやね。

2人の言説から、物事に対する視点あるいは価値観の共有が、親友関係成立の理由として挙げられていること

がわかる。このような価値観の共有は、Aron et al. (1992)が述べる心理的一体感の概念と同一のものである。同時に、価値観の共有は、それを共有する人と共有しない人を分化する際のモニターになっている。これは、居住地域に高校の同級生がまだ存在しており、その人達との付き合いもあるというAさんに、親友と地域の友達の違いについて尋ねた際の答えからもわかる。

親友と違い地域の友達とは価値観が違ってくる。一緒にいても空気みたいな存在(注: 親友)と、いてたらなんか話もしなければならぬし、どこか合う話がないというところに違いがある。

この言説に現れているように、物事に対する価値観の共有の度合いが親友とそうでない地域の人を分化する基盤となっている。また、このような分化は、親友が果たす役割として相互の援助関係を挙げたCさんの次の言説にも現れている。

お互いに助け合うという関係はその子(注: 親友)とだけ。誰でもねー、言ってええことと悪いこととあるやん。もうその子だけはいろんな話ができるから、いろんな話するけど、他の人にはそんなことはそうそう言えないし。

以上から、村落において沈黙を否定的に捉えない人の親友との関係の特徴として、価値観の共有、すなわち心理的一体感の高さを挙げることができる。またそれに伴い、心理的一体感をモニターとして親友とそうでない地域の人とが明確に分化されているという特徴を持っているといえよう。

一方、沈黙への否定的な視点得点の高いEさんとHさんは、親友関係成立の理由をそれぞれ次のように述べている。

やっぱり、近くに住んでるっていうことと、まあ考えがよく似てるっていうところかな。話してる中で興味もよく似てるし、話の馬が合うっていうのかな。ま、近くやし、時々会話し、話が合うっていうのかな。

田舎という環境がそうした人と違うかなー。やっぱり、人は助け合って生きていけるって言うけど、お互いにそう思うし。このあたりの環境がお互い助け合うという雰囲気を生んでいるというのがあります。

2人の言説の特徴として、居住地域の近接性、そしてそれにもとづく考え方の類似が親友関係の成立の理由に挙げられている。その点で、少なくとも親友との間に何らかの価値観が共有されているといえる。しかし、先に見た沈黙への否定的な視点得点が低い人たちと比較して、親友との間の心理的一体感は低い。なぜなら、日本における内集団成員との関係を、相互配慮の規範にもとづく関係性と心理的一体感ゆえに相互配慮が不要な関係性の2つに分類した村本・山口(2003)の議論に従うと、実際EさんとHさんは共に、親友関係においてある程度の相互配慮が必要であると述べているからである。このような言説は、気を使ったりしていたら友人関係は続かないと述べるAさんとCさんとは対照的である。Eさんは親友関係の維持のために注意してきた点を次のように語る。

やっぱり、相手の立場に立って、相手の気持ちを配慮するっていうのかな。自分の方に考えないということと、やっぱり相手に調子、調子合わせるって言うたらおかしいけども、そういうことやな。配慮しあうってことがなかったら、なかなか友達っていうのはそううまいこといかんと思うな。

加えて、EさんとHさんがいう考え方の類似点は、親友との間にのみ見られるものではなく、地域に住む人々に対しても認められている。なぜなら、考え方の類似の源泉は、地域全般に共通する環境的要因に見出されているからだ。実際、先ほど挙げたHさんの言説から、居住している地域の環境が、親友だけでなくそこに住む人たち全般に共通の考え方を生んでいることが読み取れる。以上より、沈黙への否定的な視点得点が低い人と比較して、同得点の高い人は、親友との心理的一体感はそれほど高くなく、むしろ相互配慮的な関係を営んでいる。そして親友と近隣に住む人々を明確に分化していないという特徴を持っているといえよう。

上記をまとめると、村落において沈黙の否定的な視点の高低での差異を、親友との心理的一体感の違い、それに伴う親友と地域に住むそれ以外の人とを分化する程度の違いに見出すことができる。質問紙調査からも示唆されるように、心理的一体感は当該他者との関係における拒絶への感受性を低める(Murray et al., 2003も参照)。そのため、親友との心理的一体感が高い場合、その人との関係における拒絶への感受性が低くなり、沈黙が否定的に捉えられにくくなっていると解釈できる。

都市：親友の代替可能性 次に都市に居住する沈黙の

否定的な視点得点の高い人(DさんとGさん)と低い人(BさんとFさん)の親友との関係を比較する。分析の過程で明らかになったのは、親友関係にある人物が果たす役割の特殊性、そしてそれに伴う代替可能性の違いである。この違いは、特に親友が果たす役割についての質問の中で明らかになった。それぞれの言説をもとに、その違いを具体的に見ていこう。沈黙への否定的な視点得点が低いBさんとFさんは親友が果たす役割をそれぞれ次のように語った。

仕事で人手が足りなくなったときに、本人さん(注：友人)もある程度仕事をしますから、本人さんが直にやる場合もありますし、本人さんが抱えてる下請けをこっちに応援にまわしてもらおうと。まあ、その仕事の消化の仕方の融通ですね。そういうことをやりますね。

趣味の問題でやってるんですよ、私の場合は。例えば野球なんかね、1人じゃないじゃできないですか。相手チームがあって、こっちのチームが構成できて初めてできるわけですよ。歯車なんですよ。私もそうだし相手もそうですよね。

これらの言説からわかるように、親友が果たす役割は、Bさんにとって仕事という枠内での援助関係であり、Fさんにとっては趣味の活動を成立させるためのメンバーである。ここで特に重要なことは、どちらの人も親友が果たす役割はその人物に特殊なものではないこと、それゆえその代替可能性が高いことである。例えば、Bさんは次のようにも語っている。

例えば僕らですから建築のほうなんですけど、住宅を作るのがうまい人間、それから店を作るのがうまい人間、やっぱり得意不得手があるんですよ。なので友人が不得手な部分は別の人間(注：依然勤めていた職場関係の人間など)がするってことはしょっちゅうあります。

また、現在はゴルフが主な趣味の活動であるFさんも、一緒にゴルフのラウンドを回る人間は他に多数存在しており、健康上の問題がない限りは、それらの人との関係は続いていこうと述べている。以上より、都市において沈黙を否定的に捉えない人の親友との関係は、親友に非特異的な役割関係とそれに伴うその人物の代替可能性の高さという特徴を持っているといえよう。

一方、沈黙への否定的な視点得点の高いDさんとGさ

んは親友が果たす役割をそれぞれ次のように述べている。

まあ話し相手というか。1人でのよりやっぱりね。人間話し相手がいてなければ寂しい、侘しいもんやからね。

同級生ということもあって自然と今まで一緒に遊んだりしてきた。まあ一言で言えば、気心が分かっているということかな。

親友が果たす役割は、Dさんにとってよき話し相手であり、Gさんにとっては気心の知れた遊び友達である。まず注目される点は、沈黙への否定的な視点が低い人と比較して、それが高い人の親友が果たす役割がその人物に特殊なこと、そしてより重要なことに現在同種の役割を果たす人物の代替可能性が低いという特徴が認められる。というのも、Dさんは現在健康上の理由で職場を退社しており、他に話し相手として挙げられたのは、以前の職場の同僚で、その人物ともたまたま電話で話をするくらいである。またGさんは、親友との関係が成立した生育環境と現在の居住環境は異なっている。かつ、親友関係成立の理由として同じ環境で育ったことに伴う価値観の一致を挙げている。そのため、DさんとGさんがそれぞれ現在生活する文脈において、同様の役割(e.g. 話し相手、気心の知れた遊び友達)を果たす相手を見つけるのは相対的に困難だといえる。その意味で、今後親友との関係を維持していくために必要な要因について尋ねた際の、Dさんの次の言説は興味深い。

適当な間(ま)の開きかたというのが必要になると思う。時々電話入れるかとか、そういう感じの。関係が途切れんような感じの。いっぺん途切れたら、だんだんと時間がたっていくからね。

これはまさに、Dさんの親友との関係への依存性を示している。Bernscheid & Ammazalorso (2001) が述べるように、関係相手の代替可能性が低いことに伴い、その相手との関係への依存性が強まっていると考えられる。以上より、沈黙への否定的な視点得点が低い人と比較して、同得点の高い人の親友との関係は、親友に特殊的な役割関係とそれに伴うその人物の代替可能性の低さという特徴を持っているといえよう。

上記をまとめると、都市において沈黙の否定的な視点の高低での差異を、親友が果たす役割の特殊性とそれに伴う代替可能性の違いに見出すことができるといえる。

質問紙調査からも示唆されているように、ある人物の代替可能性はその人との関係における拒絶への感受性に影響を及ぼす(Bernscheid & Ammazalorso, 2001も参照)。そのため、ある役割関係にある親友の代替可能性が低い場合、その人との関係における拒絶への感受性が高まり、沈黙が否定的に捉えられやすくなったと解釈できる。

沈黙への否定的な視点を生み出す要因の都鄙差：親友との関係を取り巻く環境の違いから

これまでの分析より、沈黙への否定的な視点の差異を生み出す要因として、村落では親友との心理的一体感とそれに伴う親友とそれ以外の近隣の人々との分化の程度が、都市では親友が果たす役割の特殊性とそれに伴う親友の代替可能性が相対的に重要であることがわかった。以下では、親友との関係を取り巻く環境の都鄙差という観点から、都市と村落における沈黙への否定的な視点を生み出す要因の差異を考察する。

村落において、親友との関係は特に居住地域という日常生活空間に埋め込まれていることが多かった。そのため、自己と親友との関係を取り巻く環境中には他の近隣の人々との関係も含まれており、自己と親友とのネットワーク成員が重複している場合が多い(Fischer, 1982)といえる。このような親友との間で重複するネットワークの中では、ひとたびその人物との関係が悪化すると、その人物を介してそれが同ネットワーク全体に広がる可能性がある(遠藤, personal communication)。またそのネットワークは日常生活空間に埋め込まれているので、そこから容易に離脱することはできない。だからこそ、村本・山口(2003)が述べるような相互配慮を必要とする関係性が生まれるのである。つまり、相手との関係が悪化することを防ぎ、調和的な関係を維持するため、我を押し通すのではなく相手を配慮する必要が生まれる(Markus & Kitayama, 1991)。このような環境下では、拒絶への感受性に影響を及ぼす要因として親友との心理的一体感の重要性が増す。なぜなら、相手からは拒絶されないという確証を持つ上で、そして、相手に対する配慮が必要か否かを認識するうえで、心理的一体感とそのモニターとなるからだ。

質問紙調査の結果から示唆されるように、親友との心理的一体感の高さは、その人物との関係における拒絶への感受性を低くめる(Murray, et al., 2003も参照)。加えて、親友との心理的一体感が増すことにより、自己が持つ他のネットワーク成員から親友との関係が切り離され、親友との関係において他のネットワーク成員のことを考慮する必要がなくなる。他方、親友との心理的一体感が低い場合、その人物との関係における拒絶への感受性が高

まる。同時に、自己と親友との関係を共有するネットワークの他の成員と分離できない。そのため、親友との関係が他のネットワーク成員に影響する恐れが出てくる。そして、親友と心理的一体感が高い人と低い人との間で、その人物との関係に持ち込まれる拒絶への感受性の差異が生まれる。その結果、親友との心理的一体感が沈黙への否定的な視点に影響を及ぼしたのだと解釈できる。

都市においては、親友との関係が日常生活空間という文脈の中に埋め込まれていることが少なかった。そのため、多様な社会的文脈で出会った人の中から、親友となる人物が選択的に選ばれており、自己と親友とのネットワーク成員が重複することは少ない (Fischer, 1982) といえる。このように親友との間でネットワーク成員が重複していない場合、ある役割関係にある親友との関係を離れると、親友とは異なる社会的文脈で出会った他のネットワーク成員がその役割を補える可能性は少ない。例えば、職場という社会的文脈で出会った親友が果たすものと同等の役割を、居住地域など他の文脈で出会った人物が果たすことができるとは考えにくい。そのため、親友が果たしていた役割をひとたび失うと、自己の今までの安定した幸福な生活が脅かされる可能性がある。このような環境下では、拒絶への感受性に影響を及ぼす要因としてある役割関係にある親友の代替可能性が重要になってくる。なぜなら、親友が果たす役割を他にも果たす人物がいるか否かということ、つまり代替可能性がその人物との関係を離れたときの代償に大きな影響を及ぼすからだ。

質問紙調査の結果から示唆されるように、親友の代替可能性の高さは、その人物との関係における拒絶への感受性を低くする (Bemscheid & Ammazalorso, 2001 も参照)。だから、ある役割関係にある人物たちが親友のほかにも複数存在する場合は、親友との関係に持ち込まれる拒絶への感受性が低くなる。他方、親友がその役割を一手に担うときには、その親友との関係を離れた場合の、自己の生活への影響は多大である。また、多様な社会的文脈の中から意図的に構築された親友関係であるがゆえに、その役割が親友に特化したものである場合、他の人物と再度同様の関係を構築するのに必要な資源 (e.g. 出合いのきっかけ、時間) は計り知れない。それゆえ、拒絶への感受性が高まると考えられる。そして、ある役割関係にある親友の代替可能性が高い人と低い人との間で、その人物との関係に持ち込まれる拒絶への感受性の差異が生まれる。その結果、親友の代替可能性が沈黙への否定的な視点に影響を及ぼしたのだと解釈できる。

従来の都市社会学の知見 (e.g. Fischer, 1982) やインタ

ビュー調査より明らかになっているように、都市と村落では親友との関係を取り巻く環境が異なる。そのような環境の都鄙差が、親友との関係に持ち込まれる拒絶への感受性に影響を与える要因の相対的な比重に差をもたらしている。具体的には、都市では親友の代替可能性、村落では親友との心理的一体感の影響力が相対的に大きい。そのため、都市と村落でそれぞれが沈黙への否定的な視点に異なる影響力を及ぼしたと解釈できる。

総合考察

本研究の目的は、宮崎 (2004; 2005) が述べる「沈黙の社会的拒絶としての機能」という枠組みを利用して、都市と村落における沈黙の捉え方の差異、そしてそれに影響を及ぼす要因を検討することであった。質問紙調査とインタビュー調査の結果から、都市に居住する人々が親友との間に生じる沈黙をどのように捉え、そしてどのような要因がその捉え方に影響を及ぼすかについて、次のことが明らかとなった。

まず、村落と比較して都市に居住する人の、自尊心は高く、年齢は若い。そして親友と共有される社会的役割は少ない。これらの要因は全て親友との関係における拒絶への感受性を低める効果を持つ (Bemscheid & Ammazalorso, 2001; Downey & Feldman, 1996; Knapp & Vangelisti, 2004)。そのため、親友との間に生じる沈黙は、村落と比較して都市においてより否定的なものとして捉えられにくくなっていた。この結果は、都市で営まれる親友との会話場面について次のようなことを示唆するものである。沈黙は一般的に否定的なものとして捉えられ、それが生じるとすぐに言葉で埋めようとする。そして、沈黙が生じた場合に、無理にでも何か話を続けなければならないという状況下では、その人物との会話は疲労感に満ちたものになる可能性が高い。他方、沈黙を否定的に捉えない、つまり沈黙に対して許容的であるということは、その人物との関係をより豊かなものにする (Knapp & Vangelisti, 2004)。なぜなら、宮崎 (2004; 2005) が述べる社会的拒絶としての機能以外にも、沈黙は様々な肯定的な機能を持つからだ (Jensen, 1973)。例えば、長年連れ添った親友との間に共有される沈黙には、何も言わなくてもお互いのことはわかっているというメッセージが含まれ、それゆえに親友との絆 (bond) を強める機能を持つとされる (Jensen, 1973)。沈黙がそのような肯定的な機能を持つ前提として、まずは沈黙に社会的拒絶としての機能が付与されないということが重要になるだろう。

次に、村落とは異なり都市においては、沈黙の捉え方

に影響を及ぼす要因として、心理的一体感の影響力は見られず、むしろ親友の代替可能性の影響力が強いということが明らかとなった。これは都市で営まれるコミュニケーション様式について次のようなことを示唆するものである。沈黙の捉え方に心理的一体感が影響を及ぼさないということは、コミュニケーションを行う相手が、親友であれ見知らぬ人であれ、沈黙が同じように捉えられることを示唆している (cf. Knapp & Vangelisti, 2004)。つまり、自尊心が高く、ある役割関係を果たす上でその相手の代替可能性が高い限り、自分がその人物とどのような関係にあるかはその否定的な捉え方に影響しない。沈黙への否定的な捉え方という点で見ると、相手との親密性はコミュニケーション様式に影響を及ぼさないのである。これは、村落と比較して都市において、関係独立的なコミュニケーション様式が発達していることを示唆するものである。すなわち、ある役割を果たす会話相手の代替可能性を一定にした場合、沈黙を否定的に捉える人は、相手が親友であろうが見知らぬ人であろうが、会話場面で生じる沈黙を嫌い、それを埋めようとするコミュニケーションを行う。一方、沈黙を否定的に捉えない人は、相手が親友であろうが見知らぬ人であろうが、会話場面で生じる沈黙を埋めようとはしないと推測される。興味深いことに、これは Hasegawa & Gudykunst (1998) の研究において、アメリカ人の調査対象者で得られた結果と類似するものである。彼らの研究では、アメリカ人 (cf. 日本人) は会話相手が親友であれ見知らぬ人であれ、沈黙への否定的な視点に差が見られないことが明らかになっている。日本とアメリカという文化差よりも、それぞれの文化における対人関係の埋め込まれている環境の差異が、沈黙の捉え方に影響を及ぼしているのではないかと考えられる。

本研究の限界

最後に本研究のいくつかの限界について言及する。まず、今回質問紙調査で沈黙の捉え方に影響を及ぼす要因として検討した4つの要因は、拒絶への感受性に影響を及ぼすものであり、直接的に拒絶への感受性を測定する指標ではない。それゆえ、パス解析や重回帰分析の結果からわかるように、沈黙の捉え方への影響力はあまり大きくない。例えば、パス解析において最も影響力の大きかった自尊心でも、パス係数は-.18である。今後の研究ではより直接的に拒絶への感受性を測定する必要がある。また、今回のインタビュー調査対象者は年齢が高く、そのほとんどが男性であった。そのため、得られた結果が他の年齢層や女性にも適用できるかは明らかでない。同理由で、都市においてのみ年齢が沈黙への否定的な視点

に有意な回帰を示さず、性別が有意な回帰を示した要因についても、今回のインタビュー調査の結果からは明らかになっていない。これらを検討するには今後の研究を待たなければならない。さらに、本研究では親友との間に生じる沈黙のみを扱っており、今回得られた結果が他の関係に適用できるかについても今後検討すべき課題である。

引用文献

- Argyle, M. & Henderson, M. 1985 *The anatomy of relationships: And the rules and skills to manage them successfully*. UK: Penguin. (吉森 護(編訳) 1985 人間関係のルールとスキル 北大路書房)
- Aron, A., Aron, E. N., & Smollan, D. 1992 Inclusion of other in the self scale and the structure of interpersonal closeness. *Journal of Personality and Social Psychology*, **63**, 596-612.
- 浅川達人 2000 都市度と友人ネットワーク 森岡清志(編) 都市社会のパーソナルネットワーク (pp.29-40) 東京大学出版会
- Baumeister, R. F., & Leary M. R. 1995 The need to belong: Desire for interpersonal attachments as a fundamental human motivation. *Psychological Bulletin*, **117**, 497-529.
- Barnlund, D. C. 1989 *Communicative styles of Japanese and Americans: Image and reality*. Belmont, CA: Wadsworth.
- Bernscheid, E. & Ammazalorso, H. 2001 Emotional experience in close relationships. In G. J. O. Fletcher & M. S. Clark (Eds.), *Blackwell handbook of social psychology: vol.2. Interpersonal Process* (pp.308-330). Malden, MA: Blackwell.
- Buckley, K. E., Winkel, R. E., & Leary, M. R. 2004 Reaction to acceptance and rejection: Effects of level and sequence of relational evaluation. *Journal of Experimental Social Psychology*, **40**, 14-28..
- Downey, G., & Feldman, S. I. 1996 Implications of rejection sensitivity for intimate relationships. *Journal of Personality and Social Psychology*, **70**, 1327-1343.
- Fischer, C. S. 1982 *To dwell among friends: Personal networks in town and city*. Chicago, IL: The University of Chicago Press. (松本 康・前田尚子(訳) 2002 友人のあいだで暮らすー北カリフォルニアのパーソナル・ネットワーク 未来社)
- Hasegawa, T., & Gudykunst, W. B. 1998 Silence in Japan and the United States. *Journal of Cross-Cultural Psychology*,

- 29, 668-684.
- 林 拓也 地域移動者のネットワーク 森岡清志(編) 2000 都市社会のパーソナルネットワーク (pp.57-70) 東京大学出版会
- 堀江尚子・金児曉嗣・河野由美・渡部美穂子・向井有理子・岸川真理子・宮崎弦太 2003 都市住民と村落住民の生活様式と価値観の特徴 (6) —ソーシャル・サポートの受容とネットワークの多層性— 日本社会心理学会第44回大会論文集, 732-733.
- Jaworski, A. 1993 *The power of silence*. Newbury Park, CA: Sage.
- Jaworski, A. 1997 Aesthetic, communicative and political silences in Laurie Anderson's performance art. In A. Jaworski (Ed.), *Silence: Interdisciplinary perspectives* (pp.15-35). New York: Mouton de Gruyter.
- Jensen, J. V. 1973 Communicative function of silence. *ETC: A REVIEW OF GENERAL SEMANTICS*, **30**, 249-257.
- Knapp, M. L. & Vangelisti, A. L. 2004 *Interpersonal communication and human relationships (5th Ed.)*. Boston, MA: Allyn and Bacon.
- Leary, M. R., Koch, E. J. & Hechenbleikner, N. R. 1999 Emotional responses to interpersonal rejection. In M. R. Leary (Ed.), *Interpersonal rejection* (pp.145-166). New York: Oxford University Press.
- Leary, M. R., Tambor, E. S., Terdal, S. K., & Downs, D. L. 1995 Self-esteem as an interpersonal monitor: The sociometer hypothesis. *Journal of Personality and Social Psychology*, **68**, 518-530.
- Li, H. Z. 2002 Culture, gender and self-close-other(s) connectedness in Canadian and Chinese samples. *European Journal of Social Psychology*, **32**, 93-104.
- 松本 康 1995 現代都市の変容とコミュニティ、ネットワーク 松本 康(編) 増殖するパーソナルネットワーク (pp.1-90) 勁草書房
- Markus, H. R. & Kitayama, S. 1991 Culture and the self: Implication for cognition, emotion, and motivation. *Psychological Review*, **98**, 224-253.
- 宮崎弦太 2004 会話場面で生じる沈黙の社会的拒絶としての機能 日本社会心理学会第45回大会論文集, 100-101.
- 宮崎弦太 2005 沈黙による不安：社会的拒絶としての機能の媒介 日本グループ・ダイナミックス学会第52回大会論文集, 84-85.
- 向井有理子・金児曉嗣・河野由美・渡部美穂子・岸川真理子・堀江尚子・宮崎弦太 2003 都市住民と村落住民の生活様式と価値観の特徴 (4) —自尊心と異文化受容— 日本社会心理学会第44回大会論文集, 728-729.
- 村本由紀子・山口 勸 2003 “自己卑下”が消えると—内集団の関係性に応じた個人と集団の成功の語り方— 心理学研究, **74**, 253-262.
- Murray, S. L., Griffin, D. W., Rose, P., & Bellavia, G. M. 2003 Calibrating the sociometer: The relational contingencies of self-esteem. *Journal of Personality and Social Psychology*, **85**, 63-84.
- Nezlek, J. B., Kowalski, R. M., Leary M. R., Blevins, T., & Holgate, S. 1997 Personality moderators of reactions to interpersonal rejection: Depression and trait self-esteem. *Personality and Social Psychology Bulletin*, **23**, 1235-1244.
- 大谷信介 1995a <都市的状况>と友人ネットワーク—大都市大学生と地方都市大学生の比較研究 松本康(編) 増殖するパーソナルネットワーク (pp.131-173) 勁草書房
- 大谷信介 1995b 現代都市住民のパーソナル・ネットワーク—北米都市理論の日本的解説— ミネルヴァ書房
- Reis, H. T., Clark, M. S., & Holmes, J. G. 2004 Perceived partner responsiveness as an organizing construct in the study of intimacy and closeness. In D. J. Mashek & A. Aron (Eds.), *Handbook of closeness and intimacy* (pp.201-125). Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.
- Reis, H. T., & Shaver, P. 1988 Intimacy as an interpersonal process. In S. Duck (Ed.), *Handbook of personal relationships* (pp.367-389). Chichester, England: Wiley.
- Rusbult, C. E., Arriaga, X. B., & Agnew, C. R. 2001 Interdependence in close relationships. In G. J. O. Fletcher & M. S. Clark (Eds.), *Blackwell handbook of social psychology: vol.2. Interpersonal Process* (pp.359-387). Malden, MA: Blackwell.
- 渡部美穂子・金児曉嗣 2004 都市は人の心と社会を疲弊させるか? 都市文化研究, **3**, 97-117.
- White, G. 1981 Some correlates of romantic jealousy. *Journal of Personality*, **49**, 129-147.

<問1> あなたの育った地域は農村地帯ですか、山村地帯ですか、漁村地帯ですか、それとも市街地ですか。あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	1農村地帯	2山村地帯	3漁村地帯	4半農半漁村地帯	5少し市街地	6ほとんど市街地	7大都市	8その他	計
村落	253	140	4	13	29	24	12	12	487
都市	49	20	7	9	25	50	275	18	453
計	302	160	11	22	54	74	287	30	940

$$X^2(7) = 480.39 \quad p < .01$$

<問2> あなたがこれまで一番長く住んだ（あるいは住んでいる）地域についておうかがいします。

(1) その地域は次のどれですか。あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	1農村地帯	2山村地帯	3漁村地帯	4半農半漁村地帯	5少し市街地	6ほとんど市街地	7大都市	8その他	計
村落	262	136	3	10	34	20	11	14	490
都市	9	2	2	1	11	36	387	10	458
計	271	138	5	11	45	56	398	24	948

$$X^2(7) = 745.85 \quad p < .01$$

<問3> あなたが現在のお住まいに住むことになったきっかけは次のどれですか。

あてはまる数字1つに○をつけてください。

	1自分の選択	2家族の都合	3親の代から	4その他	計
村落	127	42	295	26	490
都市	202	93	125	37	457
計	329	135	420	63	947

$$X^2(3) = 106.07 \quad p < .01$$

<問4> あなたはこれまで現住所以外にお住まいになったことはありますか。

あてはまる数字1つに○をつけてください。

	1はい	2いいえ	計
村落	295	192	487
都市	394	64	458
計	689	256	945

$$X^2(1) = 77.41 \quad p < .01$$

「はい」と答えられた方におうかがいします。
あなたは現住所に住む前、どちらにお住まいでしたか。あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	1現在住む県	2隣接する県	3近畿圏以外の大都市	4 1~3以外	5 1~4以外	計
村落	149	76	29	24	11	289
都市	237	60	36	34	19	386
計	386	136	65	58	30	675

$$X^2(4) = 12.18 \quad p < .05$$

<問6> 次のことは、あなたにどのくらいあてはまりますか。それぞれの文章について、もっとも

あてはまる数字に1つずつ○をつけてお答えください。

1) 自分と周りの人間との違いをよく意識する

	1まったくあてはまらない	2あまりあてはまらない	3どちらかといえばあてはまらない	4どちらかといえばあてはまる	5かなりあてはまる	6非常にあてはまる	計
村落	50	137	96	126	54	13	476
都市	34	151	84	109	56	14	448
計	84	288	180	235	110	27	924

$$X^2(5) = 4.99 \quad n.s.$$

2) 自分が他の人とは異なる点について、いろいろ考えてみることもある

	1まったくあてはまらない	2あまりあてはまらない	3どちらかといえばあてはまらない	4どちらかといえばあてはまる	5かなりあてはなる	6非常にあてはまる	計
村落	50	150	92	117	56	6	471
都市	50	134	96	106	44	17	447
計	100	284	188	223	100	23	918

$\chi^2(5)=7.61$ n.s.

3) 自分の考えと他の人の考えは、異質なものだと思う

	1まったくあてはまらない	2あまりあてはまらない	3どちらかといえばあてはまらない	4どちらかといえばあてはまる	5かなりあてはなる	6非常にあてはまる	計
村落	43	142	96	109	59	19	468
都市	39	99	106	112	58	29	443
計	82	241	202	221	117	48	911

$\chi^2(5)=9.82$ n.s.

4) 何かにつけて、他の人と自分の違いが気になる

	1まったくあてはまらない	2あまりあてはまらない	3どちらかといえばあてはまらない	4どちらかといえばあてはまる	5かなりあてはなる	6非常にあてはまる	計
村落	82	173	110	80	20	7	472
都市	101	151	105	63	21	5	446
計	183	324	215	143	41	12	918

$\chi^2(5)=5.23$ n.s.

5) 周囲の人と自分の違いについて考えることはあまりない

	1まったくあてはまらない	2あまりあてはまらない	3どちらかといえばあてはまらない	4どちらかといえばあてはまる	5かなりあてはなる	6非常にあてはまる	計
村落	41	124	118	95	73	18	469
都市	49	123	113	89	58	15	447
計	90	247	231	184	131	33	916

$\chi^2(5)=2.48$ n.s.

6) 自分の存在は、周囲に溶け込んでいないと思う

	1まったくあてはまらない	2あまりあてはまらない	3どちらかといえばあてはまらない	4どちらかといえばあてはまる	5かなりあてはなる	6非常にあてはまる	計
村落	96	179	105	64	26	2	472
都市	96	154	114	60	19	6	449
計	192	333	219	124	45	8	921

$\chi^2(5)=4.89$ n.s.

7) 自分は、周りの人たちとは違っていると思う

	1まったくあてはまらない	2あまりあてはまらない	3どちらかといえばあてはまらない	4どちらかといえばあてはまる	5かなりあてはなる	6非常にあてはまる	計
村落	98	195	96	60	19	7	475
都市	80	145	109	74	32	9	449
計	178	340	205	134	51	16	924

$\chi^2(5)=14.04$ $p < .05$

8) 人と一緒にいて違和感を感じることもある

	1まったくあてはまらない	2あまりあてはまらない	3どちらかといえばあてはまらない	4どちらかといえばあてはまる	5かなりあてはなる	6非常にあてはまる	計
村落	96	177	93	85	21	3	475
都市	98	152	91	75	26	5	447
計	194	329	184	160	47	8	922

$\chi^2(5)=2.75$ n.s.

9) 周囲の人と自分の考え方の間に、ギャップを感じる人が多い

	1まったくあてはまらない	2あまりあてはまらない	3どちらかといえばあてはまらない	4どちらかといえばあてはまる	5かなりあてはまる	6非常にあてはまる	計
村落	59	187	121	70	28	10	475
都市	58	155	115	87	26	7	448
計	117	342	236	157	54	17	923

$$X^2(5)=4.81 \text{ n.s.}$$

<問7> あなた自身についておうかがいします。以下のことはどのくらいあなたにあてはまりますか。

それぞれの文章について、もっともあてはまる数字に1つずつ○をつけてお答えください。

1) 自分は社会の役に立つ人間である

	1まったくあてはまらない	2どちらかといえばあてはまらない	3どちらともいえない	4どちらかといえばあてはまる	5とてもあてはまる	計
村落	20	53	211	166	28	478
都市	21	37	224	146	21	449
計	41	90	435	312	49	927

$$X^2(4)=4.64 \text{ n.s.}$$

2) 自分はまったくだめな人間だと思うことがある

	1まったくあてはまらない	2どちらかといえばあてはまらない	3どちらともいえない	4どちらかといえばあてはまる	5とてもあてはまる	計
村落	120	165	127	55	10	477
都市	104	177	104	52	11	448
計	224	342	231	107	21	925

$$X^2(4)=3.78 \text{ n.s.}$$

3) 自分には自慢できるところがあまりない

	1まったくあてはまらない	2どちらかといえばあてはまらない	3どちらともいえない	4どちらかといえばあてはまる	5とてもあてはまる	計
村落	50	114	200	94	18	476
都市	51	156	163	64	13	447
計	101	270	363	158	31	923

$$X^2(4)=15.92 \text{ } p < .01$$

4) 私はどのような人の前でも堂々としていられる

	1まったくあてはまらない	2どちらかといえばあてはまらない	3どちらともいえない	4どちらかといえばあてはまる	5とてもあてはまる	計
村落	45	122	171	108	31	477
都市	24	71	179	136	38	448
計	69	193	350	244	69	925

$$X^2(4)=23.09 \text{ } p < .01$$

5) 私は周囲の人に信頼されていない

	1まったくあてはまらない	2どちらかといえばあてはまらない	3どちらともいえない	4どちらかといえばあてはまる	5とてもあてはまる	計
村落	68	195	187	24	2	476
都市	81	184	152	24	7	448
計	149	379	339	48	9	924

$$X^2(4)=7.00 \text{ n.s.}$$

6) 少なくとも人並みには、価値のある人間である

	1まったくあてはまらない	2どちらかといえばあてはまらない	3どちらともいえない	4どちらかといえばあてはまる	5とてもあてはまる	計
村落	14	29	158	229	45	475
都市	12	27	129	216	59	443
計	26	56	287	445	104	918

$$X^2(4)=4.31 \text{ n.s.}$$

7) なにかにつけて、自分は役に立たない人間だと思う

	1まったくあてはまらない	2どちらかといえばあてはまらない	3どちらともいえない	4どちらかといえばあてはまる	5とてもあてはまる	計
村落	107	206	132	23	5	473
都市	130	177	110	23	5	445
計	237	383	242	46	10	918

$\chi^2(4) = 5.58$ n.s.

8) 周囲の人にとって、私はなくてはならない存在である

	1まったくあてはまらない	2どちらかといえばあてはまらない	3どちらともいえない	4どちらかといえばあてはまる	5とてもあてはまる	計
村落	17	53	225	142	39	476
都市	9	48	217	130	44	448
計	26	101	442	272	83	924

$\chi^2(4) = 2.84$ n.s.

9) 私はいろいろな良い素質を持っている

	1まったくあてはまらない	2どちらかといえばあてはまらない	3どちらともいえない	4どちらかといえばあてはまる	5とてもあてはまる	計
村落	15	52	249	139	23	478
都市	10	43	188	169	38	448
計	25	95	437	308	61	926

$\chi^2(4) = 16.02$ $p < .01$

10) 周囲の人は私には能力がないと思っている

	1まったくあてはまらない	2どちらかといえばあてはまらない	3どちらともいえない	4どちらかといえばあてはまる	5とてもあてはまる	計
村落	60	141	243	30	4	478
都市	81	169	176	19	4	449
計	141	310	419	49	8	927

$\chi^2(4) = 17.95$ $p < .01$

<問8> 次の意見についてあなたはどのように思いますか。あなたの意見にあてはまる数字に1つずつ○をつけてお答えください。

1) 海外援助をするなら、日本の利益にならないような援助はすべきではない

	1まったくそう思わない	2どちらかといえばそう思わない	3どちらともいえない	4どちらかといえばそう思う	5とてもそう思う	計
村落	73	111	127	133	36	480
都市	77	119	110	106	41	453
計	150	230	237	239	77	933

$\chi^2(4) = 4.20$ n.s.

2) 特別に外国の文化に接する機会をつくろうとは思わない

	1まったくそう思わない	2どちらかといえばそう思わない	3どちらともいえない	4どちらかといえばそう思う	5とてもそう思う	計
村落	69	141	159	99	11	479
都市	98	133	131	75	11	448
計	167	274	290	174	22	927

$\chi^2(4) = 10.26$ $p < .05$

3) 隣の家に外国の人が住むことになったら近所づきあいなどの面で不安を感じる

	1まったくそう思わない	2どちらかといえばそう思わない	3どちらともいえない	4どちらかといえばそう思う	5とてもそう思う	計
村落	98	144	130	97	10	479
都市	107	130	131	68	15	451
計	205	274	261	165	25	930

$\chi^2(4) = 6.37$ n.s.

4) もっと日本人はいろいろな部分で外国の人を受け入れていかなければならない

	1まったくそう思わない	2どちらかといえばそう思わない	3どちらともいえない	4どちらかといえばそう思う	5とてもそう思う	計
村落	7	45	162	197	66	477

都市	13	40	146	184	66	449
計	20	85	308	381	132	926

$\chi^2(4) = 2.52$ n.s.

5) 日本に住む外国の人には日本人と同じような生活スタイルをめざしてほしい

	1まったく 思わない	2どちらか といえそう 思わない	3どちら とも いえない	4どちらか といえ そう 思う	5とても 思う	計
村落	56	112	176	106	27	477
都市	61	133	153	78	25	450
計	117	245	329	184	52	927

$\chi^2(4) = 7.18$ n.s.

6) 生まれ変わるとしたら、また日本人に生まれたい

	1まったく 思わない	2どちらか といえそう 思わない	3どちら とも いえない	4どちらか といえ そう 思う	5とても 思う	計
村落	9	18	76	160	215	478
都市	17	24	91	122	196	450
計	26	42	167	282	411	928

$\chi^2(4) = 9.83$ $p < .05$

7) 最近の日本の治安の悪化には在日外国人の増加が関係していると思う

	1まったく 思わない	2どちらか といえそう 思わない	3どちら とも いえない	4どちらか といえ そう 思う	5とても 思う	計
村落	16	51	127	189	97	480
都市	21	42	104	175	110	452
計	37	93	231	364	207	932

$\chi^2(4) = 4.35$ n.s.

8) 他の民族の文化をもっとよく知りたい

	1まったく 思わない	2どちらか といえそう 思わない	3どちら とも いえない	4どちらか といえ そう 思う	5とても 思う	計
村落	13	40	148	201	73	475
都市	11	36	107	192	101	447
計	24	76	255	393	174	922

$\chi^2(4) = 10.84$ $p < .05$

9) 外国の人を前にするとつい身構えてしまう

	1まったく 思わない	2どちらか といえそう 思わない	3どちら とも いえない	4どちらか といえ そう 思う	5とても 思う	計
村落	40	61	176	162	35	474
都市	54	77	129	154	37	451
計	94	138	305	316	72	925

$\chi^2(4) = 10.87$ $p < .05$

10) 外国の文化がたくさん入ってきてこそ、日本の文化を発展させることができる

	1まったく 思わない	2どちらか といえそう 思わない	3どちら とも いえない	4どちらか といえ そう 思う	5とても 思う	計
村落	7	55	158	182	76	478
都市	11	38	175	156	69	449
計	18	93	333	338	145	927

$\chi^2(4) = 6.30$ n.s.

11) 日本人は価値ある民族だと思う

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらとも いえない	4どちらかと いえばそう 思う	5とてもそう 思う	計
村落	6	19	71	209	171	476
都市	7	14	72	179	178	450
計	13	33	143	388	349	926

$\chi^2(4)=2.57$ n.s.

12) 外国の人がたくさん集まっているとなんとなく怖く感じる

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらとも いえない	4どちらかと いえばそう 思う	5とてもそう 思う	計
村落	39	76	166	159	36	476
都市	53	73	116	171	39	452
計	92	149	282	330	75	928

$\chi^2(4)=11.00$ $p<.05$

13) 外国の人の日本滞在についてはもっと厳しい法律と取り締まりが必要だと思う

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらとも いえない	4どちらかと いえばそう 思う	5とてもそう 思う	計
村落	17	54	150	176	82	479
都市	13	31	135	167	103	449
計	30	85	285	343	185	928

$\chi^2(4)=9.21$ n.s.

14) わざわざ特別な努力をしてまで外国の人と交流したいとは思わない

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらとも いえない	4どちらかと いえばそう 思う	5とてもそう 思う	計
村落	35	100	157	162	28	482
都市	33	102	138	143	34	450
計	68	202	295	305	62	932

$\chi^2(4)=1.97$ n.s.

15) 外国の人が住むのに不便だと感じるような習慣はないほうがよい

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらとも いえない	4どちらかと いえばそう 思う	5とてもそう 思う	計
村落	41	107	206	106	16	476
都市	54	112	200	63	18	447
計	95	219	406	169	34	923

$\chi^2(4)=12.14$ $p<.05$

16) 外国の人の住む地域を限定したほうが、社会の秩序を保てると思う

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらとも いえない	4どちらかと いえばそう 思う	5とてもそう 思う	計
村落	113	160	158	31	15	477
都市	128	142	140	29	11	450
計	241	302	298	60	26	927

$\chi^2(4)=2.99$ n.s.

17) 私は日本人であることを誇りに思う

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらとも いえない	4どちらかと いえばそう 思う	5とてもそう 思う	計
村落	4	11	80	166	216	477
都市	8	16	78	149	199	450
計	12	27	158	315	415	927

$\chi^2(4)=3.12$ n.s.

18) 日本人に比べ外国の人は信用できない感じがする

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらとも いえない	4どちらかと いえばそう 思う	5とてもそう 思う	計
村落	46	76	219	109	25	475
都市	49	79	195	102	19	444
計	95	155	414	211	44	919

$\chi^2(4) = 1.55$ n.s.

19) 日本人と話すときに比べ、外国の人とは緊張してうまく話すことができない

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらとも いえない	4どちらかと いえばそう 思う	5とてもそう 思う	計
村落	22	25	111	205	109	472
都市	41	66	109	147	87	450
計	63	91	220	352	196	922

$\chi^2(4) = 35.74$ $p < .01$

20) 異なる民族の友人がたくさんほしい

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらとも いえない	4どちらかと いえばそう 思う	5とてもそう 思う	計
村落	38	88	201	106	44	477
都市	36	90	162	114	46	448
計	74	178	363	220	90	925

$\chi^2(4) = 3.70$ n.s.

21) 外国の文化を積極的に取り入れることは、日本にとってよいことである

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらとも いえない	4どちらかと いえばそう 思う	5とてもそう 思う	計
村落	4	37	155	201	77	474
都市	10	21	156	187	75	449
計	14	58	311	388	152	923

$\chi^2(4) = 6.85$ n.s.

22) 外国の人だけの集まりなどをするのは好ましくない

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらとも いえない	4どちらかと いえばそう 思う	5とてもそう 思う	計
村落	68	80	217	92	18	475
都市	59	99	202	67	20	447
計	127	179	419	159	38	922

$\chi^2(4) = 6.38$ n.s.

23) 日本が戦後に驚くほどの経済成長をとげたのは、国民が優秀だからだ

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらとも いえない	4どちらかと いえばそう 思う	5とてもそう 思う	計
村落	14	31	143	183	108	479
都市	17	44	108	184	95	448
計	31	75	251	367	203	927

$\chi^2(4) = 7.23$ n.s.

<問9> 次のことは、あなたにどのくらいあてはまりますか。

それぞれの文章について、もっともあてはまる数字に1つずつ○をつけてお答えください。

1) 人に影響されやすい

	1まったくあ てはまらな い	2あまりあて はまらない	3どちらかと いえばあて はまらない	4どちらかと いえばあて はまる	5かなりあて はなる	6非常にあ てはまる	計
村落	26	106	106	191	49	9	487
都市	32	131	116	119	43	13	454
計	58	237	222	310	92	22	941

$\chi^2(5) = 20.42$ $p < .01$

2) 周りに流されてしまうことはない

	1まったくあてはまらない	2あまりあてはまらない	3どちらかといえばあてはまらない	4どちらかといえばあてはまる	5かなりあてはなる	6非常にあてはまる	計
村落	18	99	168	122	63	13	483
都市	19	93	125	131	60	24	452
計	37	192	293	253	123	37	935

$$\chi^2(5) = 9.17 \text{ n.s.}$$

3) 集団で行動をすることが多い

	1まったくあてはまらない	2あまりあてはまらない	3どちらかといえばあてはまらない	4どちらかといえばあてはまる	5かなりあてはなる	6非常にあてはまる	計
村落	41	163	143	94	35	8	484
都市	69	169	133	58	19	4	452
計	110	332	276	152	54	12	936

$$\chi^2(5) = 21.13 \text{ } p < .01$$

4) 他の人につられて行動してしまうことがある

	1まったくあてはまらない	2あまりあてはまらない	3どちらかといえばあてはまらない	4どちらかといえばあてはまる	5かなりあてはなる	6非常にあてはまる	計
村落	31	124	134	156	34	3	482
都市	57	137	122	118	15	4	453
計	88	261	256	274	49	7	935

$$\chi^2(5) = 20.79 \text{ } p < .01$$

5) 基本的に、一人で行動することが多い

	1まったくあてはまらない	2あまりあてはまらない	3どちらかといえばあてはまらない	4どちらかといえばあてはまる	5かなりあてはなる	6非常にあてはまる	計
村落	19	90	139	137	68	26	479
都市	15	58	104	125	104	48	454
計	34	148	243	262	172	74	933

$$\chi^2(5) = 26.41 \text{ } p < .01$$

6) 自分の判断が、人の判断によって動かされることはない

	1まったくあてはまらない	2あまりあてはまらない	3どちらかといえばあてはまらない	4どちらかといえばあてはまる	5かなりあてはなる	6非常にあてはまる	計
村落	12	92	169	142	52	19	486
都市	17	71	158	111	78	19	454
計	29	163	327	253	130	38	940

$$\chi^2(5) = 11.86 \text{ } p < .05$$

7) 人に合わせて行動することが多い

	1まったくあてはまらない	2あまりあてはまらない	3どちらかといえばあてはまらない	4どちらかといえばあてはまる	5かなりあてはなる	6非常にあてはまる	計
村落	21	83	139	184	46	8	481
都市	34	105	159	116	36	4	454
計	55	188	298	300	82	12	935

$$\chi^2(5) = 24.20 \text{ } p < .01$$

8) 自分の行動が人の行動に左右されることがある

	1まったくあてはまらない	2あまりあてはまらない	3どちらかといえばあてはまらない	4どちらかといえばあてはまる	5かなりあてはなる	6非常にあてはまる	計
村落	26	95	155	166	40	2	484
都市	36	104	163	124	23	2	452
計	62	199	318	290	63	4	936

$$\chi^2(5) = 11.81 \text{ } p < .05$$

9) みんながしていたら、自分も同じようにすることが多い

	1まったくあてはまらない	2あまりあてはまらない	3どちらかといえばあてはまらない	4どちらかといえばあてはまる	5かなりあてはなる	6非常にあてはまる	計
村落	27	99	153	163	39	7	488
都市	53	117	154	106	19	5	454
計	80	216	307	269	58	12	942

$$X^2(5) = 28.07 \quad p < .01$$

<問10> この数週間のあいだ、あなたは次のようなことを感じたことがありますか。

あてはまる数字に1つずつ○をつけてお答えください。

1) とくに何かにわくわくしたり、興味をもったりしたことがありましたか

	1はい	2いいえ	計
村落	270	217	487
都市	283	172	455
計	553	389	942

$$X^2(1) = 4.23 \quad p < .05$$

2) じっとしてられなくて、椅子に長く座ってられないほど、落ち着かない思いをしたことがありましたか

	1はい	2いいえ	計
村落	126	362	488
都市	123	332	455
計	249	694	943

$$X^2(1) = 0.18 \quad n.s.$$

3) 誰かがあなたのしたことをほめてくれて、得意に思ったことがありましたか

	1はい	2いいえ	計
村落	196	289	485
都市	205	249	454
計	401	538	939

$$X^2(1) = 2.16 \quad n.s.$$

4) たいへん孤独に感じたり、または、他の人から孤立していると思ったことがありましたか

	1はい	2いいえ	計
村落	113	375	488
都市	99	357	456
計	212	732	944

$$X^2(1) = 0.28 \quad n.s.$$

5) 何かをやり遂げて、喜びを感じたことがありましたか

	1はい	2いいえ	計
村落	330	155	485
都市	301	154	455
計	631	309	940

$$X^2(1) = 0.38 \quad n.s.$$

6) 退屈だと感じたことがありましたか

	1はい	2いいえ	計
村落	156	329	485
都市	185	268	453
計	341	597	938

$$X^2(1) = 7.62 \quad p < .01$$

7) 意気揚々とした気分になったと感じたことがありましたか

	1はい	2いいえ	計
村落	271	485	485
都市	223	449	453
計	494	934	938

$$X^2(1)=3.61 \text{ n.s.}$$

8) 憂うつだと感じたり、不幸だと感じたりしたことがありましたか

	1はい	2いいえ	計
村落	152	337	489
都市	146	309	455
計	298	646	944

$$X^2(1)=0.11 \text{ n.s.}$$

9) ものごとが思い通りになっていると思ったことがありましたか

	1はい	2いいえ	計
村落	186	302	488
都市	196	259	455
計	382	561	943

$$X^2(1)=2.41 \text{ n.s.}$$

10) 誰かに非難されて、当惑したことがありましたか

	1はい	2いいえ	計
村落	112	376	488
都市	97	358	455
計	209	734	943

$$X^2(1)=0.36 \text{ n.s.}$$

<問11> 地域についての次のような意見に対して、あなたの現在のお気持ちにもっとも近いものはどれですか。あてはまる数字に1つずつ○をつけてお答えください。

1) 地域活動に参加して、さまざまな世代や職業の人と交流したい

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらかと いえばそう 思う	4とてもそう 思う	計
村落	41	142	259	42	484
都市	32	175	205	39	451
計	73	317	464	81	935

$$X^2(3)=9.79 \text{ } p < .05$$

2) 他人の家庭の問題に口を出すべきではない

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらかと いえばそう 思う	4とてもそう 思う	計
村落	15	42	243	186	486
都市	14	49	249	144	456
計	29	91	492	330	942

$$X^2(3)=5.04 \text{ n.s.}$$

3) いま住んでいる地域に、誇りや愛着のようなものを感じている

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらかと いえばそう 思う	4とてもそう 思う	計
村落	28	83	259	118	488
都市	32	110	224	87	453
計	60	193	483	205	941

$$X^2(3)=9.98 \text{ } p < .05$$

4) 近隣でもプライバシーに介入しないのが現代生活のルールだ

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらかと いえばそう 思う	4とてもそう 思う	計
村落	9	55	252	171	487
都市	9	65	276	104	454
計	18	120	528	275	941

$$X^2(3)=17.11 \quad p<.01$$

5) できるなら、いつまでもこの地域に住み続けたい

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらかと いえばそう 思う	4とてもそう 思う	計
村落	16	87	213	171	487
都市	40	91	230	94	455
計	56	178	443	265	942

$$X^2(3)=32.35 \quad p<.01$$

6) 地元の行事や祭りには積極的に参加したい

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらかと いえばそう 思う	4とてもそう 思う	計
村落	23	103	247	112	485
都市	43	177	192	43	455
計	66	280	439	155	940

$$X^2(3)=62.33 \quad p<.01$$

7) 子育ては、その子の親にまかせておくのがよい

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらかと いえばそう 思う	4とてもそう 思う	計
村落	32	175	212	62	481
都市	39	171	202	41	453
計	71	346	414	103	934

$$X^2(3)=4.42 \quad n.s.$$

8) 私は〇〇(市・町・村・区)民だという気持ちを持っている

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらかと いえばそう 思う	4とてもそう 思う	計
村落	39	105	217	120	481
都市	52	127	206	68	453
計	91	232	423	188	934

$$X^2(3)=17.79 \quad p<.01$$

9) 自分達の生活環境をよくするために、地域での活動に参加するのは当然だ

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらかと いえばそう 思う	4とてもそう 思う	計
村落	10	40	266	169	485
都市	16	85	281	72	454
計	26	125	547	241	939

$$X^2(3)=56.08 \quad p<.01$$

10) 近所づきあいは、あまり深入りせず浅くつきあうほうがよい

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらかと いえばそう 思う	4とてもそう 思う	計
村落	40	113	268	64	485
都市	12	95	282	65	454
計	52	208	550	129	939

$$X^2(3)=15.99 \quad p<.01$$

11) 私は自分の住んでいる地域のことばが好きだ

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらかと いえばそう 思う	4とてもそう 思う	計
村落	32	108	251	96	487
都市	16	94	250	94	454
計	48	202	501	190	941

$\chi^2(3)=5.18$ *n.s.*

12) 地域の人は助け合うのが大切だ

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらかと いえばそう 思う	4とてもそう 思う	計
村落	1	10	243	233	487
都市	2	20	284	147	453
計	3	30	527	380	940

$\chi^2(3)=25.12$ $\rho < .01$

13) 自分の今住んでいるところは住みよいところだ

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらかと いえばそう 思う	4とてもそう 思う	計
村落	19	85	264	117	485
都市	13	46	269	125	453
計	32	131	533	242	938

$\chi^2(3)=11.97$ $\rho < .01$

14) 地域活動には、日中に時間のある人だけでなく、勤めている人も参加すべきだ

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらかと いえばそう 思う	4とてもそう 思う	計
村落	21	105	257	102	485
都市	24	158	233	39	454
計	45	263	490	141	939

$\chi^2(3)=39.22$ $\rho < .01$

15) 子育てに関して他人が口を出すべきではない

	1まったくそ う思わない	2どちらかと いえばそう 思わない	3どちらかと いえばそう 思う	4とてもそう 思う	計
村落	44	187	197	59	487
都市	30	183	208	32	453
計	74	370	405	91	940

$\chi^2(3)=9.79$ $\rho < .05$

<問12>以下のうち、あなたの家で行事、祝い事をおこなっているものはありますか。
あてはまる数字すべてに○をつけてお答えください。

1. お正月

	0 いいえ	1 はい	計
村落	20	474	494
都市	45	416	461
計	65	890	955

$\chi^2(1)=12.27$ $\rho < .01$

2. ひな祭り

	0 いいえ	1 はい	計
村落	296	198	494
都市	313	148	461
計	609	346	955

$\chi^2(1)=6.57$ $\rho < .05$

3. 節分

	0 いいえ	1 はい	計
村落	198	296	494
都市	257	204	461
計	455	500	955

$$\chi^2(1) = 23.47 \quad p < .01$$

4. お彼岸

	0 いいえ	1 はい	計
村落	130	364	494
都市	254	207	461
計	384	571	955

$$\chi^2(1) = 82.17 \quad p < .01$$

5. 子どもの日

	0 いいえ	1 はい	計
村落	338	156	494
都市	348	113	461
計	686	269	955

$$\chi^2(1) = 5.89 \quad p < .05$$

6. 七夕

	0 いいえ	1 はい	計
村落	430	64	494
都市	417	44	461
計	847	108	955

$$\chi^2(1) = 2.77 \quad n.s.$$

7. お盆

	0 いいえ	1 はい	計
村落	48	446	494
都市	166	295	461
計	214	741	955

$$\chi^2(1) = 94.81 \quad p < .01$$

8. 十五夜

	0 いいえ	1 はい	計
村落	392	102	494
都市	427	34	461
計	819	136	955

$$\chi^2(1) = 35.49 \quad p < .01$$

9. 家族の誕生日

	0 いいえ	1 はい	計
村落	176	318	494
都市	118	343	461
計	294	661	955

$$\chi^2(1) = 11.26 \quad p < .01$$

10. クリスマス

	0 いいえ	1 はい	計
村落	262	232	494
都市	232	229	461
計	494	461	955

$$X^2(1)=0.70 \text{ n.s.}$$

11. 父の日

	0 いいえ	1 はい	計
村落	276	218	494
都市	275	186	461
計	551	404	955

$$X^2(1)=1.40 \text{ n.s.}$$

12. 母の日

	0 いいえ	1 はい	計
村落	249	245	494
都市	233	228	461
計	482	473	955

$$X^2(1)=0.00 \text{ n.s.}$$

13. 敬老の日

	0 いいえ	1 はい	計
村落	339	155	494
都市	339	122	461
計	678	277	955

$$X^2(1)=2.79 \text{ n.s.}$$

14. その他()

	0 いいえ	1 はい	計
村落	473	20	493
都市	433	28	461
計	906	48	954

$$X^2(1)=2.03 \text{ n.s.}$$

<問13> あなたと家族や親族の方々との人間関係についておうかがいします。

- (1) あなたの家族や親族で常日頃、頼ったり頼られたりする関係の方は、何人おられますか。
あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	なし	1人	2~4人	5~7人	8~10人	11~13人	それ以上	計
村落	11	13	168	156	78	33	28	487
都市	24	31	201	110	50	25	11	451
計	35	44	369	266	128	58	39	938

$$X^2(6)=36.89 \text{ } p < .01$$

- (2) あなたの家族や親族で、あなたが頼ったり頼られたりする方は、どのような関係の方ですか。
あてはまる数字すべてに○をつけてお答えください。

1. 配偶者

	0 いいえ	1 はい	計
村落	129	347	476
都市	190	239	429
計	319	586	905

$$X^2(1)=29.21 \text{ } p < .01$$

2. 実母

	0 いいえ	1 はい	計
村落	279	197	476
都市	238	191	429
計	517	388	905

$\chi^2(1)=0.91$ *n.s.*

3. 実父

	0 いいえ	1 はい	計
村落	348	128	476
都市	298	131	429
計	646	259	905

$\chi^2(1)=1.47$ *n.s.*

4. 義母

	0 いいえ	1 はい	計
村落	380	96	476
都市	346	83	429
計	726	179	905

$\chi^2(1)=0.10$ *n.s.*

5. 義父

	0 いいえ	1 はい	計
村落	408	68	476
都市	377	52	429
計	785	120	905

$\chi^2(1)=0.92$ *n.s.*

6. 結婚していない子ども

	0 いいえ	1 はい	計
村落	325	151	476
都市	314	115	429
計	639	266	905

$\chi^2(1)=2.63$ *n.s.*

7. 結婚している息子

	0 いいえ	1 はい	計
村落	324	152	476
都市	361	68	429
計	685	220	905

$\chi^2(1)=31.72$ $\rho < .01$

8. 息子の配偶者 (嫁)

	0 いいえ	1 はい	計
村落	365	111	476
都市	379	50	429
計	744	161	905

$\chi^2(1)=20.99$ $\rho < .01$

9. 結婚している娘

	0 いいえ	1 はい	計
村落	334	142	476
都市	345	84	429
計	679	226	905

$$\chi^2(1) = 12.66 \quad p < .01$$

10. 娘の配偶者 (婿)

	0 いいえ	1 はい	計
村落	377	99	476
都市	386	43	429
計	763	142	905

$$\chi^2(1) = 19.83 \quad p < .01$$

11. 兄弟

	0 いいえ	1 はい	計
村落	244	232	476
都市	249	180	429
計	493	412	905

$$\chi^2(1) = 4.18 \quad p < .05$$

12. 姉妹

	0 いいえ	1 はい	計
村落	302	174	476
都市	251	178	429
計	553	352	905

$$\chi^2(1) = 2.31 \quad n.s.$$

13. 祖父母

	0 いいえ	1 はい	計
村落	437	39	476
都市	402	27	429
計	839	66	905

$$\chi^2(1) = 1.20 \quad n.s.$$

14. おじ・おば

	0 いいえ	1 はい	計
村落	359	117	476
都市	357	72	429
計	716	189	905

$$\chi^2(1) = 8.30 \quad p < .01$$

15. いとこ

	0 いいえ	1 はい	計
村落	356	120	476
都市	359	70	429
計	715	190	905

$$\chi^2(1) = 10.76 \quad p < .01$$

16. その他 ()

	0 いいえ	1 はい	計
村落	443	33	476
都市	394	35	429
計	837	68	905

$\chi^2(1)=0.49$ n.s.

- (3) 一番あなたが、頼ったり頼られたりする家族や親族の方を、お一人思い浮かべてください。その方とは、どれ程ひんぱんに会ったり、連絡をとられたりしていますか。あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	ほぼ毎日	週に2~3回	週に1回	月に1~2回	2~3ヶ月に1回	年に2~3回	ほとんどない	計
村落	1	20	16	62	48	62	259	468
都市	2	26	35	66	41	49	208	427
計	3	46	51	128	89	111	467	895

$\chi^2(6)=14.11$ $p<.05$

- (4) 頼ったり頼られたりする支援内容を精神的なもの(相談・助言・励ましなど)と物質的なもの(物・お金のやり取り、手助けなど)に分けるとしたら、一番あなたが、頼ったり頼られたりする家族や親族の方との関係は、どのような配分になりますか。あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	1精神的な支援	2どちらも同じ	3物質的な支援	計
村落	236	191	36	463
都市	204	177	43	424
計	440	368	79	887

$\chi^2(2)=1.77$ n.s.

<問14> あなたと友人・知人の方々との人間関係についておうかがいします。

- (1) 友人・知人の中で親しくお付き合いをしている方は、何人おられますか。あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	なし	1人	2~4人	5~7人	8~10人	11~13人	それ以上	計
村落	30	17	194	136	53	25	28	483
都市	38	18	177	115	57	22	27	454
計	68	35	371	251	110	47	55	937

$\chi^2(6)=2.97$ n.s.

- (2) あなたが親しくお付き合いをしている友人・知人はどのような関係の方ですか。あてはまる数字すべてに○をつけてお答えください。

1. 近所の人

	0 いいえ	1 はい	計
村落	168	285	453
都市	278	138	416
計	446	423	869

$\chi^2(1)=76.78$ $p<.01$

2. 趣味の活動の仲間

	0 いいえ	1 はい	計
村落	312	141	453
都市	273	143	416
計	585	284	869

$\chi^2(1)=1.04$ n.s.

3. 幼なじみ

	0 いいえ	1 はい	計
村落	363	90	453
都市	370	46	416
計	733	136	869

$$\chi^2(1) = 12.75 \quad p < .01$$

4. 小・中学校時代の友人

	0 いいえ	1 はい	計
村落	337	116	453
都市	335	81	416
計	672	197	869

$$\chi^2(1) = 4.66 \quad p < .05$$

5. 高校時代の友人

	0 いいえ	1 はい	計
村落	346	107	453
都市	289	127	416
計	635	234	869

$$\chi^2(1) = 5.26 \quad p < .05$$

6. 大学時代の友人

	0 いいえ	1 はい	計
村落	407	46	453
都市	334	82	416
計	741	128	869

$$\chi^2(1) = 15.77 \quad p < .01$$

7. 現在の仕事関係の人

	0 いいえ	1 はい	計
村落	295	158	453
都市	264	152	416
計	559	310	869

$$\chi^2(1) = 0.26 \quad n.s.$$

8. 以前の仕事関係の人

	0 いいえ	1 はい	計
村落	349	104	453
都市	281	135	416
計	630	239	869

$$\chi^2(1) = 9.80 \quad p < .01$$

9. 自分の家族を通しての友人

	0 いいえ	1 はい	計
村落	354	99	453
都市	334	82	416
計	688	181	869

$$\chi^2(1) = 0.60 \quad n.s.$$

10. その他

	0 いいえ	1 はい	計
村落	436	17	453
都市	394	22	416
計	830	39	869

$$X^2(1)=1.19 \text{ n.s.}$$

<問15> 問14でお聞きした友人・知人の中で、あなたが一番親しくお付き合いをしている同性の友人・知人をお一人思い浮かべてください。

あなたとその友人・知人の方との関係についておたずねします。

- (1) その方とのお付き合いの期間はおよそ何年ですか。
あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	1年未満	1~3年	4~6年	7~9年	10~12年	13~15年	16~18年	それ以上	計
村落	1	18	37	28	38	46	54	228	450
都市	4	20	40	39	55	35	67	155	415
計	5	38	77	67	93	81	121	383	865

$$X^2(7)=22.36 \text{ } p < .01$$

- (2) その方とは現在、どれ程ひんぱんに会ったり、連絡をとられていますか。
あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	ほぼ毎日	週に2~3回	週に1回	月に1~2回	2~3ヶ月に1回	年に2~3回	ほとんどない	計
村落	5	48	45	127	79	92	52	448
都市	6	46	54	117	66	74	50	413
計	11	94	99	244	145	166	102	861

$$X^2(6)=3.10 \text{ n.s.}$$

- (3) 人と人が結びつく方法はさまざまあり、時の流れによって変化することもあります。あなたとその方との現在のつながりをあらわすものとして、友人・知人であることの他に、以下の中であてはまるものはありますか。あてはまる数字すべてに○をつけてお答えください。

1. 仕事（学校）仲間

	0 いいえ	1 はい	計
村落	278	175	453
都市	243	173	416
計	521	348	869

$$X^2(1)=0.79 \text{ n.s.}$$

2. 仕事・学校関係以外（町内会、趣味など）の集まりのメンバー

	0 いいえ	1 はい	計
村落	295	158	453
都市	293	123	416
計	588	281	869

$$X^2(1)=2.80 \text{ n.s.}$$

3. 近所の人

	0 いいえ	1 はい	計
村落	245	208	453
都市	308	108	416
計	553	316	869

$$X^2(1)=37.32 \text{ } p < .01$$

4. その他

	0 いいえ	1 はい	計
村落	408	45	453
都市	380	36	416
計	788	81	869

$$X^2(1)=0.42 \text{ n.s.}$$

5. なし

	0 いいえ	1 はい	計
村落	420	33	453
都市	357	59	416
計	777	92	869

$$X^2(1)=10.9 \text{ } p < .01$$

- (4) あなたとの方との関係を以下のような図であらわした場合、2人の関係をもっとも示していると思われるものはどれですか。左の円をあなた、右の円をその友人・知人の方と考えて、あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	1	2	3	4	5	6	7	計
村落	41	101	95	107	62	26	8	440
都市	45	80	100	105	52	19	7	408
計	86	181	195	212	114	45	15	848

$$X^2(6)=3.60 \text{ n.s.}$$

- (5) あなたとの方との友人・知人の方との普段の会話のありかたについておうかがいします。次のことは、その方と会話しているときのあなたにどのくらいあてはまりますか。それぞれの文章について、もっともあてはまる数字に1つずつ○をつけてお答えください。

1) その人が沈黙していると、何か話しかけようと努める

	1まったくあてはまらない	2どちらかといえばあてはまらない	3どちらともいえない	4どちらかといえばあてはまる	5とてもあてはなる	計
村落	43	73	112	176	36	440
都市	42	74	109	154	28	407
計	85	147	221	330	64	847

$$X^2(4)=1.24 \text{ n.s.}$$

2) その人と会話しているとき、お互いが黙ってしまうと気まずさを感じる

	1まったくあてはまらない	2どちらかといえばあてはまらない	3どちらともいえない	4どちらかといえばあてはまる	5とてもあてはなる	計
村落	121	149	92	55	25	442
都市	157	133	83	27	8	408
計	278	282	175	82	33	850

$$X^2(4)=23.03 \text{ } p < .01$$

3) その人が沈黙していると、何を考えているのか気になる

	1まったくあてはまらない	2どちらかといえばあてはまらない	3どちらともいえない	4どちらかといえばあてはまる	5とてもあてはなる	計
村落	108	125	101	84	23	441
都市	117	119	93	67	10	406
計	225	244	194	151	33	847

$$X^2(4)=6.44 \text{ n.s.}$$

4) その人とは言葉を交わさなくても、一緒にいることで心地よさを感じる

	1まったくあてはまらない	2どちらかといえばあてはまらない	3どちらともいえない	4どちらかといえばあてはまる	5とてもあてはなる	計
村落	14	29	119	204	78	444
都市	5	16	116	199	71	407
計	19	45	235	403	149	851

$$X^2(4)=6.85 \text{ n.s.}$$

- 5) その人が沈黙すると、自分との会話に退屈しているのではないかと思う

	1まったくあてはまらない	2どちらかといえばあてはまらない	3どちらともいえない	4どちらかといえばあてはまる	5とてもあてはなる	計
村落	103	159	107	62	11	442
都市	118	133	113	35	6	405
計	221	292	220	97	17	847

$\chi^2(4)=10.89 \quad p<.05$

6) その人との会話中に沈黙が生じても気にならない

	1まったくあてはまらない	2どちらかといえばあてはまらない	3どちらともいえない	4どちらかといえばあてはまる	5とてもあてはなる	計
村落	30	65	104	159	81	439
都市	42	52	80	132	99	405
計	72	117	184	291	180	844

$\chi^2(4)=9.53 \quad p<.05$

7) その人とお互い黙ったまましていると落ち着かない

	1まったくあてはまらない	2どちらかといえばあてはまらない	3どちらともいえない	4どちらかといえばあてはまる	5とてもあてはなる	計
村落	101	123	130	69	14	437
都市	121	120	110	46	8	405
計	222	243	240	115	22	842

$\chi^2(4)=8.54 \quad n.s.$

8) その人との会話中に長い沈黙があっても、無理に話題を見つけようとするしない

	1まったくあてはまらない	2どちらかといえばあてはまらない	3どちらともいえない	4どちらかといえばあてはまる	5とてもあてはなる	計
村落	29	96	133	129	52	439
都市	25	82	115	127	57	406
計	54	178	248	256	109	845

$\chi^2(4)=1.66 \quad n.s.$

9) その人が会話中に急に黙ると、自分が何か悪いことをしてしまったのではないかと思う

	1まったくあてはまらない	2どちらかといえばあてはまらない	3どちらともいえない	4どちらかといえばあてはまる	5とてもあてはなる	計
村落	87	131	130	69	22	439
都市	91	135	117	55	7	405
計	178	266	247	124	29	844

$\chi^2(4)=8.82 \quad n.s.$

10) 会話中にその人が沈黙しても不安にならない

	1まったくあてはまらない	2どちらかといえばあてはまらない	3どちらともいえない	4どちらかといえばあてはまる	5とてもあてはなる	計
村落	38	65	127	148	62	440
都市	35	56	119	129	67	406
計	73	121	246	277	129	846

$\chi^2(4)=1.19 \quad n.s.$

<問 16> 公的機関および民間専門機関がおこなっている活動についてうかがいます。

(1) 公的機関および民間専門機関の支援サービス・情報提供・活動について、あなたはどの程度ご存知ですか。もっともあてはまる数字に1つずつ○をつけてお答えください。

1) 健康福祉について(病院、休日医療診療所、相談センターなど)

	1まったく知らない	2あまり知らない	3少し知っている	4よく知っている	計
村落	24	127	240	95	486
都市	31	138	225	61	455
計	55	265	465	156	941

$\chi^2(3)=8.23 \quad p<.05$

2) 子育て、教育について（保育所、学童保育、子供会、PTA、保護者会、相談センターなど）

	1まったく知らない	2あまり知らない	3少し知っている	4よく知っている	計
村落	45	141	205	87	478
都市	92	150	170	40	452
計	137	291	375	127	930

$$\chi^2(3)=36.36 \quad p<.01$$

3) 高齢者に対して（介護保険、老人ホーム、老人クラブなど）

	1まったく知らない	2あまり知らない	3少し知っている	4よく知っている	計
村落	36	112	220	113	481
都市	75	149	171	59	454
計	111	261	391	172	935

$$\chi^2(3)=41.30 \quad p<.01$$

4) 障害者に対して（各種給付・助成、生活支援など）

	1まったく知らない	2あまり知らない	3少し知っている	4よく知っている	計
村落	62	160	191	65	478
都市	97	163	154	34	448
計	159	323	345	99	926

$$\chi^2(3)=20.48 \quad p<.01$$

5) 観光・文化・スポーツについて（観光案内、文化サークル、美術館、博物館、スポーツ施設など）

	1まったく知らない	2あまり知らない	3少し知っている	4よく知っている	計
村落	23	198	216	44	481
都市	37	169	208	40	454
計	60	367	424	84	935

$$\chi^2(3)=5.12 \quad n.s.$$

6) ビジネス・雇用について（人材育成、契約情報、中小企業支援など）

	1まったく知らない	2あまり知らない	3少し知っている	4よく知っている	計
村落	92	250	119	17	478
都市	100	229	108	15	452
計	192	479	227	32	930

$$\chi^2(3)=1.19 \quad n.s.$$

7) 暮らしについて（ボランティア、市民運動団体、税金、年金、生涯学習など）

	1まったく知らない	2あまり知らない	3少し知っている	4よく知っている	計
村落	42	166	224	49	481
都市	52	203	175	25	455
計	94	369	399	74	936

$$\chi^2(3)=17.87 \quad p<.01$$

(2) 以下の公的機関および民間専門機関の支援サービス・情報提供・活動で、あなたが実際に活用または参加しているのは次のどれですか。あてはまる数字すべてに○をつけてお答えください。

1. なし

	0 いいえ	1 はい	計
村落	290	203	493
都市	236	225	461
計	526	428	954

$$\chi^2(1)=5.61 \quad p<.05$$

2. 健康福祉について

	0 いいえ	1 はい	計
村落	360	133	493
都市	375	86	461
計	735	219	954

$\chi^2(1)=9.33$ $p<.01$

3. 子育て、教育について

	0 いいえ	1 はい	計
村落	419	74	493
都市	405	56	461
計	824	130	954

$\chi^2(1)=1.67$ *n.s.*

4. 高齢者に対して

	0 いいえ	1 はい	計
村落	390	103	493
都市	399	62	461
計	789	165	954

$\chi^2(1)=9.23$ $p<.01$

5. 障害者に対して

	0 いいえ	1 はい	計
村落	443	50	493
都市	428	33	461
計	871	83	954

$\chi^2(1)=2.67$ *n.s.*

6. 観光・文化・スポーツについて

	0 いいえ	1 はい	計
村落	398	95	493
都市	360	101	461
計	758	196	954

$\chi^2(1)=1.02$ *n.s.*

7. ビジネス・雇用について

	0 いいえ	1 はい	計
村落	470	23	493
都市	431	30	461
計	901	53	954

$\chi^2(1)=1.54$ *n.s.*

8. 暮らしについて

	0 いいえ	1 はい	計
村落	457	36	493
都市	424	37	461
計	881	73	954

$\chi^2(1)=0.18$ *n.s.*

9. その他

	0 いいえ	1 はい	計
村落	487	6	493
都市	457	4	461
計	944	10	954

$$\chi^2(1)=0.28 \text{ n.s.}$$

- (3) 公的機関および民間専門機関の支援サービス・情報提供・活動に関係する人で、あなたが顔見知りの人はおられますか。あてはまる数字すべてに○をつけてお答えください。

1. なし

	0 いいえ	1 はい	計
村落	406	88	494
都市	250	211	461
計	656	299	955

$$\chi^2(1)=86.66 \text{ } p < .01$$

2. 医療関係者(医師、保健師、看護師など)

	0 いいえ	1 はい	計
村落	230	264	494
都市	311	150	461
計	541	414	955

$$\chi^2(1)=42.43 \text{ } p < .01$$

3. 学校関係者(教員、PTAなど)

	0 いいえ	1 はい	計
村落	314	180	494
都市	361	100	461
計	675	280	955

$$\chi^2(1)=25.02 \text{ } p < .01$$

4. 福祉関係者(介護ヘルパー、ケースワーカーなど)

	0 いいえ	1 はい	計
村落	271	223	494
都市	350	110	460
計	621	333	954

$$\chi^2(1)=47.24 \text{ } p < .01$$

5. 役所職員

	0 いいえ	1 はい	計
村落	239	255	494
都市	405	56	461
計	644	311	955

$$\chi^2(1)=169.19 \text{ } p < .01$$

6. その他

	0 いいえ	1 はい	計
村落	491	3	494
都市	452	9	461
計	943	12	955

$$\chi^2(1)=3.48 \text{ n.s.}$$

- (4) 公的機関および民間専門機関の支援サービス・情報提供・活動に関係する人で、あなたが顔見知りの人は何人おられますか。あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	なし	1人	2~4人	5~6人	7~9人	10~12人	それ以上	計
村落	101	17	151	68	37	66	41	481
都市	221	27	117	41	9	15	20	450
計	322	44	268	109	46	81	61	931

$$X^2(6)=113.47 \quad p<.01$$

- (5) 公的機関および民間専門機関の支援サービス・情報提供・活動に関係する、あなたの顔見知りの方々とは、平均すると1週間にどれくらい会ったり、連絡をとられていますか(のべ回数でお答えください)。あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	なし	1回未満	1~3回	4~6回	それ以上	計
村落	187	193	65	23	6	474
都市	270	112	38	25	5	450
計	457	305	103	48	11	924

$$X^2(4)=43.24 \quad p<.01$$

- (6) あなたは、公的機関および民間専門機関の支援サービス・情報提供・活動を積極的に利用することに賛成ですか。もっともあてはまる数字に1つに○をつけてお答えください。

	1まったく賛成	2かなり賛成	3どちらかといえば賛成	4どちらかといえば反対	5かなり反対	6まったく反対	計
村落	119	138	204	10	2	2	475
都市	89	152	198	13	0	0	452
計	208	290	402	23	2	2	927

$$X^2(5)=8.92 \quad n.s.$$

<問17>あなたとあなたの周囲のすべての人間関係について、総じてあなたほどの程度

満足されていますか。あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	1まったく満足	2かなり満足	3どちらかといえば満足	4どちらかといえば不満	5かなり不満	6まったく不満	計
村落	17	134	268	49	9	1	475
都市	17	144	238	43	9	5	452
計	34	278	506	92	18	6	927

$$X^2(5)=4.68 \quad n.s.$$

<問18> 社会一般では、宗教とか信仰に関係することがらとして、次のようなことが行われています。

あなたがふだんなさっていることがありましたら、次の中からあてはまる数字すべてに○をつけてお答えください。

1. 墓参りをしている

	0 いいえ	1 はい	計
村落	60	434	494
都市	116	345	461
計	176	779	955

$$X^2(1)=26.88 \quad p<.01$$

2. この1~2年の間に、おみくじを引いたり、易や占いをしてもらったことがある

	0 いいえ	1 はい	計
村落	376	118	494
都市	282	179	461
計	658	297	955

$$X^2(1)=24.85 \quad p<.01$$

3. 祖先や亡くなった肉親の霊をまつる

	0 いいえ	1 はい	計
村落	178	316	494
都市	247	214	461
計	425	530	955

$$X^2(1)=29.73 \quad p<.01$$

4. 仏壇にお花やお仏飯をそなえる

	0 いいえ	1 はい	計
村落	149	345	494
都市	232	229	461
計	381	574	955

$$X^2(1)=40.43 \quad p<.01$$

5. 神棚にお花や水をそなえる

	0 いいえ	1 はい	計
村落	204	290	494
都市	335	126	461
計	539	416	955

$$X^2(1)=95.47 \quad p<.01$$

6. 決まった日に神社やお地蔵さんなどにお参りに行く

	0 いいえ	1 はい	計
村落	379	115	494
都市	398	63	461
計	777	178	955

$$X^2(1)=14.53 \quad p<.01$$

7. 折りにふれ、おつとめをしている

	0 いいえ	1 はい	計
村落	364	130	494
都市	369	92	461
計	733	222	955

$$X^2(1)=5.41 \quad p<.05$$

8. 聖典や教典など、宗教関係の本を折りにふれ読む

	0 いいえ	1 はい	計
村落	439	55	494
都市	409	52	461
計	848	107	955

$$X^2(1)=0.01 \quad n.s.$$

9. 宗教に関する新聞やパンフレットを読む

	0 いいえ	1 はい	計
村落	442	52	494
都市	414	47	461
計	856	99	955

$$X^2(1)=0.03 \quad n.s.$$

10. 信仰グループに参加している

	0 いいえ	1 はい	計
村落	443	51	494
都市	419	42	461
計	862	93	955

$\chi^2(1)=0.40$ *n.s.*

11. 奉仕グループに参加している

	0 いいえ	1 はい	計
村落	456	38	494
都市	443	18	461
計	899	56	955

$\chi^2(1)=6.20$ $p<.05$

12. この1～2年の間に身の安全や商売繁盛、安産、入試合格などを祈願しにいったことがある

	0 いいえ	1 はい	計
村落	258	236	494
都市	250	211	461
計	508	447	955

$\chi^2(1)=0.38$ *n.s.*

13. お守りやお札など縁起ものを自分の身のまわりにおいている

	0 いいえ	1 はい	計
村落	244	250	494
都市	249	212	461
計	493	462	955

$\chi^2(1)=2.04$ *n.s.*

14. ふだんから礼拝、おつとめ、布教など宗教的な行いをしている

	0 いいえ	1 はい	計
村落	406	88	494
都市	411	50	461
計	817	138	955

$\chi^2(1)=9.37$ $p<.01$

15. 初詣に行く

	0 いいえ	1 はい	計
村落	170	323	493
都市	155	306	461
計	325	629	954

$\chi^2(1)=0.08$ *n.s.*

16. 宗教とか信仰とかに関係していると思われることは何も行っていない

	0 いいえ	1 はい	計
村落	487	6	493
都市	446	15	461
計	933	21	954

$\chi^2(1)=4.59$ $p<.05$

<問19> 次の項目はある人の意見です。これらの意見について、あなたの意見にあてはまる数字に1つずつ○をつけてお答えください。

1) 祖先崇拝は美しい風習である

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	2	3	7	182	111	171	476
都市	6	4	15	198	103	125	451
計	2	7	22	380	214	296	927

$$X^2(5)=12.51 \quad p<.05$$

2) 宗教によって、自己の存在の意味が教えられる

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	28	15	114	198	61	47	463
都市	43	34	105	177	44	38	441
計	71	49	219	375	105	85	904

$$X^2(5)=15.26 \quad p<.01$$

3) 死者の供養をしないとたたりがあると思う

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	66	32	106	170	65	28	467
都市	86	44	117	140	34	24	445
計	152	76	223	310	99	52	912

$$X^2(5)=17.47 \quad p<.01$$

4) 信仰をもつことによって、人生の目標が与えられる

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	36	23	125	197	53	28	462
都市	53	40	140	152	27	32	444
計	89	63	265	349	80	60	906

$$X^2(5)=22.85 \quad p<..001$$

5) お寺、神社、教会などから安心感を得ることができる

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	21	15	73	240	81	43	473
都市	36	23	63	248	53	25	448
計	57	38	136	488	134	68	921

$$X^2(5)=16.44 \quad p<.01$$

6) 神社の境内にいると心が落ちつくことがある

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	25	11	94	244	61	24	459
都市	36	19	65	236	68	21	445
計	61	30	159	480	129	45	904

$$X^2(5)=9.91 \quad p<..10$$

7) 人は死んでも、繰り返し生まれ変わるものだ

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	85	35	121	147	39	30	457
都市	84	31	111	151	38	33	448
計	169	66	232	298	77	63	905

$$X^2(5) = .80 \text{ n.s.}$$

8) どんなに科学が進んでも、人間は信仰がなければ幸せになれない

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	41	25	141	178	46	38	469
都市	53	45	151	132	35	32	448
計	94	70	292	310	81	70	917

$$X^2(5) = 15.95 \text{ } p < .01$$

9) 仏様や神様を信心して願いごとをすれば、いつかその願いごとがかなえられる

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	44	36	121	189	50	29	469
都市	66	38	131	168	30	16	449
計	110	74	252	357	80	45	918

$$X^2(5) = 14.41 \text{ } p < .05$$

10) 氏神の祭りは、地域の結びつきを高めるのに必要である

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	11	6	44	241	103	71	476
都市	20	16	51	254	66	38	445
計	31	22	95	495	169	109	921

$$X^2(5) = 25.09 \text{ } p < .001$$

11) 死後の世界はあるように思える

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	67	34	112	175	45	27	460
都市	76	36	110	151	46	28	447
計	143	70	222	326	91	55	907

$$X^2(5) = 2.52 \text{ n.s.}$$

12) 信仰に裏打ちされた生き方こそ、人の真の生き方である

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	55	39	191	114	29	19	447
都市	77	56	155	111	20	21	440
計	132	95	346	225	49	40	887

$$X^2(5) = 12.19 \text{ } p < .05$$

13) 神や仏をそまつにするとばちがあたる

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	21	24	64	209	88	57	463
都市	39	21	79	194	62	47	442
計	60	45	143	403	150	104	905

$$X^2(5) = 12.72 \text{ } p < .05$$

14) よい生活を送るためには、何らかの宗教的信仰が必要である

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	48	34	129	163	46	39	459
都市	68	55	144	133	22	23	445
計	116	89	273	296	68	62	904

$$X^2(5)=24.66 \quad p < .001.$$

15) お盆などの昔からの宗教的行事には親しみを感ずる

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	6	5	36	217	124	90	478
都市	13	7	41	236	93	61	451
計	19	12	77	453	217	151	929

$$X^2(5)=13.26 \quad p < .05$$

<問20> 以下の質問について、あてはまる数字に1つずつ○をつけてお答えください。

(1) あなたの家には仏壇がありますか。

	1 いいえ	2 はい	計
村落	407	73	480
都市	236	221	457
計	643	294	937

$$X^2(1)=119.49 \quad p < .001$$

(2) あなたの家には神棚がありますか。

	1 いいえ	2 はい	計
村落	399	77	476
都市	160	287	447
計	559	364	923

$$X^2(1)=222.65 \quad p < .001$$

(3) あなたの家では先祖のお墓をおもちですか。

	1 いいえ	2 はい	計
村落	433	45	478
都市	349	106	455
計	782	151	933

$$X^2(1)=33.12 \quad p < .001$$

<問21> あなた自身は何か宗教を信仰していますか。次のなかから適当なものを1つ選んでください。

	1神道	2仏教	3キリスト教	4新宗教	5その他	6なし	計
村落	19	300	4	6	10	120	459
都市	12	196	11	9	14	205	447
計	31	496	15	15	24	325	906

$$X^2(5)=50.00 \quad p < .001$$

<問22> 以下のことは、あなたにあてはまりますか。それぞれの質問について、あてはまる数字に1つずつ○をつけてお答えください。

1) インターネットで海外のサイトをよく見ている

	1 いいえ	2 はい	計
村落	456	11	467
都市	412	31	443
計	868	42	910

$$X^2(1)=11.13 \quad p < .001$$

2) 外国人の友人・知人がいる

	1 いいえ	2 はい	計
村落	420	45	465
都市	360	84	444
計	780	129	909

$\chi^2(1)=15.93 \quad p<.001$

3) 海外のドラマや映画をよく見ている

	1 いいえ	2 はい	計
村落	279	191	470
都市	195	250	445
計	474	441	915

$\chi^2(1)=22.11 \quad p<.001$

4) 外国に住んだことがある

	1 いいえ	2 はい	計
村落	459	7	466
都市	417	27	444
計	876	34	910

$\chi^2(1)=13.25 \quad p<.001$

5) 海外の書物や雑誌をよく読んでいる

	1 いいえ	2 はい	計
村落	435	29	464
都市	399	44	443
計	834	73	907

$\chi^2(1)=4.15 \quad p<.05$

6) 外国人のメール友達・ペンフレンドがいる

	1 いいえ	2 はい	計
村落	455	11	466
都市	416	26	442
計	871	37	908

$\chi^2(1)=7.20 \quad p<.01$

7) 洋楽やその他の外国音楽が好きである

	1 いいえ	2 はい	計
村落	329	137	466
都市	214	231	445
計	543	368	911

$\chi^2(1)=47.91 \quad p<.001$

<問23>あなたにもっともあてはまると思われるタイプはどれですか。

(1) 次の1から4の中から1つを選んで、○をつけてください。(周囲)

	1曲げて同じ	2自然と同じ	3あえて違う	4自然と違う	計
村落	143	237	25	75	480
都市	140	189	20	100	449
計	283	426	45	175	929

$\chi^2(3)=8.54 \quad p<.05$

(2) 次の1から4の中から2つを選んで、○をつけてください。(人の意見)

	1自分の意見	2自分を押しさる	3逆の意見	4納得	計
村落	239	84	29	128	480
都市	295	52	28	79	454
計	534	136	57	207	934

$\chi^2(3)=24.31 \quad p<.001$

(3) 次の1から4の中から3つを選んで、○をつけてください。(その場の雰囲気)

	1逆らう	2勝手気まま	3流される	4従う	計
村落	15	28	138	300	481
都市	9	51	107	287	454
計	24	79	245	587	935

$$X^2(3)=11.64 \quad p<.01$$

(4) 次の1から4の中から4つを選んで、○をつけてください。(周りに流されること)

	1関係ない	2楽しむ	3仕方ない	4嫌	計
村落	136	130	161	56	483
都市	155	132	102	64	453
計	291	262	263	120	936

$$X^2(3)=14.08 \quad p<.01$$

<問24> 下記にAとBのふたつの文があります。どちらが、ふだんのあなたに近いですか。AとBとは必ずしも、正反対のことがらを表しているとは限りません。両方あてはまることも、両方あてはまらないこともあるかもしれませんが、あなたに、よりぴったりと思うものを選んで、あてはまる数字に1つずつ○をつけてください。

- 1) A まわりの人の意見に合わせる
B 自分の意見を主張する

	1Aにぴったりとあてはまる	2どちらかといえばA	3どちらかといえばB	4Bにぴったりとあてはまる	計
村落	32	291	140	10	473
都市	19	259	153	18	449
計	51	550	293	28	922

$$X^2(3)=7.42 \quad p<.10$$

- 2) A 個性を発揮する
B 協調性を尊重する

	1Aにぴったりとあてはまる	2どちらかといえばA	3どちらかといえばB	4Bにぴったりとあてはまる	計
村落	19	94	326	30	469
都市	19	125	272	29	445
計	38	219	598	59	914

$$X^2(3)=8.66 \quad p<.05$$

- 3) A まわりの人の期待にそうように、自分の考え方をあわせることが多い
B 自分の考え方は、まわりの人に批判されても、簡単には変わらないことが多い

	1Aにぴったりとあてはまる	2どちらかといえばA	3どちらかといえばB	4Bにぴったりとあてはまる	計
村落	30	312	118	10	470
都市	21	259	150	15	445
計	51	571	268	25	915

$$X^2(3)=10.65 \quad p<.05$$

- 4) A 自分の気持ちに正直な態度をとる
B まわりの人に合わせた態度をとる

	1Aにぴったりとあてはまる	2どちらかといえばA	3どちらかといえばB	4Bにぴったりとあてはまる	計
村落	38	216	207	10	471
都市	43	239	154	7	443
計	81	455	361	17	914

$$X^2(3)=8.93 \quad p<.05$$

- 5) A まわりの人がどう思うかを考えて、自分の意見を言う
 B 自分の意見は、いつも自信をもって発言する

	1Aにぴったりとあてはまる	2どちらかといえばA	3どちらかといえばB	4Bにぴったりとあてはまる	計
村落	30	307	114	18	469
都市	33	294	102	14	443
計	63	601	216	32	912

$$X^2(3) = .85 \text{ n.s.}$$

- 6) A どのようにしたらまわりの人から期待された役割を果たせるかを、第1に考える
 B どのようにしたら自分の能力を生かせるかを、第1に考える

	1Aにぴったりとあてはまる	2どちらかといえばA	3どちらかといえばB	4Bにぴったりとあてはまる	計
村落	33	250	170	16	469
都市	31	229	165	19	444
計	64	479	335	35	913

$$X^2(3) = .63 \text{ n.s.}$$

- 7) A まわりの人の反対を受けても、自分の望むことは実行する
 B まわりの人の反対を受ければ、自分の望むことは抑える

	1Aにぴったりとあてはまる	2どちらかといえばA	3どちらかといえばB	4Bにぴったりとあてはまる	計
村落	16	128	312	12	468
都市	23	153	251	17	444
計	39	281	563	29	912

$$X^2(3) = 10.32 \text{ } p < .05$$

- 8) A まわりの人が望むことよりは、自分らしさを発揮する
 B まわりの人が自分に望むことをする

	1Aにぴったりとあてはまる	2どちらかといえばA	3どちらかといえばB	4Bにぴったりとあてはまる	計
村落	24	182	246	14	466
都市	19	170	239	12	440
計	43	352	485	26	906

$$X^2(3) = .50 \text{ n.s.}$$

<問25> つぎに「あなたの死」についておうかがいします。それぞれの項目について、あなたはどのように思いますか。あなたの気持ちや意見にあてはまる数字に1つずつ○をつけてお答えください。

- 1) 私が死んだからといって、世界が変わるわけではない

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	10	5	26	148	117	176	482
都市	3	5	20	126	92	206	452
計	13	10	46	274	209	382	934

$$X^2(5) = 10.72 \text{ } p < .10$$

- 2) 今死ねば、私はあらゆる可能性を試さないままに終わってしまう

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	26	27	117	174	84	43	471
都市	26	28	100	159	87	52	452
計	52	55	217	333	171	95	923

$$X^2(5) = 2.51 \text{ n.s.}$$

3) 私にとって、自分自身の死とは最後の不幸なできごとである

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	49	53	141	112	65	53	473
都市	63	72	159	88	40	29	451
計	112	125	300	200	105	82	924

$$X^2(5)=20.06 \quad p<.001$$

4) 死ぬと私はまた別の世に生まれ変わって、よい人生を送ることができる

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	104	42	134	146	26	20	472
都市	94	44	142	127	25	21	453
計	198	86	276	273	51	41	925

$$X^2(5)=1.76 \quad n.s.$$

5) 私の死の瞬間を考えると息がつまる

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	51	60	135	134	50	40	470
都市	64	62	143	114	43	24	450
計	115	122	278	248	93	64	920

$$X^2(5)=7.44 \quad n.s.$$

6) 私の死は未知のことがらである

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	10	19	45	186	106	104	470
都市	19	17	56	162	95	100	449
計	29	36	101	348	201	204	919

$$X^2(5)=5.96 \quad n.s.$$

7) 死は、私にとって最後の苦しい瞬間である

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	35	33	138	150	57	52	465
都市	52	61	141	115	46	34	449
計	87	94	279	265	103	86	914

$$X^2(5)=20.99 \quad p<.001$$

8) 死は、私が立派にやりとげなければならない重要なできごとである

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	32	29	133	150	62	53	459
都市	31	48	122	144	64	38	447
計	63	77	255	294	126	91	906

$$X^2(5)=7.65 \quad n.s.$$

9) 死ぬと、私は清められて生まれ変わることができる

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	87	58	127	142	30	19	463
都市	80	68	149	115	25	12	449
計	167	126	276	257	55	31	912

$$X^2(5)=7.50 \quad n.s.$$

10) 死ぬ時に、何かこの世に自分で納得のゆく大きな意味を残せるように私は精一杯生きたい

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	11	12	52	190	103	101	469
都市	14	7	52	187	103	87	450
計	25	19	104	377	206	188	919

$\chi^2(5)=2.35$ n.s.

11) 死後、時間とともに私の存在は帳消しになっていく

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	22	40	106	157	78	61	464
都市	25	34	108	149	68	66	450
計	47	74	214	306	146	127	914

$\chi^2(5)=1.57$ n.s.

12) 私は死ぬことによってすべてを失う

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	41	61	154	104	48	56	464
都市	55	56	143	106	42	48	450
計	96	117	297	210	90	104	914

$\chi^2(5)=3.48$ n.s.

13) 私の死は、私が人生の素晴らしさを実感できるひとつの機会である

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	47	50	142	142	43	38	462
都市	35	52	152	147	32	28	446
計	82	102	294	289	75	66	908

$\chi^2(5)=5.07$ n.s.

14) 死は私自身のすべての終わりである

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	21	29	112	142	67	97	468
都市	28	28	109	132	63	92	452
計	49	57	221	274	130	189	920

$\chi^2(5)=1.40$ n.s.

15) 私の死について真剣に考えることはあまりない

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	14	38	81	189	83	69	474
都市	27	28	95	161	86	53	450
計	41	66	176	350	169	122	924

$\chi^2(5)=10.53$ $p < .10$

16) 私の死について考えるのは難しい

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	19	17	64	209	86	70	465
都市	12	23	62	189	79	83	448
計	31	40	126	398	165	153	913

$\chi^2(5)=4.60$ n.s.

17) 私の死についてはよく分らない

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	12	17	39	211	84	107	470
都市	8	9	47	178	102	105	449
計	20	26	86	389	186	212	919

 $X^2(5)=8.09$ n.s.

18) 死は、私にとって苦しみの究極の姿である

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	41	49	185	110	42	38	465
都市	58	71	177	87	28	23	444
計	99	120	362	197	70	61	909

 $X^2(5)=15.83$ $p < .01$

19) 死は私がどう生きたのかの集大成である

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	22	25	92	182	76	65	462
都市	19	22	105	172	67	60	445
計	41	47	197	354	143	125	907

 $X^2(5)=2.00$ n.s.

20) 死ぬまでに私は何か生きた証を残したい

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	20	13	69	179	103	83	467
都市	21	15	78	183	90	59	446
計	41	28	147	362	193	142	913

 $X^2(5)=5.21$ n.s.

21) 私の死は、私にとって最大の恐怖である

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	48	42	148	116	57	53	464
都市	58	52	146	104	45	40	445
計	106	94	294	220	102	93	909

 $X^2(5)=5.51$ n.s.

22) 私の死について考えてもしかたがない

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	20	21	81	171	70	105	468
都市	14	23	66	156	87	103	449
計	34	44	147	327	157	208	917

 $X^2(5)=4.84$ n.s.

23) 死がやってくるまで、私の死について考えなくてもかまわない

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	25	31	130	146	56	76	464
都市	23	40	114	148	64	60	449
計	48	71	244	294	120	136	913

 $X^2(5)=4.46$ n.s.

24) 死ねば私はもっとよい世界へ行ける

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	100	52	151	115	27	19	464
都市	82	67	158	107	17	15	446
計	182	119	309	222	44	34	910

$X^2(5) = 6.51$ n.s.

25) 私の死について考えると無性に恐ろしくなる

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	65	45	149	132	35	39	465
都市	72	61	150	99	41	24	447
計	137	106	299	231	76	63	912

$X^2(5) = 11.19$ $p < .05$

26) 私が死んでもまわりの状況は何ひとつ変わらない

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	21	46	124	147	57	70	465
都市	29	28	127	116	66	82	448
計	50	74	251	263	123	152	913

$X^2(5) = 10.61$ $p < .10$

27) 死とは私が永久になくなってしまうことである

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	22	30	126	112	66	114	470
都市	28	34	111	99	66	111	449
計	50	64	237	211	132	225	919

$X^2(5) = 2.28$ n.s.

<問26> 問25では、あなた自身の死についてどのように考えているかを答えていただきました。次に、身近で大切な人の死についてお聞きしたいと思います。あなたはこれまでに身近な人を亡くされた経験がありますか。以下のいずれかの数字1つに○をつけ、それぞれ指示のとおり次の問へお進みください。

	1ある	2 ない	計
村落	440	45	485
都市	409	49	458
計	849	94	943

$X^2(1) = .53$ n.s.

<問27> 問26で、「ある」と答えた人におうかがいします。

(1) そのなかでもっとも印象に残り、大切であった人はどなたですか。あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	1父	2母	3兄	4姉	5弟	6妹	7祖父	8祖母	9おじ
村落	126	96	12	3	7	1	29	43	10
都市	90	98	14	3	6	3	34	40	11
計	216	194	26	6	13	4	63	83	21

	10おば	11いとこ	12親友	13恋人	14ペット	15配偶者	16子ども	17その他	計
村落	7	4	4	0	2	21	15	12	392
都市	4	2	9	1	9	27	10	12	373
計	11	6	13	1	11	48	25	24	765

$X^2(16) = 17.96$ n.s.

<問28> 問26で、「ない」と答えた人におうかがいします。今、自分以外で、あなたにとってもっとも大切な人はどなたですか。あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	1父	2母	3兄	4姉	5弟	6妹	7祖父	8祖母	9おじ
村落	4	1	0	0	0	1	0	0	0
都市	3	9	0	1	1	1	0	1	0
計	7	4	0	1	0	0	0	1	0

	10おば	11いとこ	12親友	13恋人	14ペット	15配偶者	16子ども	17その他	計
村落	0	1	2	2	0	22	8	1	42
都市	0	0	1	2	1	15	11	0	46
計	0	1	3	4	1	37	19	1	88

$X^2(12)=14.52$ n.s.

<問29> つぎに「大切な人の死」についておたずねします。問27で選んだもっとも印象に残り、大切に
あつた人の死について、あなたの考えにあてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

1) その人が死んだからといって、世界が変わるわけではなかった

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	21	38	76	148	65	73	421
都市	23	36	66	132	62	80	399
計	44	74	142	280	127	153	820

$X^2(5)=1.57$ n.s.

2) その人はあらゆる可能性を試さないままに終わってしまった

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	40	61	111	108	52	49	421
都市	41	64	117	81	56	38	397
計	81	125	228	189	108	87	818

$X^2(5)=4.94$ n.s.

3) その人にとって、その人自身の死とは最後の不幸なできごとであった

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	32	49	90	118	63	69	421
都市	37	51	117	99	51	44	399
計	69	100	207	217	114	113	820

$X^2(5)=11.80$ $p < .05$

4) その人はまた別の世に生まれ変わって、よい人生を送っているだろう

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	52	26	83	138	60	65	424
都市	40	26	84	145	52	54	401
計	92	52	167	283	112	119	825

$X^2(5)=2.69$ n.s.

5) その人の死の瞬間を考えると息がつまる

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	27	15	82	147	67	86	424
都市	26	35	98	117	63	61	400
計	53	50	180	264	130	147	824

$X^2(5)=16.54$ $p < .01$

6) その人の死は未知のことがらであった

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	29	25	90	131	64	65	404
都市	24	31	109	122	57	48	391
計	53	56	199	253	121	113	795

$X^2(5)=6.00$ n.s.

7) 死は、その人にとって最後の苦しい瞬間であった

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	22	34	105	115	57	72	405
都市	33	35	128	109	41	48	394
計	55	69	233	224	98	120	799

$$X^2(5)=11.91 \quad p<.05$$

8) 死は、その人が立派にやりとげなければならない重要なできごとであった

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	35	35	115	132	43	41	401
都市	39	39	119	123	55	13	388
計	74	74	234	255	98	54	789

$$X^2(5)=16.60 \quad p<.01$$

9) 死んで、その人は清められて生まれ変わることができた

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	60	39	111	130	31	32	403
都市	49	39	124	132	34	14	392
計	109	78	235	262	65	46	795

$$X^2(5)=8.88 \quad n.s.$$

10) 死ぬ時に、何かこの世に自分で納得のゆく大きな意味を残せるようにその人には精一杯生きてほしかった

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	28	22	106	139	57	52	404
都市	26	29	115	131	48	43	392
計	54	51	221	270	105	95	796

$$X^2(5)=3.08 \quad n.s.$$

11) 死後、時間とともにその人の存在は帳消しになった

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	73	67	153	74	16	24	407
都市	78	75	137	73	20	9	392
計	151	142	290	147	36	33	799

$$X^2(5)=8.49 \quad n.s.$$

12) その人は死ぬことによってすべてを失った

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	57	65	147	68	33	39	409
都市	53	67	133	72	30	38	393
計	110	132	280	140	63	77	802

$$X^2(5)=.83 \quad n.s.$$

13) その人の死は、その人が人生の素晴らしさを実感できるひとつの機会であった

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	45	34	120	130	41	36	406
都市	31	49	118	137	33	21	389
計	76	83	238	267	74	57	795

$$X^2(5)=9.94 \quad p<.10$$

14) 死はその人自身のすべての終わりであった

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	32	41	121	94	47	73	408
都市	33	35	117	101	47	58	391
計	65	76	238	195	94	131	799

$$X^2(5)=2.16 \quad n.s.$$

15) その人の死について真剣に考えることはあまりなかった

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	46	63	114	120	35	29	407
都市	54	54	97	125	37	25	392
計	100	117	211	245	72	54	799

$\chi^2(5)=2.88$ n.s.

16) その人の死について考えるのは難しい

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	22	37	109	150	48	39	405
都市	25	32	102	149	50	33	391
計	47	69	211	299	98	72	796

$\chi^2(5)=1.08$ n.s.

17) その人の死についてはよく分らない

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	35	47	125	129	34	33	403
都市	37	44	106	140	39	24	390
計	72	91	231	269	73	57	793

$\chi^2(5)=3.72$ n.s.

18) 死は、その人にとって苦しみの究極の姿であった

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	39	62	133	88	37	51	410
都市	40	67	143	82	30	30	392
計	79	129	276	170	67	81	802

$\chi^2(5)=6.56$ n.s.

19) 死はその人がどう生きたのかの集大成であった

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	21	30	87	160	50	55	403
都市	24	33	107	144	49	32	389
計	45	63	194	304	99	87	792

$\chi^2(5)=9.09$ n.s.

20) 死ぬまでにその人には何か生きた証を残してほしかった

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	44	44	139	108	35	36	406
都市	28	45	145	113	31	28	390
計	72	89	284	221	66	64	796

$\chi^2(5)=4.73$ n.s.

21) その人の死は、私にとって最大の恐怖であった

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	35	42	137	80	57	58	409
都市	42	36	133	89	37	54	391
計	77	78	270	169	94	112	800

$\chi^2(5)=5.63$ n.s.

22) その人の死について考えてもしかたがないと思った

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	47	48	119	123	35	34	406
都市	46	51	113	125	31	26	392
計	93	99	232	248	66	60	798

$\chi^2(5)=1.34$ n.s.

23) 死がやってくるまで、その人の死について考えなくてもかまわないと思っていた

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	45	52	108	117	44	39	405
都市	31	57	117	111	38	37	391
計	76	109	225	228	82	76	796

$\chi^2(5)=3.57$ n.s.

24) 死んでその人はもっとよい世界にいる

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	46	24	88	150	44	53	405
都市	31	27	77	156	52	47	390
計	77	51	165	306	96	100	795

$\chi^2(5)=4.70$ n.s.

25) その人の死について考えると無性に恐ろしくなった

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	64	57	154	74	31	27	407
都市	49	62	163	70	24	22	390
計	113	119	317	144	55	49	797

$\chi^2(5)=3.61$ n.s.

26) その人が死んでもまわりの状況は何ひとつ変わらなかった

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	63	62	149	72	27	35	408
都市	56	72	120	85	38	20	391
計	119	134	269	157	65	55	63

$\chi^2(5)=10.96$ $p < .10$

27) 死とはその人が永久になくなってしまふことであつた

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	39	42	109	100	41	80	411
都市	32	45	107	93	43	71	391
計	71	87	216	193	84	151	802

$\chi^2(5)=1.15$ n.s.

<問30> つぎに「大切な人の死」についておたずねします。問28で選んだ今、自分以外で、あなたにとってもっとも大切な人の死について、あなたの考えにあてはまる数字に1つに○をつけてお答えください。

1) その人が死んだからといって、世界が変わるわけではない

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	7	4	14	16	2	3	46
都市	4	8	11	14	5	4	46
計	11	12	25	30	7	7	92

$\chi^2(5)=4.07$ n.s.

2) 死ねば、その人はあらゆる可能性を試さないままに終わってしまう

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	3	2	11	17	4	9	46
都市	1	1	9	20	11	4	46
計	4	3	20	37	15	13	92

$\chi^2(5)=6.97$ n.s.

3) その人にとって、その人自身の死とは最後の不幸なできごとである

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	2	6	12	13	4	9	46
都市	1	2	16	11	8	8	46
計	3	8	28	24	12	17	92

$$X^2(5)=4.64 \text{ n.s.}$$

4) 死ぬとその人はまた別の世に生まれ変わって、よい人生を送ることができる

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	6	6	8	20	2	4	46
都市	8	5	14	11	3	4	45
計	14	11	22	31	5	8	91

$$X^2(5)=4.82 \text{ n.s.}$$

5) その人の死の瞬間を考えると息がつまる

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	1	2	11	14	6	12	46
都市	1	1	4	9	15	16	46
計	2	3	15	23	21	28	92

$$X^2(5)=9.12 \text{ n.s.}$$

6) その人の死は未知のことからである

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	1	2	6	16	7	14	46
都市	1	3	3	16	8	15	46
計	2	5	9	32	15	29	92

$$X^2(5)=1.30 \text{ n.s.}$$

7) 死は、その人にとって最後の苦しい瞬間である

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	2	5	10	18	3	8	46
都市	2	4	12	15	6	7	46
計	4	9	22	33	9	15	92

$$X^2(5)=1.63 \text{ n.s.}$$

8) 死は、その人が立派にやりとげなければならない重要なできごとである

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	3	6	14	16	3	4	46
都市	5	4	19	11	2	5	46
計	8	10	33	27	5	9	92

$$X^2(5)=2.90 \text{ n.s.}$$

9) 死ぬと、その人は清められて生まれ変わることができる

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	4	6	13	19	1	3	46
都市	7	7	16	7	3	5	45
計	11	13	29	26	4	8	91

$$X^2(5)=8.23 \text{ n.s.}$$

10) 死ぬ時に、何かこの世に自分で納得のゆく大きな意味を残せるようにその人には精一杯生きてほしい

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	1	1	2	18	11	12	45
都市	1	2	4	12	13	14	46
計	2	3	6	30	24	26	91

$$X^2(5)=2.51 \text{ n.s.}$$

11) 死後、時間とともにその人の存在は帳消しになっていく

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	11	6	14	11	2	2	46
都市	14	9	12	7	2	2	46
計	25	15	26	18	4	4	92

$X^2(5)=2.00$ n.s.

12) その人は死ぬことによってすべてを失う

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	11	7	11	12	2	3	46
都市	5	8	10	15	3	5	46
計	16	15	21	27	5	8	92

$X^2(5)=3.40$ n.s.

13) その人の死は、その人が人生の素晴らしさを実感できるひとつの機会である

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	6	3	12	18	3	4	46
都市	5	8	13	13	2	5	46
計	11	11	25	31	5	9	92

$X^2(5)=3.51$ n.s.

14) 死はその人自身のすべての終わりである

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	11	2	13	12	1	7	46
都市	6	7	8	10	7	8	46
計	17	9	21	22	8	15	92

$X^2(5)=10.19$ $p < .10$

15) その人の死について真剣に考えることはあまりない

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	4	5	7	17	4	9	46
都市	0	5	9	12	8	12	46
計	4	10	16	29	12	21	92

$X^2(5)=6.87$ n.s.

16) その人の死について考えるのは難しい

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	1	1	6	17	7	14	46
都市	0	2	5	15	8	16	46
計	1	3	11	32	15	30	92

$X^2(5)=1.75$ n.s.

17) その人の死についてはよく分らない

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	2	1	5	19	7	12	46
都市	1	5	5	15	8	12	46
計	3	6	10	34	15	24	92

$X^2(5)=3.54$ n.s.

18) 死は、その人にとって苦しみの究極の姿である

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	7	9	13	8	4	5	46
都市	6	7	13	13	1	6	46
計	13	16	26	21	5	11	92

$X^2(5)=3.41$ n.s.

19) 死はその人がどう生きたのかの集大成である

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	3	1	9	26	1	6	46
都市	3	4	12	18	6	5	48
計	6	5	21	44	7	11	94

$\chi^2(5)=7.31$ *n.s.*

20) 死ぬまでにその人には何か生きた証を残してほしい

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	1	1	4	27	4	9	46
都市	2	2	8	20	5	10	47
計	3	3	12	47	9	19	93

$\chi^2(5)=3.20$ *n.s.*

21) その人の死は、私にとって最大の恐怖である

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	1	5	5	12	9	14	46
都市	2	1	7	8	12	18	48
計	3	6	12	20	21	32	94

$\chi^2(5)=5.02$ *n.s.*

22) その人の死について考えてもしかたがない

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	1	3	4	19	7	11	45
都市	2	4	9	19	4	10	48
計	3	7	13	38	11	21	93

$\chi^2(5)=3.17$ *n.s.*

23) 死がやってくるまで、その人の死について考えなくてもかまわない

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	1	2	10	15	4	12	44
都市	5	2	8	19	4	9	47
計	6	4	18	34	8	21	91

$\chi^2(5)=3.69$ *n.s.*

24) 死ねばその人はもっとよい世界へ行ける

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	7	3	11	19	3	3	46
都市	9	5	9	16	4	5	48
計	16	8	20	35	7	8	94

$\chi^2(5)=1.81$ *n.s.*

25) その人の死について考えると無性に恐ろしくなる

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	4	2	11	15	6	8	46
都市	2	1	10	11	12	12	48
計	6	3	21	26	18	20	94

$\chi^2(5)=4.42$ *n.s.*

26) その人が死んでもまわりの状況は何ひとつ変わらない

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	11	10	12	10	1	2	46
都市	17	5	10	13	3	0	48
計	28	15	22	23	4	2	94

$\chi^2(5)=6.49$ *n.s.*

27) 死とはその人が永久になくなってしまふことである

	1まったく反対	2かなり反対	3どちらかといえば反対	4どちらかといえば賛成	5かなり賛成	6まったく賛成	計
村落	6	9	15	9	1	6	46
都市	5	5	8	13	7	10	48
計	11	14	23	22	8	16	94

$$X^2(5)=9.55 \quad p<.10$$

<問31> あなたは現在の生活にどの程度満足していますか。あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	1満足していない	2あまり満足していない	3まあ満足している	4満足している	計
村落	36	67	313	67	483
都市	36	89	262	67	454
計	72	156	575	134	937

$$X^2(3)=6.74 \quad p<.10$$

<問32> あなたは、自分が正しいと思えば「世間の慣習に反しても、それを押し通すべきだ」と思いますか、それとも「世間の慣習に従ったほうが間違いがない」と思いますか。あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	1押し通すべき	2場合による	3慣習に従うべき	計
村落	18	427	43	488
都市	19	417	20	456
計	37	844	63	944

$$X^2(2)=7.47 \quad p<.05$$

F1 あなたの性別はどちらですか。あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	1男性	2女性	計
村落	239	255	494
都市	197	264	461
計	436	519	955

$$X^2(1)=3.07 \quad p<.10$$

F3 あなたに現在配偶者はいらっしゃいますか。あてはまる数字1つに○をつけてお答えください(内縁を含みます)。

	1いる	2現在はいない	3結婚したことはない	計
村落	397	42	49	488
都市	300	58	100	458
計	697	100	149	946

$$X^2(2)=32.60 \quad p<.001$$

F4 (1) あなたにお子さまはおられますか。あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	1いる	2いない	計
村落	420	69	489
都市	313	139	452
計	733	208	941

$$X^2(1)=37.78 \quad p<.001$$

(2) 「いる」とお答えの方におうかがいします。あなたのお子さまで中学生以下の方はおられますか。あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	1いる	2いない	計
村落	78	338	416
都市	79	233	312
計	157	571	728

$$X^2(1)=4.55 \quad p<.05$$

F5 (1) あなたはどなたと一緒に暮らしていますか。あてはまる数字すべてに○をつけてお答えください。

1.いない

	0 いいえ	1 はい	計
村落	479	15	494
都市	400	61	461
計	879	76	955

$$X^2(1)=38.84 \quad p<.001$$

2. 配偶者

	0 いいえ	1 はい	計
村落	114	379	493
都市	174	287	461
計	288	666	954

$$\chi^2(1) = 24.16 \quad p < .001$$

3. 実父

	0 いいえ	1 はい	計
村落	418	76	494
都市	412	49	461
計	830	125	955

$$\chi^2(1) = 4.74 \quad p < .05$$

4. 実母

	0 いいえ	1 はい	計
村落	380	114	494
都市	399	62	461
計	779	176	955

$$\chi^2(1) = 14.74 \quad p < .001$$

5. 義父

	0 いいえ	1 はい	計
村落	443	51	494
都市	457	4	461
計	900	55	955

$$\chi^2(1) = 39.29 \quad p < .001$$

6. 義母

	0 いいえ	1 はい	計
村落	418	76	494
都市	443	18	461
計	861	94	955

$$\chi^2(1) = 35.42 \quad p < .001$$

7. 結婚していない子ども

	0 いいえ	1 はい	計
村落	305	189	494
都市	286	175	461
計	591	364	955

$$\chi^2(1) = .01 \quad n.s.$$

8. 結婚している息子

	0 いいえ	1 はい	計
村落	409	85	494
都市	454	7	461
計	863	92	955

$$\chi^2(1) = 67.42 \quad p < .001$$

9. 息子の配偶者(嫁)

	0 いいえ	1 はい	計
村落	412	82	494
都市	455	6	461
計	867	88	955

$$\chi^2(1) = 66.71 \quad p < .001$$

10. 結婚している娘

	0 いいえ	1 はい	計
村落	479	15	494
都市	455	6	461
計	934	21	955

$$\chi^2(1) = 3.34 \quad p < .10$$

11. 娘の配偶者(婿)

	0 いいえ	1 はい	計
村落	480	14	494
都市	457	4	461
計	937	18	955

$$\chi^2(1) = 4.99 \quad p < .05$$

12.孫

	0 いいえ	1 はい	計
村落	401	93	494
都市	451	10	461
計	852	103	955

$$\chi^2(1)=68.76 \quad p<.001$$

13.ひ孫

	0 いいえ	1 はい	計
村落	493	1	494
都市	461	0	461
計	954	1	955

$$\chi^2(1)=.93 \quad n.s.$$

14.祖父母

	0 いいえ	1 はい	計
村落	467	27	494
都市	455	6	461
計	922	33	955

$$\chi^2(1)=12.39 \quad p<.001$$

15.兄弟姉妹

	0 いいえ	1 はい	計
村落	467	27	494
都市	420	41	461
計	887	68	955

$$\chi^2(1)=4.24 \quad p<.05$$

16.その他の親族

	0 いいえ	1 はい	計
村落	485	9	494
都市	458	3	461
計	943	12	955

$$\chi^2(1)=2.64 \quad n.s.$$

17.その他の人

	0 いいえ	1 はい	計
村落	487	7	494
都市	447	13	460
計	934	20	954

$$\chi^2(1)=2.30 \quad n.s.$$

F6 (1) あなたの現在のお住まいについてあてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	1一戸建ての持ち家	2賃貸のマンション・アパート	3分譲マンション	4社宅・官舎・寮など	5一戸建ての借家	6その他	計
村落	462	12	0	8	5	2	489
都市	169	149	100	18	16	3	455
計	631	161	100	26	21	5	944

$$\chi^2(5)=361.63 \quad p<.001$$

F8 あなたの現在のご職業はなんですか。あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	1農業	2林業	3漁業水産養殖業	4商工自営業	5会社員・団体の職員	6教育・福祉関係の教職員	7官公庁職員	8サービス業	9自由業
村落	117	0	2	29	53	25	21	12	2
都市	0	0	1	35	90	7	11	35	11
計	117	0	3	64	143	32	32	47	13

	10学生	11パート・アルバイト	12専業主婦(夫)	13年金受給者	14無職	15その他	計
村落	8	35	53	63	37	19	476
都市	14	58	65	62	46	8	443
計	22	93	118	125	83	27	919

$$\chi^2(13)=171.25 \quad p<.001$$

F9 全般的にいて、あなたの現在の健康状態はいかがですか。

あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	1全く健康	2かなり健康	3普通	4あまり健康でない	5全く健康でない	計
村落	59	90	228	81	18	476
都市	60	91	202	79	12	444
計	119	181	430	160	30	920

$\chi^2(4) = 1.70$ *n.s.*

F10 あなたのお宅の毎月の経済状態はいかがですか。あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	1非常に苦 労している	2やや苦勞 している	3どちらとも いえない	4あまり苦勞 していない	5全く苦勞し ていない	計
村落	43	137	144	123	29	476
都市	50	143	127	98	27	445
計	93	280	271	221	56	921

$\chi^2(4) = 3.58$ *n.s.*

F11 お宅ではこの1年に、世帯全体で、税込みでおよそどれくらいの収入がありましたか。

あてはまる数字1つに○をつけてお答えください。

	1.300万円未 満	2.300~500 万円未満	3.500~700 万円未満	4.700~900 万円未満	5.900~1100 万円未満	6.1100~ 1300万円未 満	7.1300~ 1500万円未 満	8.1500万 円以上	計
村落	109	131	81	48	37	19	21	16	462
都市	143	117	74	45	23	16	7	10	435
計	252	248	155	93	60	35	28	26	897

$\chi^2(7) = 16.92$ $p < .05$